

協同教育実践資料 7

犬山がめざす学力の追究

犬山市授業研究会 2007 年度の成果

犬山市授業研究会 著
杉江修治・水谷茂 監修

日本協同教育学会

犬山がめざす学力の追究

犬山市授業研究会 2007 年度の成果

犬山市授業研究会 著
杉江修治・水谷茂 監修

はじめに

本書は2007年度の犬山市授業研究会の成果をまとめたものである。

授業研究会の意義と活動経過は、本書のはじめの稿「犬山市授業研究会がめざす研修—研究的な実践を通して育つ犬山の教師」にまとめられている。若干の内容の重複もあるが、本書の出版意図について触れておきたい。

この研究会の何よりの特徴は市内4中学、10小学校の教師たちが自由に交わり、研修し、最後に成果を発信する形で研修を終えるという研修スタイルである。学校の中での教師集団づくりの意義は述べるまでもなく重要である。それに加えて、教師たちが学校の外で連携し、共に高め合う機会がさらに設定されているのが、犬山の教育改革の側面のひとつなのである。学校間交流の機会は、各校の実践公開を広く知らせ合う形でも設けられている。

2001年度から始まったこの研究会の成果は、すでに『犬山の少人数授業—協同原理を生かした実践の事例』（一粒社刊 2005年）という形で単行本になっている。また、論文の形で発表されているものも多い。

実践研究は積み重ねが必要である。成果は教師個人の内にとどまればよいというような風潮が日本の教師文化の中にはある。これまでは、学校を構成する教師集団として、さらには地域をあげての教育の質の高まりをめざして、実質的な教育改善が図られるという文化がなかった。そのような文化づくりこそが教育改革の核心であるようにも思われるのである。

制度いじりに終始するわが国の教育政策の貧しさは、一人ひとりの子どもたちに届く実践の場で補っていかなくてはいけない実態がある。政策の改変に対しては、子どもの成長に立場を絞って捉え返す、教師の主体的な対応が必要である。教師が学校の中で、また学校を越えて連携し、教育の本質に迫る挑戦を継続する機会は、教師の主体性を伸ばす貴重な機会でもある。

本書にある研究的実践では、授業づくりにあたって、めざす学力への意識づけが自然になされている。教師が教える授業ではなく、子どもたちが主体的に学ぶ仕掛けづくりに満ちた実践の試みを、ここに豊かに見出すことができる。それは犬山の授業実践の特長である。

犬山の授業改善は、算数をはじめとする少人数授業から始まった。しかし、本書に見られる教師たちの関心は大きく広がっている。2001年からの7年間という期間の長さや成果とのかかわりをどう評価するかという課題もあるが、地道な実践が定着し、豊かさを増してきていることは事実である。

この研究会は2008年度も継続して進められている。次の成果もまた楽しみとしたい。

2008年7月

犬山市教育委員会客員指導主幹
中京大学教授

杉江修治

目次

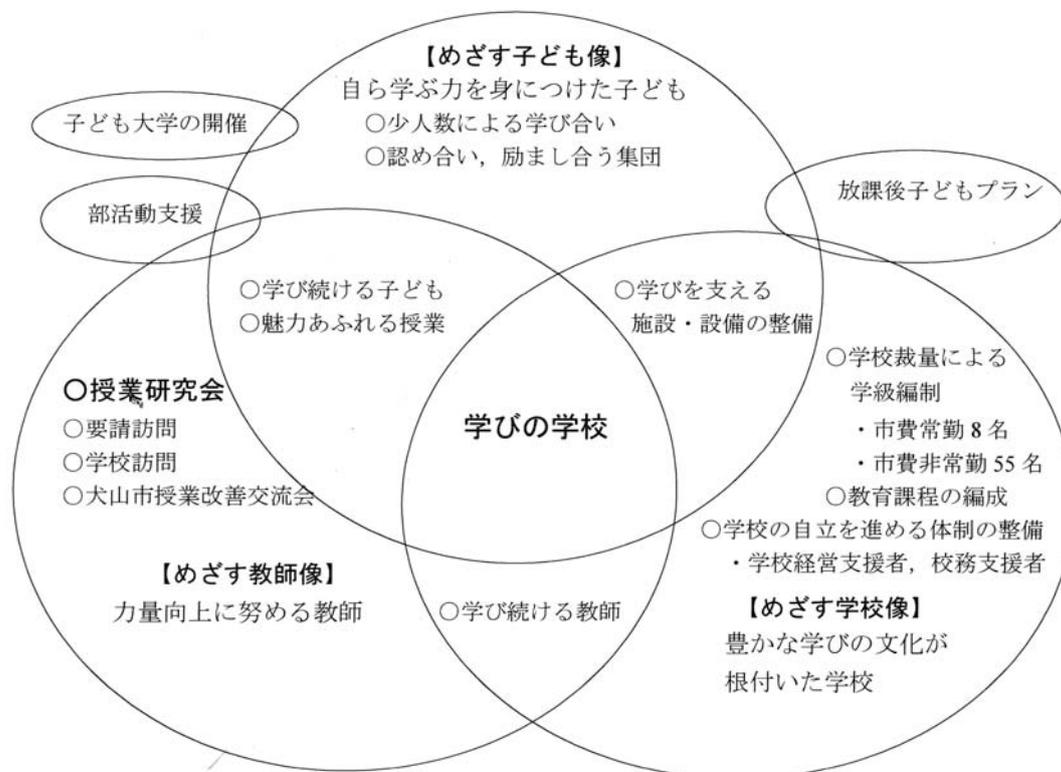
はじめに	4
犬山市授業研究会がめざす研修	6
— 研究的な実践を通して共に育つ犬山の教師	
伝え合い。響き合う国語の授業	9
— ペアで聞き合う活動を取り入れた実践	
「共に学び合う楽しさ」や「分かる喜び」が感じられる授業づくりをめざして	42
— 子ども一人ひとりが活躍できる授業・少人数授業を通して	
子どもたちがかわり合って学習する授業の実践	59
— 「学び合い」の授業の基盤を創り上げるために	
高め合うことのできる仲間づくりをめざして	72
— 学び合いを深める有効な手段について	
学び合いを確立するための様々な実践の積み上げ	100
— 学校行事を通しての学び合いの実践	
地域素材を活用することで学ぶ意欲を引き出す	114
— 犬山の地層とモンキーセンターの活用を通して	

犬山市授業研究会がめざす研修

研究的な実践を通して共に育つ犬山の教師

1 犬山市授業研究会のねらい

犬山の教育は、人格の形成と学力の保障をめざし、「自ら学ぶ力」をその重要な柱と位置づけている。「自ら学ぶ力」を育むために、それぞれの学校は、子どもの実態や地域の実情に応じた「学びの学校」を実現するために工夫を重ねながら、子どもの学びを高め続けようとする文化を学校に根付かせていくことに努めなければならない。さらに、一人ひとりの教師は、子ども同士・子どもと教師の信頼に支えられた人間関係を基盤として、教科の目標達成だけでなく、その過程で起こる人間関係についても学びの対象としながら、子どもたちが幅広い学力を形成できるように力量向上を図ることが求められている。犬山市授業研究会は、熱意ある各学校の教師が集い研究的な実践を持ち寄り、交流しながら共に育っていく教師の研修装置である。さらに研究会で得られた成果が各学校の校内研究に紹介され、新たな視点や手法を生み出し学校全体を活性化させていく。あたかも縦糸と横糸を紡ぎながら織物を織るように豊かな授業を創り上げていく重層的な取り組みでもある。



犬山のめざす教育

2 授業研究会の進め方

小グループによる研究的実践を1年間継続して行う。年間を通して原則的に毎月1回開催する（長期休業中も含む）。小学校部会は低・中・高学年を考慮したグループで編成し、中学校部会は教科の壁を越えたグループを編成する。研究会の進め方は、各会員がグループごとに設定した研究テーマに沿った実践を持ち寄り、グループ協議で交流を図る。その後、全体会でグループの研究の進捗状況を報告するとともに市教委客員指導主幹の杉江先生の指導・助言を受ける。各会員はそれを自分の学校へ持ち帰り、次の実践に生かす研究的な構えで研究を深めていく。各グループの研究の成果は、研究論文の形として年度末に作りあげる。毎回の研究会の様子や各グループの取り組みの状況は、『授業研究会だより』を発行し、幅広く犬山市の教員に知らせる。

さらに、参加者の枠を広げた公開授業研究会を開催し、会員以外にも広く参加を呼びかけ、どのように子どもの豊かな学びを創りあげていくか授業づくりについてヒントを掴むことのできる場を提供し啓発に努める（平成20年7月に実施した公開授業研究会には市内外から90名の教師が参加した）。

3 成果と課題

犬山市では、「犬山の子は犬山で育てる」という理念のもと、子どもの人格形成と学力の保障をめざし、少人数学級や少人数授業、ティームティーチングによるきめ細かな指導、犬山市で独自に作成した副教本の活用（算数、理科、国語）、二学期制の導入などさまざまな教育改革を進めてきた。授業研究会もこの教育改革の一環として平成13年度よりスタートしている。学校の枠を超えて教師同士がお互いに学び合い高め合う場を提供し、犬山の「学びの学校」づくりの特徴を創り出してきた。19年度は小学校教員24名、中学校教員4名、合計28名の教員が授業研究会に自主的に参加し、1年を通してグループで立てた研究テーマに沿って研究的実践を積み重ねた（20年度は、小学校教員26名、中学校教員12名、合計38名の教員が参加）。特に19年度は、ベテラン、中堅、若手の教員がバランスよく参加したことで、それぞれの経験ややる気、若さがお互いを刺激し、教員同士が学び合い高め合う研究を継続的に追究することができた。各グループの実践は、教師が教え込むような一斉指導ではなく、子ども同士、子どもと教師の信頼関係を基盤とした協同学習を取り入れ、単元を見通した学び合いの授業を創り上げる研究を展開した。教科も、特定の教科に偏ることなく、図工や総合的な学習、特別活動など、学校生活全体にわたって幅広く研究を進めてきた。そこでは、一人ひとりの子どもを個別に切り離して理解するのではなく、集団を育てる中で個人が育つという認識の深まりが見られた。一人ひとりとは集団全体が高まることで伸びていくのだという理解に立ち、協同学習を通して、教科の学習目標とそれを習得する過程で得られる協同的な学習態度の目標を同時に達成しようとする研究的実践が多く見られた。特に、本年度、各グループが力を入れて取り組んだのが評価である。目の前の子どもの姿を捉え評価した内容を、次の学習に生かす取り組みをめざした。日常的に自己評価や相互評価、あるいは教師、親等による評価を取り入れ、自分の進歩を実感し、次の学習への動機づけを強化する取り組みを推進した。

19年度の取り組みでは、子どもの学び合いも研究的な実践の中心に置いていた。学び合いについては、さまざまな工夫が生まれ、子どもたちが豊かに学び合う学年に応じた姿が見られたが、各教科の目標、各授業で追究する学力という点についての追究がまだまだ弱いところがある。教科書を教えるという範疇に留まっている実践も見られた。20年度は、それぞれの教科の目標をしっかりと吟味して、個々の単元あるいは個々の教材を通してどのような学力を付けようとするのかを明確にした研究に取り組む必要がある。さらに、授業研究会と各学校の校内研究とリンクさせ、それぞれの取り組みを交流しながら学びの学校づくりに生かす取り組みについて積極的に実践し、犬山全体の活性化を図る方向性もちたい。

犬山市教育委員会指導主事 水谷 茂

伝え合い、響き合う国語の授業

ペアで聞き合う活動を取り入れた実践

齋藤 友希（城東小学校）

瀧 敏秀（池野小学校）

戸田 道也（楽田小学校）

浅輪 郁代（犬山北小学校）

はじめに

国語の授業は難しい、読み取りの授業はとりわけ難しい、という悩みや、教師がしゃべりすぎる、教師の意図で引っ張ろうとする、という反省の声。これらは、国語にまつわる小学校教師にとっての昔から変わらぬ課題である。国語の授業で、児童の声や思いを生かせるようになりたいという願いは共通ではないだろうか。

今年度このような思いをもった、新任から4年目までの若い教師達を中心としたメンバーが集い、犬山市授業研究会において、それぞれの実践を持ち寄り、試行錯誤しながら研究をスタートさせた。

1 主題設定の理由

研究をはじめた当初、若い教師達は国語では教師対児童の一斉授業を行っていた。その結果、一部の児童の意見を採り上げ、教師の意図に合うところで結論を出し、学習が完結していくという、多くの教室で長年行われてきた学習形態を踏襲していた。しかし、犬山市が提唱するような「自ら学ぶ力の育成」は、すべての教育機会で一貫させることが必要である。このことを考えたとき、これまでの授業パターンから脱却したいという思いが強くなった。

物語の読み取りにおいてどんな考えをもつかということは、個々の体験や人生観によって違ってくる。それを一つにしてしまうということに無理があることを考慮しなければならない。また、教師がどのような考えを求めているのかを探るような話し合いではなく、児童が心から本音で意見が言えるようにするためには、普段から多様な考えを認める雰囲気が必要である。自分の思いを自由に表現し、また、友だちの意見から学び合うことができる、そんな学習スタイルをめざしたいと考えた。

そこで、先行研究として、ゆるやかなペア交流を取り入れた学習活動を実践してきた浅輪の授業スタイルを基に、それぞれの授業スタイルの形成に取り組むことにした。

2 研究のねらいと仮説

犬山市では、グループで話し合うことや、意見をまとめることが一般的に多く行われており、

算数ではほとんどといってよいほどこの学習パターンが取り入れられている。しかし、この方法を国語に取り入れようとしても、国語の読み取りの場合は個々の思いや表現が違うため、グループで考えをまとめることは難しい。グループで話し合いをすると、どうしても人間関係や他教科での印象に引きずられたり、多数決で決めがちになったりするのである。どう読み取るかということ以外の要因によって左右される場面がよく見られる。

そのため、人間関係や集団心理の影響をなくするために、意見交換はペアを基本とした。しかし、一人と意見交換しただけでは情報量が少ないため、ペア交流を繰り返すことによって、より多くの考えに触れられるようにした。また、友だちからの情報を活かして最終的に考えをまとめることを前提とすれば、主体的な学習に取り組む意欲ももてるのではないかと考えた。

そこで、次のように仮説を設定した。

仮説：ペアの交流を取り入れて、1対1の関係で友だちの考えをしっかりと聞き合う活動を、学級内のより多くの友だちと繰り返し行うことで、児童は主体的に学習に取り組み、読みは深まるだろう

3 研究の構想

浅輪は、2005年に前任校犬山市立東小学校で、3年生国語「サーカスのライオン」の単元で「ペア交流を取り入れた読解の授業」の実践をした。この実践は次頁の図1に示した流れで行った。

この時の実践で得られた児童の感想をデータにまとめたものが図2である。この感想データは、複数選択を可としたものである。上位7項目は肯定的な意見、下位4項目は否定的な意見である。一番支持が多かった「いろいろな意見が聞けていい」というのは、一斉隊形ではなく、個々に自由に動きながら聞くため、聞くこと自体を楽しんでいたと思われる。交流した人数は、図3のように読み取りの1時間目が平均3名に対し、経験が増した6時間目には平均5名を超えている。

いろいろな友だちの考えを聞けるように、児童には名簿を渡し、一巡するまで同じ友だちのところに行かないというルールを定めた。交流人数の平均人数を足すと30人を超えている。29人学級だったので、ほぼ全員が一巡したことになる。多くの友だちの考えを聞こうとする主体的な取り組みが見られたと言える。

図2の結果で次に着目したのは、「最初自分が書いた考えより分かった」という感想が80%を超えていた点についてである。この結果から、ペア交流を繰り返すことによって得られた考えを生かすことで、より深い読解ができるということが言えるのではないかと考えた。

今回の授業研究では、2年生～3年生を担当するメンバーであった。仮説を検証するためにペア交流を取り入れた授業をすることにした。この研究グループのメンバー4人で確認したのは、次の点である。ただ、2年生の対象学級では学級全体で動くことに不安があったため、自分の座席近くの友だちとペアを組むことにした。授業設計にあたっての原則を3つ立てた。

- ①ペア交流を取り入れること。
- ②1時間の中には自分の思いを込めた取り組みを入れること。
- ③最終的な考えを教師でまとめないこと。

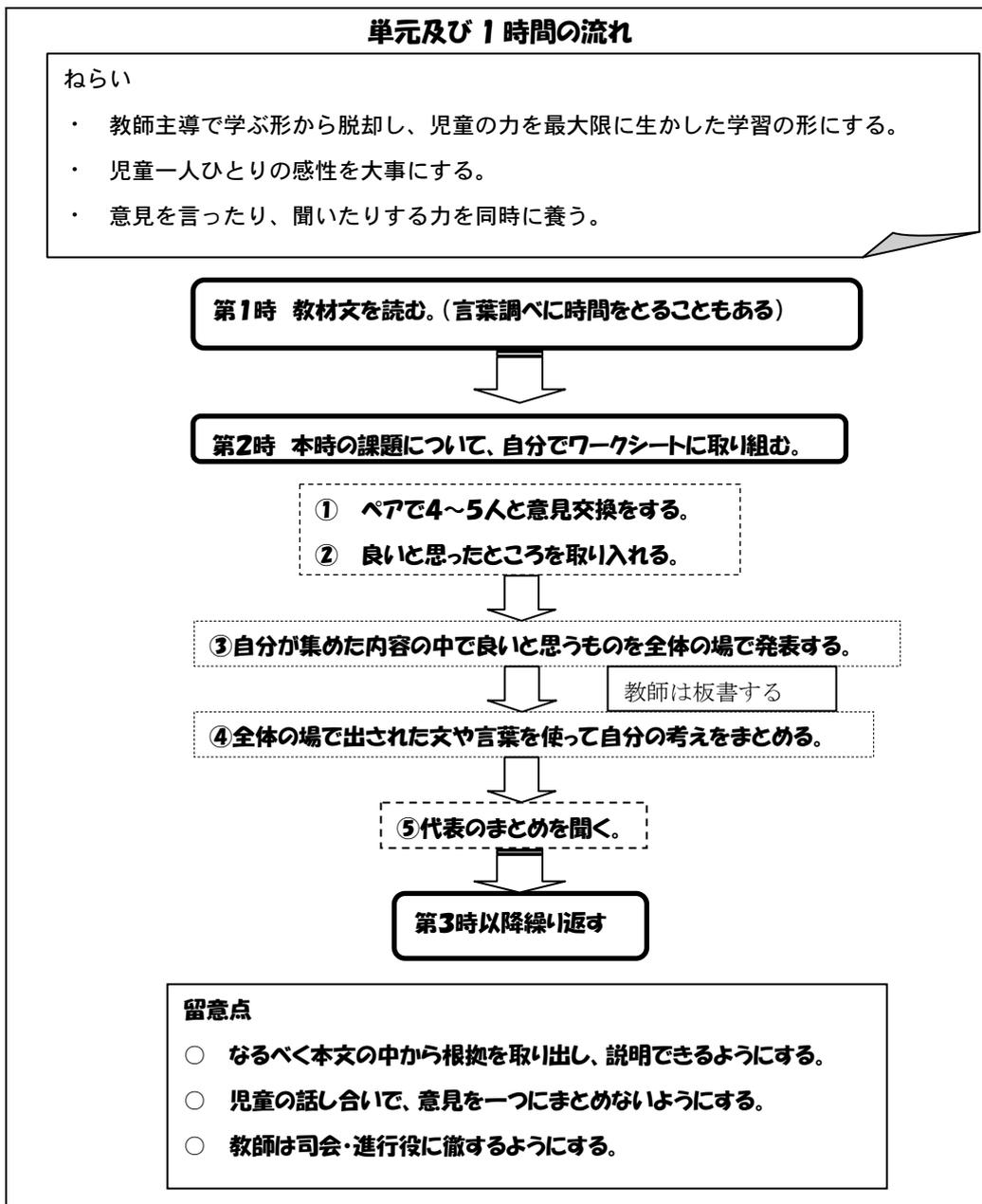


図1 浅輪の授業の流れの基本形

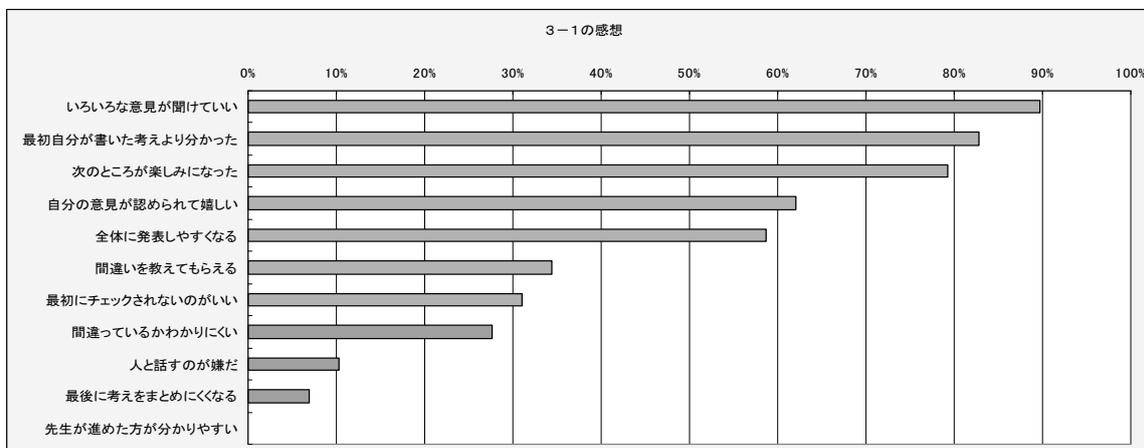


図2 授業の後の児童の感想

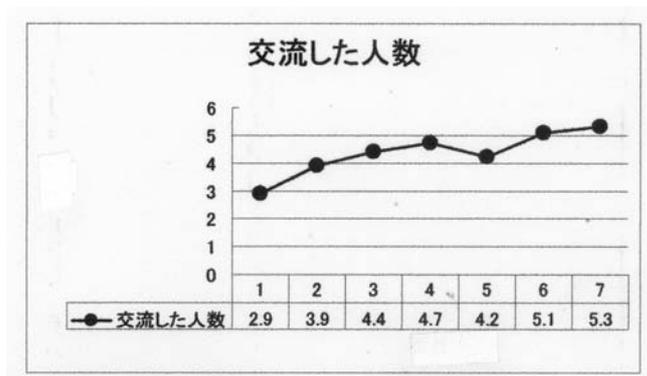


図3 毎回交流した人数の学級平均

4 研究の実際

実践1 2年 国語 「かさこじぞう」

(1) 児童の実態

本学級には男子15名、女子13名が在籍している。明るく活発な児童が多く、ほとんどの児童が外で遊ぶことが大好きである。最近では、休み時間になると学級のみんなを誘って運動場へ出かけていく児童がおり、大勢で仲良く遊ぶ姿も見られるようになった。しかし、体を動かすことが好きなだけに、じっとしていることが苦手でもある。そのため、進んで読書をするのが少なく、読書が嫌いだという児童も少なくない。そういった児童の多くが、文章を読むことが重要な学習内容である国語の授業に苦手意識をもっており、集中して学習に取り組むことができなかつたり、文章の内容が読み取れなかつたりする。

今回の実践では、自分の考えを友だちとペアになって交流してからもう一度考えをまとめる活動を取り入れる。交流によって、新しい考え方を知ったり、自分の考え方を見直したりすることができるため、考え方の幅が広がる。その後でもう一度自分の意見をまとめるので、はじめの考えよりも深い読み取りができるようになると思われる。

(2) 先行単元の状況

これまでに、「のはらのシーソー」や、「雨の日のおさんぽ」「ニャーゴ」「名前を見てちょうだい」といった物語単元を扱ってきた。どの単元でも、登場人物の心情を推し量ってワークシートに記入し、グループで意見交換をするという流れを柱として授業を行い、内容に合わせて役割演技を取り入れたり、音読発表を行ったりした。説明文よりも物語文のほうが好きだという児童が多いこともあり、物語の世界に入って登場人物の心情を想像することができたのだが、グループでの意見交換が思うようにならず、なかなか学びが深まらなかった。

その原因の一つには、自分の意見に自信をもつことができないことがあるだろう。いい意見をもっていてもそれを主張することができず、内容の良し悪しに関係なく、上手に発言できる児童の意見や、支持する人数が多い意見に引きずられてしまうことがしばしばあった。

加えて、グループで話し合いをするとき、一つの意見に集約しようとしてしまう児童が多く、

どの意見がよいかを多数決で決めようとするグループがしばしば見られた。一つの正解を導き出すためではなく、自分とは異なる考え方を知って考えを深める目的でグループ活動を取り入れたのだが、そのねらいが達成されずに終わる結果となった。

そこで、本実践で扱う「かさこじぞう」では、「多数決にならない」というペア交流の利点を活かし、児童が互いに高め合うことのできる授業をめざした。

(3) 研究授業の実践

1) 授業の手だて

「かさこじぞう」でとった手だては、以下の通りである。

- ・昔話ならではの言い回しや表現のおもしろさを感じることができるよう、一斉読みやペア読み、役割読みなど、いろいろな方法で繰り返し音読を行う。
- ・認め合い、高め合うことができるように、ペアになって互いの意見を伝え合い、よいと思った友だちの意見を全体場で発表する。
- ・学習の見通しを持ち、意欲を持って取り組めるように、振り返りカードに本単元での学習内容とその流れを示す。
- ・主体的に活動できるように1時間の学習の流れをパターン化し、それを図4のような図に示す。

そして、読み取りの中心課題は次のようにした。

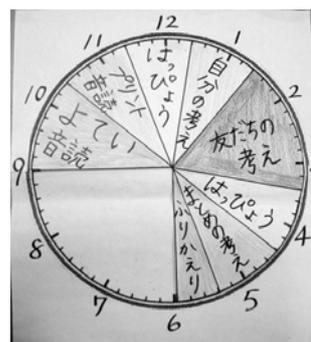


図4 授業の流れの図

第4時 じいさまとばあさまは、かさこを作りながらどんなことを話していたでしょう。

第5時 じいさまはどんなことを考えながら(大年の市から)帰ったでしょう。

第6時 (じぞうさまにかさこをかぶせた後)じいさまは、うちに帰りながら、どんなことを考えていたでしょう。

第7時 じいさまとばあさまは、もちつきのまねごとをしながらどんなことを話していたでしょう。

第8時 のき下に米のもち、あわのもちのたわらなどがおいてあるのを見たとき、じいさまとばあさまはどんなことを思ったでしょう。

学習パターンの基本は以下のようなものである。

- ① 全文の音読 (ペア)
- ② 本時で学習する場面の音読 (個別)
- ③ 最初の課題—ワークシート記入→隣同士で確かめ→発表
- ④ 二つ目の課題 (中心課題) —自分の考えをもつ
- ⑤ 友だちと意見交換を繰り返す (ペア交流)

- ⑥ 全体で話し合う（全体交流）
- ⑦ 最終的な自分の考えをまとめる
- ⑧ 代表（教師指名）の考えを聞く
- ⑨ 振り返りをする

2) 授業例（6/19時）

①目標

- ア. 場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。（読む能力）
- イ. 友だちと意見を伝え合い、相手のよいところを見つけることができる。（話す・聞く能力）

②学習過程

学習形態：個—個別 ペ—ペア 斉—一斉

	学習活動	教師の活動と支援	評価（評価方法）
つ か む 7 分	1 全文を音読する。 <input checked="" type="checkbox"/> ペ 2 前時までに読み取ったことを確認し、本時の学習の見通しをもつ。 <input checked="" type="checkbox"/> 斉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> じぞうさまにかさこをかぶせて家に帰るじいさまのようすや 気持ちをそうぞうしよう </div>	○隣の子と一文ずつ交代で読み、終わったら各自が音読するように言う。 ○授業の流れを説明し、本時は第三場面について読むことを伝える。	○これまでの学習を振り返ることができたか。（発言・表情）
と り く む 35 分	3 第三場面を音読し、じいさまの行動をワークシートに記入する。 <input checked="" type="checkbox"/> 個— <input checked="" type="checkbox"/> ペ 4 じいさまの行動を発表する。 <input checked="" type="checkbox"/> 斉 5 かさこをかぶせ、家に帰るじいさまの気持ちを想像し、ワークシートに記入する。 <input checked="" type="checkbox"/> 個	○立って音読し、読み終わったら座り、じいさまがじぞうさまにしたことをワークシートに記入するよう指示する。 ○記入が終わったら、隣の子とペアになり確かめ合うように伝える。 ○じいさまの行った行動と、そのときじいさまが言ったことを順におさえる。 ○じいさまが見たじぞうさまの様子や、じぞうさまに対するじいさまの思いやりのある行動を確認する。 ○ワークシートの「自分の考え」の欄に記入するように指示する。 ○じぞうさまに会う前の「とんぼりとんぼり」帰るときの気持ちと比べてどうなったか考えるよう促す。 ○思いつかない児童には、じいさまの「これでええ、これでええ」という言葉や「やっとなんして、うちに帰りました」という部分に注目することを助言する。	○じいさまの言動を順序に気をつけて確認できたか。（ワークシート） ○安心して帰るじいさまの気持ちを想像することができたか。（ワークシート）

	<p>6 ペアになり、意見を交換する。 <input type="checkbox"/> [学び合いA]</p> <p>7 友だちの意見で、よいと思うものを発表する。 <input type="checkbox"/> [学び合いB]</p> <p>8 最終的な自分の意見をまとめる。 <input type="checkbox"/></p>	<p>○隣同士でペアになり、考えを伝え合うことを指示する。そのとき、ワークシートの「友だちの考え」の欄に相手の名前と考えをメモするように促す。</p> <p>○隣同士での交流が終わったら、前後や斜めでペアになるように伝える。</p> <p>○よいと思ったのはどんな意見か、またそれは誰の意見かを発表するように言う。</p> <p>○ペアでの交流や全体発表で聞いた意見を参考にしながら、「まとめの考え」の欄に記入することを伝える。</p> <p>○書き終わったら、じいさまはどんな人か想像し、ワークシートに書くよう促す。</p> <p>○うまくまとめられた児童を指名し、発表するように言う。</p>	<p>○自分の意見を伝え、相手の意見をきちんと聞くことができたか。(発言・表情)</p>
<p>まとめ 3分</p>	<p>9 次の予告の予告を聞き、本時の学習を振り返る。 <input type="checkbox"/></p>	<p>○次の時間は第四場面について読むことを伝える。</p> <p>○振り返りカードに自己評価を記入するよう言う。</p>	<p>○学習を振り返り、自己評価することができたか。(振り返りカード)</p>

③評価

- ア. 場面の様子を思いうかべ、安心して帰るじいさまの気持ちを想像することができたか。
- イ. 友だちの意見を聞き、よいところを見つけることができたか。

3) ペア交流について

今回はグループではなく、ペアでの交流を取り入れた授業を行った。自由に交流させたいところではあるが、混乱を避けるため、指定した列の児童が席を1つずつ動きながら数人と交流する方法をとった。交流の様子を見ると、グループで活動するときあまり発言しない児童でも、自分の意見をペアの相手に一生懸命説明しており、グループでの交流のときより積極的に取り組む児童が多かった。どちらの意見がよいか決めようとする児童もおらず、お互いの意見を認めることができたようだった。

本学級には、よい意見をもっているが普段進んで発表することができない児童が何人いる。しかし、今回ペアでの交流を行ったことで、交流した相手がその意見のよさに

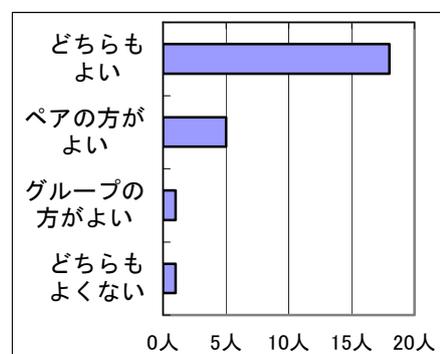


図5 グループ交流とペア交流とではどちらがよいか

気づき、全体場で発表して広めるということができた。このように、友だちを認めようとする雰囲気や活気が生まれ、全体的に挙手の回数も増えたので、ペアでの交流と合わせ、普段よりも多くの児童の意見が仲間に示された。

単元が終わった後に行った、意見の交流の仕方についてのアンケートの結果（図 5）からも、ペアでの交流に対して、ほとんどの児童が肯定的な態度を持ったことが分かった。

今までとは異なる交流の仕方であるため、慣れるまでは戸惑う児童がいたが、パターン化された授業が続くうち、次第にスムーズに交流できるようになった。振り返りカードで示す学習計画は学習の意味の把握につながり、学習の流れの掲示は時間を意識するよいきっかけとなり、自ら積極的に学習活動に取り組む児童が増えた。

4) ワークシートの変化

「まとめの考え」では、ほとんどの児童が、ペア交流や全体発表のときに聞いた友だちの意見を参考にして、最初に書いた「自分の考え」に付け足しをするか、まとめ直すかしており、「自分の考え」と全く違う意見に変えた児童は少なかった。そのため、当初の「自分の考え」と比較すると、「まとめの考え」の方が幅広い考えを記入してある児童が多かった。以下はその例である。

<p>Aのワークシート</p> <p>自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none">・かさこ売れなかったな。ばあさまはかなしむじやろうのう。 <p>友だちの考え</p> <ul style="list-style-type: none">・じぞうさまはあったかくなかったかな。・じぞうさまはきっとよろこんでくれているだろう。・いいことをした気がする。 <p>まとめの考え</p> <ul style="list-style-type: none">・は一、かさこは売れなかったけど、いいことしたな。
<p>Bのワークシート</p> <p>自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none">・さむいのう。早く家に帰ろう。 <p>友だちの考え</p> <ul style="list-style-type: none">・これでじぞうさまたちは、どんなに雪がふってもあんしんだ。・もうそろそろ家に帰ろう。・これでいいと思うが、ばあさまは何と言うかのう。 <p>まとめの考え</p> <ul style="list-style-type: none">・早く家に帰って、じぞうさまにかさこをかぶせたことをばあさまに話そう。
<p>Cのワークシート</p> <p>自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none">・じぞうさま、だいじょうぶかな。 <p>友だちの考え</p>

- ・かきこは売れなかったけど、やくにたってよかったな。
- ・じぞうさまのことを、ばあさまに教えてあげよう。
- ・ばあさまは何と言うかな。

まとめの考え

- ・早く家に帰って、じぞうさまにかきこをかぶせたことをばあさまに話そう。
- ・じぞうさまたちは、どんなに雪がふっても安心だ。
- ・これであんしんした。

「自分の考え」と「まとめの考え」の内容の変化を見てみると、ペア交流やその後の全体での発表の中で聞いた意見のうち、多くの意見に共通するものや、自分と似ている意見を最終的な意見に生かす児童が多かった。そのため、「自分の考え」よりも、「まとめの考え」の方が全体的によく書けており、内容のずれが修正されている場合もあった。

ペア交流やその後の発表で聞いた意見のうち、全体での発表で聞いた意見は特に印象に残ったようで、「まとめの意見」にも多く反映されていた。たとえば、Aの「まとめの考え」に含まれている「いいことをした」という意見や、BとCの「まとめの考え」に共通している「早く家に帰ろう」、「じぞうさまにかきこをかぶせたことをばあさまに話そう」という意見は、全体の場で発表されたものである。

5) 児童の感想

昔話独特の語り口を気に入ったようで、多くの児童が楽しく音読に取り組めた。登場人物の気持ちを想像するとき、本文と同じような口調で考えることができた児童も多く、物語の世界にうまく入り込めたようだった。振り返りカードの感想の欄を見ても、「おもしろかった」「いいお話だと思った」「むかし話の勉強は楽しい」などの意見が多く書かれていた。

単元の終了後、自分の読み取りについて振り返る形でアンケートを行った。図6はその結果である。ほとんどの児童が、友だちの意見を聞いて考えることができたと答えており、その結果、7割以上の児童が、ペアでの交流により、最初の考えよりもまとめの考えが深まったと答えている。

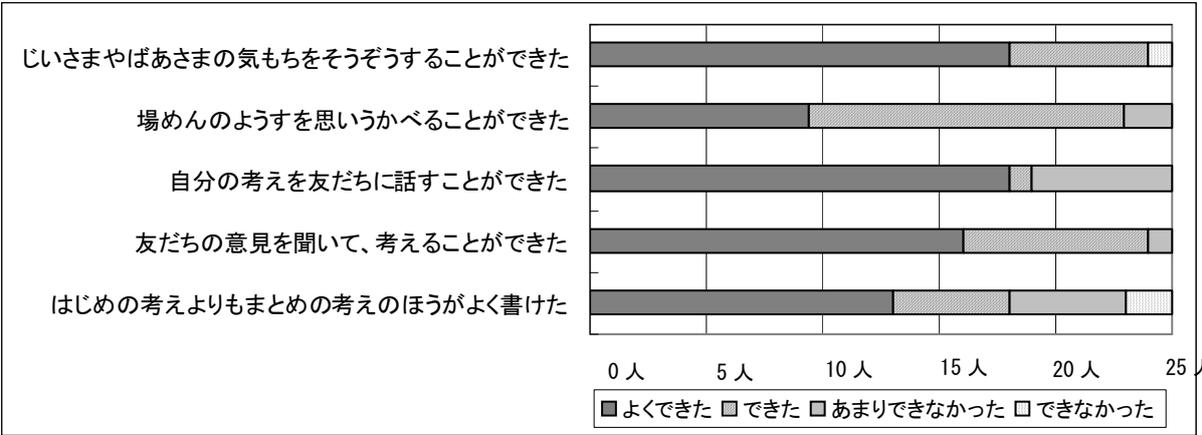


図6 読み取りについてのアンケート結果

6) 授業を参観した指導者からの助言

- ・授業の流れを時計の図に示したことで、児童が活動の内容や順序を掴むことができた。
- ・グループではなくペアで意見を交換することで、児童が積極的に話し合うことができた。
- ・自分の考えを持ってから友だちの意見を聞き、それを参考にもう一度考えることで、高め合うことができた。「自分の考え」よりも「まとめの考え」で意見が増えていたのがよかった。
- ・友だちのよいところを発表する機会を作ったのがよかった。
- ・全文の音読は、時間がかかるのでやめた方がよいのではないか。
- ・ワークシートは、挿絵を増やしたり、吹き出しに書き込むようにしたりして、物語の世界に入り込みやすい形式にするとよい。
- ・ペア交流の繰り返しだと時間がかかってしまうので、グループで意見を言う順番を決め、それを聞き合う方法もある。

(4) 考察

今回の取り組みを振り返ると、いくつか成果がみられた。まず、ペアで活動することで、グループでの意見交換より児童が積極的に取り組むことができたことである。1対1で友だちに自分の考えを伝えることや、相手の考えを聞くことに対する意識も高まり、どの児童も一生懸命話し合うことができた。

ペアでの交流のあと、よいと思った友だちの意見を発表したことにより、自分の意見を認めてもらえた児童は自信を持つことができ、発表のときのクラスの雰囲気もよくなった。発表する側も友だちの意見を楽しく発表することができたため、挙手や発言が増え、たくさんの意見が発表された。特に、普段進んで発表できない児童の意見も聞くことができたので、この発表の方法のねらいが達成されたといえる。

こうしてペアでの交流や発表によって友だちのさまざまな考えを知った後、自分の意見をまとめ直す時間を設けたことにより、多くの児童の読み取りが深まった。友だちの意見に耳を傾けることや、友だちのよさを認めながら学習しようとする意識が高まり、学び合い、高め合う授業に一步近づいたと感じている。

今後の課題としては、まずは時間配分の工夫が必要である。音読の方法や範囲、回数を精選したり、登場人物の発言や行動などの押さえ方を工夫したりして、中心課題や交流にじっくり取り組むことができる時間を確保できるようにしたい。

今回は、交流の仕方やねらいを分かりやすく示すため、中心課題の部分では吹き出しや挿絵を減らし、シンプルなワークシート作りを心がけた。その結果、交流するとき大きな混乱はなかったのだが、見た目が少々淡白だったため、何人かの児童にとっては「難しそうだ」という印象を与えてしまった。児童が意欲的に中心課題に取り組み、なおかつスムーズに意見を交流することができるようなワークシートの形式を考えていきたい。

齋藤友希

実践2 2年 国語 「かさこじぞう」

(1) 児童の実態

本学級児童は男子14名、女子16名で構成されている。クラスの目標は、「みんななかよく元気よく」を掲げ、学級活動や学び合いを通して全員の児童がクラス目標を達成できるように取り組んでいる。

夏休み前に比べると、自分で考えて行動することができるようになってきた。学習にも興味を持ってきており、算数ではグループでたし算、ひき算の筆算の学び合いの学習に意欲的に取り組むことができた。また、日常生活でも相手の話を聞いたり、自分のことを話したり、少しずつできるようになってきた。

今回、ペア学習を行うことで、今以上にペア、学級内での発表を活発にし、「聞き上手」「話し上手」になるようにしていきたい。

(2) 先行単元の状況

10月に物語教材「名前を見てちょうだい」を行った。授業では、主人公えっちゃん以外の登場人物の気持ちを想像するのは初めてのことであった。したがって、えっちゃんの気持ちは書くことができるが、きつねの気持ちはどのように書いたらいいのか分からない児童も多かった。机間支援の中で助言をすると、ハッと気づいたように書きはじめる児童もいた。

授業が進むにつれて、牛や大男そして大きくなったえっちゃんの気持ちも考えることができるようになっていった。時間が進むにつれ、書くスピードも上がり、書く内容も増えていった。以前より読み取る力も付いてきたと感じた。

登場人物の気持ちを教師の助言なく書くことはできていったのだが、課題として残ったのは、気持ちをあきらかに間違えて読み取る児童もいたことである。例えば、大男に出会った牛は、帽子を食べられて驚き逃げているので「どうしよう。食べられちゃうよ」という気持ちを書く児童が多かったのだが、一方で「帽子をかえせ」と答える児童もいた。かれらに、いかにしてよりの確な読み取りに気づかせるかが課題であると考えた。

(3) 研究授業の実践

1) 授業の手立て

これまでの実践では「学習課題と回答が合っていない児童に、間違いに気づかせるためにはどうするか」という課題が残った。そこで、今回は間違えている意見に対しては仲間同士で「それは、違うと思うよ」と言い合える環境を作っていきたいと考えた。今回から新しく2つのことに挑戦することにした。

①ペア学習の導入

間違えた意見に対して互いが指摘し合える環境を作るには、グループよりもペア学習の方が効果的であると考え、今回取り組むことにした。毎時間、隣同士で話し合うのだが、毎回相手を変えることで多くの人と話し合えるようにした。一人ひとりが、積極的に話し合える授業ができる

と考える。

②ロールプレイの導入

ワークシートでは、じいさまとばあさまの気持ちを想像することが問われる。その前に、ロールプレイを行うことで、実際に自分たちがより深く物語の世界に入り込むことによって場面や状況を想像しやすくなると考えた。また、物語に愛着が湧き、次の授業もワクワクした気持ちで臨めると思われる。

2) 授業例 (4/18)

①本時の目標

大年の市へかさこを売りに行くじいさまの気持ちを想像することができる。

②学習過程

形態	子どもの活動	指導上の留意事項及び子どもへの配慮
	1 本時の目標を確認する。 市へ行くじいさまの気持ちをそうぞうしよう	
グループ	2 グループごとに、pp. 64～66を丸読みする。 ・今読んだところで、心に残ったところに線を引く。 ・グループで線を引き終わったかどうかを確認して、グループの中で発表し合う。	○4人1組のグループになるよう伝える。 ○詰まって読む児童は、グループ内で支援するよう指示する。 ○机間支援を行い、グループ内で読めているのか確認する。 ○読めない漢字は、教科書にふりがなを書き込むよう伝える。 ○読みながら、聞きながら線を引いてもいいことを伝える。 【評価：聞こえる声ではっきりと音読できたか】
グループ	3 グループで、教科書p. 65の6行目～p. 66の7行目までロールプレイを行う。 ①の児童：じいさま ②の児童：ばあさま ③の児童：ナレーター① ④の児童：ナレーター②	○登場人物になりきって読めているかを確認する。 ○ナレーターは、丸読みで順番に読むように伝える。 ○座って読むだけでなく、立ったり動作をしてもいいように伝える。
ペア	4 ペア学習を行う。 ○ワークシート①②を解く。 ・隣り同士で意見交換する。 ・答え合わせを全体で行う。 ○ワークシート③を解く。 ①自分の考えを書く。 ②近所の考えを書く。	○教科書から抜き出すように指示する。 ○悩んでいる児童を見つけたら、助言をする。 ○答えに自信を持ってない児童に対しては進んで褒める。 ○考えを書くことができない児童に対しては、仲間の考えを写させてもらってもよいと伝える。 ○発表者に対して拍手するよう言葉がけをする。

一斉	③全体発表を行う。 ④まとめの自分の考えを書く。 5 あゆみカードに記入する。 ・目標を再度確認して、自己評価をおこなう 6 次時の予告をする。	【評価：じいさま・ばあさまの気持ちをワークシートに進んで書き込むことができたか】 ○町に行ったじいさまがどうなったか興味を持たせるように話す。
----	--	---

③評価

- ア. じいさまやばあさまの気持ちを想像し、演じることができたか。
- イ. ペアになり、自分の考えを伝えることができたか。
- ウ. 友だちの考えを聞き、自分の考えをまとめることができたか。

3) ペア交流について

ペア学習は、ロールプレイ同様に初めは隣同士で何を話し合うのか分からなかった児童もいた。しかし、今までのグループ学習のような話し合いをすれば良いと分かり、2回目以降には、しっかりと話し合えた。図7は、単元終了後のアンケート結果だが、ペア学習で話し合いがしっかりできたことが分かる。

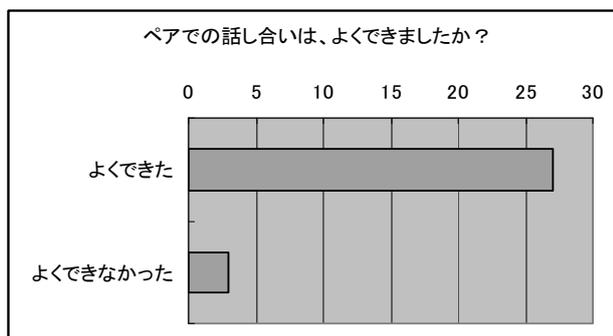


図7 ペア学習の感想

4) ワークシートの変化

ワークシートでうかがえる児童が変化した点は、一人で考えて書くよりも、隣、前後の友だちと話し合い、さらには全体で発表し合ってからの方が長く、良い考えが書けたということだ。

それは、他の友だちの考えを一人ひとりがしっかりと聞いていることによると考えられる。話し合いの時も、誰ひとりふざけることなく、友だちの方を向き、友だちの話を聞いたり、ワークシートに書き込んだりしていた。以前に比べると、一人ひとりの考えが深まっていると感じることができた。

ペア学習の流れ

- ① 一人で、ワークシートに取り組む。
- ② 隣、前後の友だちと話し合う。
- ③ 全体で話し合う。
- ④ まとめを考えをワークシートに書く。

Aのワークシート

はじめの考え
 さむいなあー。いっぱい売って、ばあさまを よろこばせたい。

友だちの考え

- ・早く もちこ買って、ばあさまのところにもどらなきゃ。
- ・よしよし。かさこ しょって売ってこようかのう。

まとめの考え
 よしよし。かさこ しょっていっぱい売ろうかのう。もちこを買って、ばあさま よろこばせたいなあ。

Bのワークシート

はじめの考え

もちこは、ないからこまったのう。

友だちの考え

- ・ごんぼ、にんじんが ないからどうしよう。
- ・この作った かさこをたくさん売ろう。楽しみだ。

まとめの考え

もちこやごんぼやにんじんがないから こまったのう。このかさこ、買ってくれたら うれしいのう。もちこ買ったら、いっしょに くおうな。

Cのワークシート

はじめの考え

かさこ いっぱい売れるかのう。

友だちの考え

- ・かさこが売れると考えると うれしいなあ。
- ・かさこを売って、たくさんの食べものを買いたい。

まとめの考え

かさこいっぱい売れるかのう。かさこを売って、食べものを はやく買って、ばあさまをよろこばせようかのう。ドキドキするのう。

Dのワークシート

はじめの考え

よしよし。かさこも しまったし はやく売ってこようかのう。

友だちの考え

- ・売って、もちこ買おう。
- ・さむいなあー。でも、売って ばあさまをよろこばせたい。

まとめの考え

よしよし。かさこ しょって たくさん売ってくるかのう。はやく もどって ばあさまをよろこばせたいのう。

5) 児童の感想

今回の研究授業で児童の成長を感じた点は、2つある。

1つ目は、ペア学習での話し合いの成果からである。ペア学習を行うことで、様々な成長が見られた。ワークシートに書く量が増えていたり、自分の考えをまとめて書くことが上手になってきたりした。また、全体の発表でも、回を重ねるにつれて挙

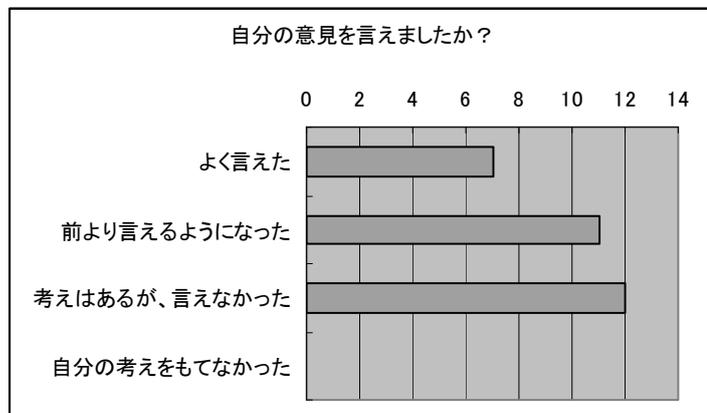


図8 意見発表について

手をする児童も増えていたことが、図8で分かる。自分の考えを発表できる児童が半数を超えた。しかし、自分の考えはあるものの、発表できない児童も依然多くいるという課題も残った。

図9では、友だちの意見をしっかりと聞くことができた児童が大半であったことが分かる。「話すこと」「聞くこと」とともに成長したと思われる。

図10では、単元での学習成果が表れている。ペア学習を行うことで友だちの意見をしっかりと聞き、自分の考えをまとめることができた児童が多かった。

2つ目は、ロールプレイの実践で見ることができた。初めて授業で行うということもあり、開始当初は、とまどっている児童も多かった。学習方法の説明は聞いたものの、どう動けばいいのか分からないからである。しかし、時間が進むにつれてやり方も分かり、積極的に動く姿が見られた。ロールプレイでは、初めは席に座りながら読むだけなど動きもない音読だけのものではあったが、「席を立っても良い」「人物の動きをしても良い」ということを伝えると、単元の最後には、全グループが席を立って意欲的かつ登場人物になりきることができるロールプレイを行う姿が見られた。

図11、図12は、単元終了後に行ったアンケートの結果である。グループでただ読むのではなく、動作化するというロールプレイを行うことで、授業中や振り返りカードの中でも「これからもやりたい」という声が多く聞かれた。

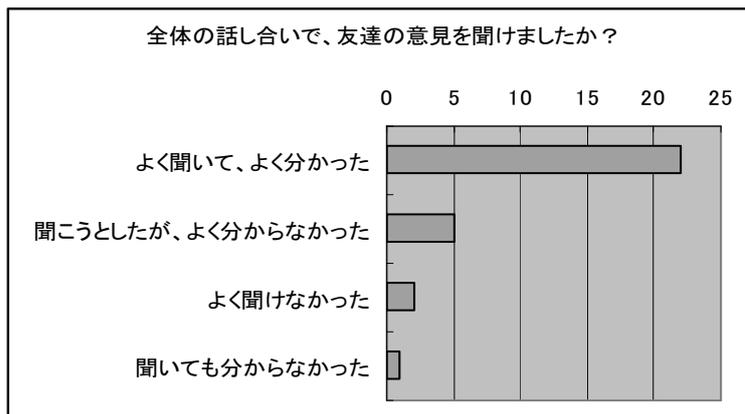


図9 話し合いについて

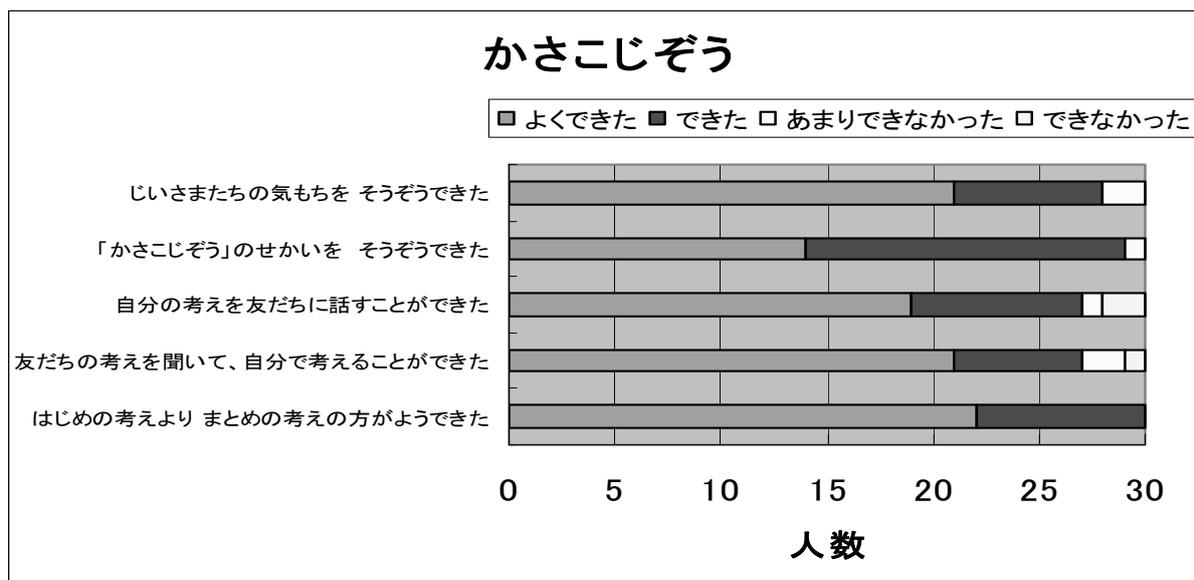


図10 かきこじぞうの学習後の児童の感想

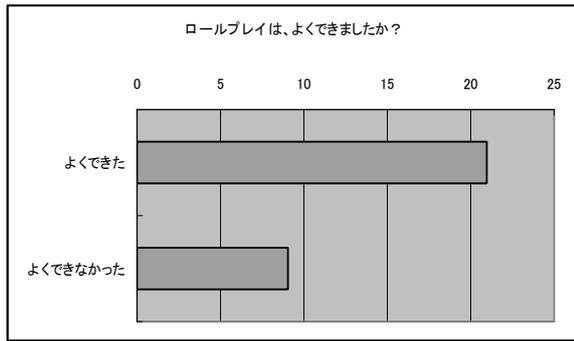


図 11 ロールプレイの感想 1

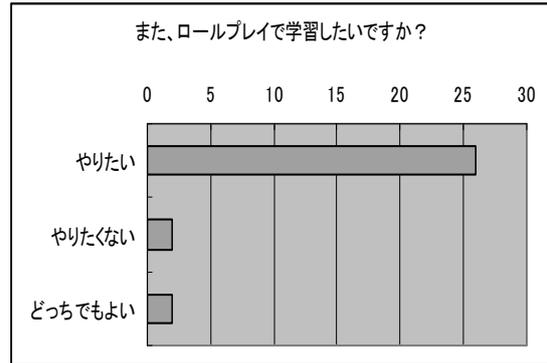


図 12 ロールプレイの感想 2

(4) 考察

今回は「読み取りの間違いに気づかせるためにはどうするか」という課題の検討をした。ペア学習を実践することで自分の意見が言いやすくなり、全体の発表の場では、明らかに合っていない内容を述べる児童はいなくなった。また、ペアで話し合うことで、自分の考えをしっかりと聞いてくれるということが実感できたためか、児童から「また話し合いをしたい」という声も多数聞くことができた。

また、以前に比べると、しっかりと自分の考えをまとめられるようになり、「自分の考え」を発表する児童も増えてきた。

ロールプレイも、授業への意欲づけになった。演じることの楽しさが分かり、単元のまとめとして取り組んだ劇の意欲も日々高まった。

今後の課題は、2つある。1つ目は、自分の考えを発表できる児童は増えたものの、まだ言えない児童が学級の3分の1程度いることだ。これらの児童が発表しやすくなる仕掛けを開発し、実践することが大事であると強く感じた。

2つ目は、昔話の世界に、いかにして児童を引き寄せるかである。現代の話と違って、「いろり」「すげがさ」など親しみのない言葉が多々登場する。見たこともないものは容易に想像できない。それが、昔話に親しみづらい原因になっていると感じた。これらの課題を解決できるよう、これからも工夫を積み重ねていきたい。

戸田道也

実践3 3年 国語 「サーカスのライオン」

(1) 児童の実態

本学級の児童は男子5名、女子4名の計9名と非常に小規模である。小規模校の特徴として異年齢との交流も多く、児童同士が全校すべて顔を知り合っている環境の中、おだやかな人間関係が構築されている。しかし一方で、お互いに慣れ、気を遣う経験が少ないためか、相手を意識したコミュニケーションをとることが苦手な児童も多い。学級でも授業中は発表が苦手な（できない）児童が多く、最初から友人の発表や教師の支援を待つ受け身の姿勢が目立つ。

そのため、今回のようにペア交流を取り入れる手法は、まず自分の考えを持ち、段階的に周囲と伝え合う過程で、児童自身が自分の考えを確認しながら主体的に学習に参加できるという点で

本学級にふさわしいと言える。

（２）先行単元の状況

前回、物語文の読解に取り組んだのは10月から11月にかけてであった。題材は「木かげにごろり」である。この単元では3つの3人グループを編成し、伝え合いを行った後で全体発表をするという手順で学習を進めた。

まず、ノートサイズのプリントを2枚ずつ配布し、ノートの見開きのページにそれぞれ貼らせた。右のプリントには自分の考えを書き、友だちの考えを朱書きで加えさせた。左のページにはまとめの考えを記入させた。

また、グループのメンバーを固定して、話し合いに慣れさせることに重点を置いて学習を進めた。当初は話し合いの形にすらならず、お互いのノートを交換して黙々と書き写すだけの活動になったり、理解の早い友だちの意見を丸写しにして、書いてあった自分の意見を消しゴムで消してしまう児童がいたりと散々だったが、回を重ねるうちに少しずつ改善され、グループ内での発表では自分の意見がなんとか言える児童も現れるなど、ある程度の手応えがあった。

ただ、相変わらず全体発表での挙手が少ないことや、同一グループ内での活動の回数が進むうちに、グループ内で役割分担のようなものがなされ、自分の分担以外の箇所を深く考えない児童が見られるなどの問題も生じ、さらなる改善をしなければならないと考えた。

このような実態の中で、この学級の主要な課題として考えられたのは次の3点である。

- ①（部分的に）自分の意見を持たずに話し合いに参加する児童が出てしまい、3人で組む意味が薄くなってしまった。
- ②メンバーを固定したことで、グループ活動中に頼る児童と頼られる児童とに立場が分かれてしまったグループが見られた。
- ③登場人物の「言動」と「思考」の2つを追っていったが、その2つを混同してしまっている児童が見られた。

実際、児童に後から授業中の様子を尋ねた際、考えがまとまっていなかったり、すぐに真似をするだけといったグループのメンバーに対する不満や、もっと多くの人の意見を聞きたいという要望も聞こえた。

（３）研究授業の実践

1) 授業の手だて

前回までに見出された課題を受けて臨んだ物語文の単元は「サーカスのライオン」であった。この物語は、サーカスで火の輪をくぐる毎日に飽き、漫然と日々を過ごしていた年老いたライオンのじんざが、そのことを心配する少年の温かい心と触れ合いながら、次第にやさしさや勇気といった力を取り戻していく物語である。男の子を助けるために火の中に飛びこんだ姿から、じんざのいない最後のサーカスの場面にかけて、児童に様々な思いを抱かせる作品である。

この単元で留意したことは、

- ・主人公じんざの心情1本に絞って学習を進めていく。
- ・じんざの行動については、ポイントをまとめ、場面を整理させるために使う。

- ・ペア交流では全員とまんべんなく話し合いができるよう、児童に名簿でチェックさせながら進める。
- ・ペア活動の時間を多くとり、なるべく多くの友だちの意見を自分の意見に付け加えられるようワークシートの欄を分ける。
- ・発表の際、自分の意見だけでなく、友だちの良い意見を紹介しても良い事とする。
- ・意見交換のとき、なるべく考えの根拠となったポイントを加えられるようにする。

という6点である。

また、学習の進め方のパターンは次の通りである。

- ①学習範囲の音読（個別）
- ②じんざの行動の把握、ワークシート記入（個別）
- ③じんざの行動の整理（全体交流）
- ④課題に対して自分の考えを必ず持つ
- ⑤友だちとの意見交流（ペア交流）
- ⑥全体での発表・話し合い（全体交流）
- ⑦まとめの意見（最終的な自分の考え）をまとめる。
- ⑧振り返りカードの記入

なお、場面によって話し合いで追究する心情が複数になることもあった。

2) 授業例 (7/15 時)

①本時のねらい

ア. 学習のねらい

- ・「ウォーッ」に込められたじんざの気持ちを想像し、自分の考えを持つことができる。

イ. 学び合いのねらい

- ・意欲的に伝え合いに参加し、自分の意見を深めることができる。
- ・友だちの意見を生かして自分の考えを深め、まとめることができる。

②学習過程

	形態	児童の活動	教師の活動と支援	評価
つかむ 10分	一斉 個別 個別 一斉	1 前回の授業内容を確認。 2 第4場面を音読。 3 ワークシートの空欄を記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">じんざの「ウォー」に込められた気持ちを想像して、それがわかるような言葉に直して考えてみよう。</div>	○男の子の元へ駆けつけるじんざの様子をふり返らせる。 ○一人ひとり、自分のペースで読めるようにする。 ○早く読み終わった児童からワークシートを配っていく。 ○キーセンテンスによって、場面の様子をおさえさせる。	
	個別	4 「ウォー」と叫んだじんざの気持ちを想像し、人の言葉に変えてワークシートに記	○「じんざの気持ちはどんなところを出ているかな？」など、考えるきっかけとなった部分をメモさせておき、伝え合う際の理由	○自分の感想が書けているか。 (ワークシー

と り く む 28 分	ペア 一斉	入する。 5 自由にペアを組んで自分の考えを伝え合う。交換した意見で良いものをワークシート上の友だち欄に記入する。 6 話し合いで得た良い考えを発表する。 話し合いや発表された意見を踏まえた上で、もう一度自分の考えを整理してまとめる。	づけにさせる。 ○自分の考えは思いつきそのままメモにして残させる。 ○友だちの意見の丸写しにならないよう、メモ程度で短く書かせるように促す。 ○タイマーを使って、児童に時間を意識させる。 ○自他の区別なく良いと思った意見を発表させる。 ○出された意見を手がかりに自分の理解が深まるよう、自分の意見と周りの意見を合わせた「いいとこどり」でじんぎの気持ちを考えるように助言する。	ト) ○自分の意見を積極的に伝え合っているか。 (児童の様子) ○話し合いを生かして自分のイメージをまとめることができているか。 (ワークシート・発表)
ま と め 7分	個別 一斉	7 本時の学習をふり返り、ふりかえりカードにまとめる。 次時の学習（最後の場面）についての予告をする。	○後でじんぎたちへ手紙を書く時間のために、様々な人物の視点からこの場面を捉えるようにする。 ○最後の場面が持つ意味について考えるきっかけになるようにする。	

③評価

ア. 学習の評価

- ・ じんぎの様子から気持ちを読み取ったり、想像したりすることができたか。

イ. 学び合いの評価

- ・ 伝え合いを通じて、自分の考えが深まったか。

3) ペア交流について

今回のようにペアでの交流を繰り返すパターンは初めてだったことや、児童が3人グループでの学習に慣れていることもあり、最初のころ、特に今までと進め方を変えた部分は指示が思うように伝わらず、時間のロスが大きかった。

また、相手を自由に変えるという進め方も、やってみるまでは本当にできるのか、ふざけたり孤立する児童がでないかと心配があった。

しかし、実際は1回目からほぼ全員が集中して話し合いを行うことができた。もちろん手間取る場面も多かったが、回数を重ねて慣れるにしたがって無駄な時間は減った。1回の授業で8分から10分程度の時間をとって意見交換を行ったが、ほぼすべての時間、全員が意欲的にペア学習に取り組めた。「意見交換の時間を延ばして欲しい」「今日は話す

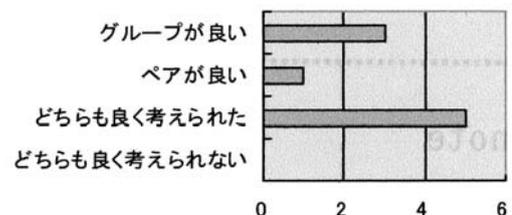


図 13 グループ交流とペア交流とではどちらがよく考えられたか（人数）

ことが上手くまとまらなくて、〇人としか話せなかった」「次は全員と話せるようにしたい」といった言葉が授業終了後に児童から出てきたりと、意見交換そのものを楽しむ雰囲気の中で学習を進められたことは大きな収穫だった（図13）。

児童たちには、友だちの良い意見を多く聞いた方が、後で全体発表の時に意見をまとめやすいという実感があったようだ。自分の意見を中心に友だちと比べてみたいという思いもあったと思われる。全体発表の時は「〇〇さんの意見で……」というように、誰の意見を参考にしたのかは言わず、「良い意見だと思えば誰の考えでも発表しなさい」と指示した。他の人の参考にされ、名前を呼ばれることを恥ずかしがる児童がいたためでもあるが、ある意見が出たときに、その内容と似た考えだった児童が複数うれしそうな顔をしたこともあり、別に自分の名前が呼ばれなくても、本人が自分の考えが発表されるような良い考えだったと分かれば、手ごたえを感じるものであることがうかがえた。

友だちとのペア交流の最中にも、話し合いで深まった意見をすぐにまとめたいということで、真剣な表情で許可を求めに来る児童が見られた。また、同様に、ペア交流で考えが変わった部分を、次のペアを組む前に修正して良いかという質問も多くあった。

話し合いで深まった意見をもとに改めてペア交流をしたいという児童の意欲が認められた。そのため、内容を見聞きした上で可能な限り認めた。全体発表の際に、しっかりとペア

交流で自分の意見がどのように変化したのかを児童自身が発表することで、ペア交流の効果ははっきりと自覚できた。また、自分の意見が認められたり、友だちの役に立ったりという経験もできた（図14）。意欲的な学習への取り組みにつながったと言える。

4) ワークシートの変化

毎時間、単元毎のじんごの行動や状況を把握するため、教科書からいくつかのポイントを抜き出し、ワークシートの欄に穴埋めさせた。自分の考えを書かせたり、友だちの考えを聞き、メモをとる際にも使わせたため、ワークシートには1時間の流れがほぼそのまま表れている。

仲間との交流にも慣れていったためか、友だちの意見を丸写しするだけだったり、「(自分の意見と) 同じ」としか記入しない児童は見られなくなった。簡単なメモの方が多く的人数と交流できるという実感を児童が持てたことは大きい。実際、授業後に児童から、たくさんの人と話せたため、まとめの考えが書きやすかったという報告も何回か聞いた。

自分の考えは比較的短い文章で書くことが多い児童がいる一方、長い文章ばかりを書く児童もいるのだが、話し合いの過程で比較整理され、まとめの考えになると大体似たような長さになっている。得られた状況を児童なりに取捨選択した結果だと思われる。事例を示そう。

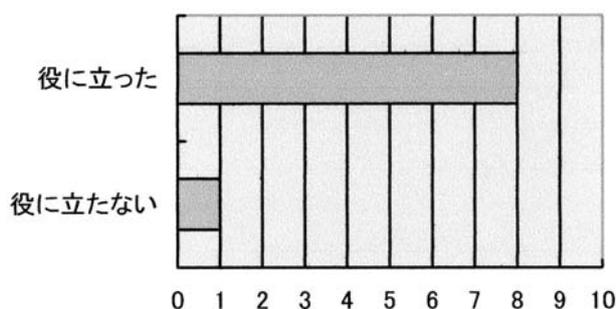


図14 ペア交流は役に立ったか(人数)

<p>Aのワークシート</p> <p>初めの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子がいるぞ。 ・助けて。 <p>友だちの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く助けて ・男の子を助けるぞ ・2階にいるぞ <p>まとめの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おーい。男の子を見つけたぞ。飛び降りられないから助けてくれ。
<p>Bのワークシート</p> <p>初めの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子がいたけど、目がすごく痛い。 ・さすがのオレでも飛び降りられないなあ。 <p>友だちの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く男の子を助けて ・消防車早く来て ・絶対男の子を助けるぞ <p>まとめの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防車、飛び降りられないから早く気づいて男の子を助けてよ
<p>Cのワークシート</p> <p>初めの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれか助けて、男の子がここにいるぞ。 <p>友だちの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が痛い ・飛び降りられない ・突っ走って助ける <p>まとめの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子を見つけたけど、飛び降りられないから、早く助けて。

Aのワークシートでは、「2階にいるぞ」という言葉を生かしたり、助ける対象がはっきりするなど状況の理解が進んだものと思われる。全体発表で発表された「飛び降りることができない」という表現が加えられ、また、「男の子」が助ける対象であることが明記されている。

Bのワークシートは初めの考えは、状況認識としては正確ではあるが、じんざを客観的に捉えてしまっている。必死に男の子を助けるじんざの様子を交流でくみ取ることで、まとめの考えが必死なじんざの気持ちに近づいたものになっている。

Cのワークシートでは、Aと同様、ペア交流でじんざの状態や、自分では男の子を助けられないという状況が詳しく分かってきたため、どうして助けを求めたのかという理由を加えることができた。

単元の読み取りの学習終了後に、児童にアンケートをとったところ、図15のような結果になった。じんざの気持ちを想像することができたという問いに積極的な評価を下したのは9人中6名。同様に場面の様子を整理できたと答えた児童は5名であった。このことから、国語（物語文）の読み取りはあまり得意な分野ではないと考えている児童も半数近くいたことがうかがえた。

一方、交流に関わる部分の評価は高く出ている。単元を通して、ペア交流に全く参加できない児童が出なかったのは収穫だった。ペアを自由に交換するため必ず1名余りが出たが、予想していたより無駄な時間が出なかった。学級全体には発表できない児童も、ペア交流には積極的に参

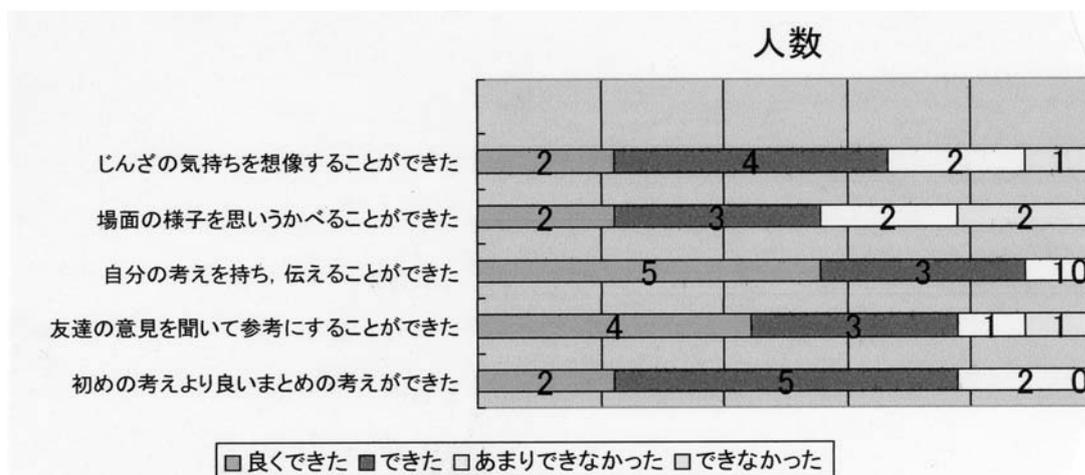


図 15 「サーカスのライオン」授業の感想（人数）

加する姿がみられるなど、ペアの状態ならばお互いに意見を言い合い、聞き合うことへの抵抗は少ないようである。

このことは、児童のペア交流への感想にも表れている。図 16、図 17 に見られるように、児童全員にとってペア交流自体が楽しい活動であったことが分かる。自分から相手を探して声をかけたり、意見を聞きたい児童に次の相手として予約を入れておくなど、生き生きと主体的に活動できた。振り返りカードを見ても、ペア交流にかかわる感想を残す児童が多く、そこで良かったことや次回の課題などが書かれていた。

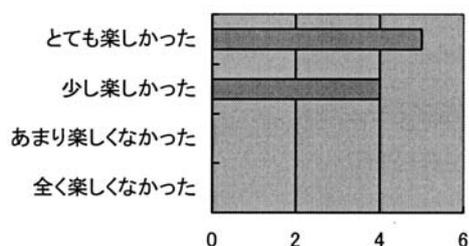


図 16 ペア交流の感想（人数）

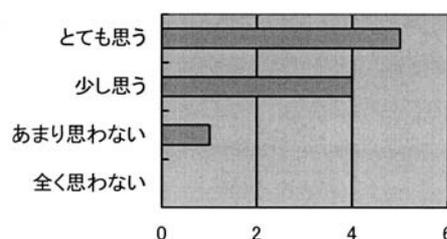


図 17 またペア交流をやりたいと思うか（人数）

全体交流での話し合いがまとめの考えの役に立つと答えた児童がほとんどであった。全体発表の時点で、ほぼまとめの考えの骨格ができあがっている児童もおり、そういった児童にとっては、全体発表の場がペア学習の成果を発表する場になっていた。一方、うまく考えがまとまらなかった児童にとっては、自分の意見がまとまらなかった部分を補う意味合いがあったようだ。

初発の感想では、やはりじんざが火の中に飛びこんだ場面が印象に残った児童が多く、ほとんどの児童がこの場面のことを取り上げ、「勇気がある」という印象を持ったようだった。同様に疑問に思ったことを挙げさせると、じんざが言葉をしゃべることを不思議に思う児童が多く、中には「どうして男の子を食べなかったのか」という児童もおり、一般的なライオンのイメージとじんざを重ね合わせて、その違いをとりあげた児童が多かった。読み取りとしては極めて浅い段階といえる。

音読に関しては、今回はCDで模範の音読を聞いたり、教師が手本となるような音読をして聞かせることは敢えて避けた。そのせいもあり、最初のころはイメージを掴むことが難しかったようで、音読にそのことが表れていた。最低限の漢字や読み、分からない単語についての解説だけ行って、しばらくは春から続けている音読の宿題として続けさせた。学習が進むにしたがって心情理解が進むと、次第に感情を込めて音読をすることができるようになり、単元最後の音読発表会では、全員がきちんと心に残った場面を音読で発表することができた。

これらの結果からも、教師のまとめがなくても児童の読み取りが深まったことが分かる。

(4) 考察

今回の学習の成果として次のような成果が見られた。

- ①ペア活動を行うことで、児童がより主体的に意欲をもって学習に臨むことができた。
- ②意見交換の最中や、全体発表の時間など様々な機会に、自分の意見をまとめ、深めることができた。
- ③クラス全員と積極的に関わり合うことができた。
- ④自信を持って（良い表情で）挙手できるようになった。
- ⑤交流で得た意見を参考として自分の意見に取り入れることができるようになった。
- ⑥意欲的に学習に取り組む児童が増えたことで、授業時のクラスの雰囲気良くなった。

一方、課題としては次のことが挙げられる。

- ①話し合いの課題として取り上げられなかった部分の理解不足。
- ②ペア交流やそこで得た意見の集約に適したワークシートの開発。
- ③さらに登場人物に迫る（なりきる）ための仕掛け。
- ④自己評価の低い児童への支援－評価基準の意識づけ。

瀧 敏秀

実践4 4年 国語 「世界一美しいぼくの村」

(1) 児童の実態

本学級は男子18名、女子15名で編成され、比較的温かな性格の児童が多く、まとまりのよい集団である。グループ学習にも素直に取り組み、算数ではグループ単位での学習で効率よく進めることができる。反面、女子が発表を好まず、発言が一部の男子に偏る傾向がある。また、学力的に劣る数名の児童は主体的な学習が難しく、個別の対応や声掛けを必要とすることが多い。

そのため、今回のペア交流を取り入れる実践は、全体に発表する前に友だちの考えを知って自信を持ったり、安心できたりするという点で本学級の実態に合う方法と考えられる。

(2) 先行単元の状況

最初にペア交流を入れた読み取りに取り組んだのは、7月の物語教材「夏のわすれもの」である。今年度は、今までのようにペア交流で得た友だちの考えの中でよいと思った考えを発表して、それを教師が黒板に書いて、また、児童がそこから別の考えを拾うのではなく、友だちの意見を自分の耳で聞くことで思考させたいと考えた。しかし、はじめは読み自体が浅くて、教師の指導を入れることが多く、なかなか、授業の形としてまとまらなかった。

机をコの字型にして、友だちのよかった考えを発表し、その後みんなから出た考えについて意見交換をする全体交流の活動を取り入れた。すぐには活発な意見交換はできないと考え、ペア交流の後、さらにグループでの意見交換も取り入れ、情報を増やして自信を持たせたり、全体交流では優先して発表する児童の順番を決めたりして、発表の準備をさせる手だてを取った。

しかし、授業の進め方をパターン化しても、仲間からの発問が情景描写の読み取りだったり、主人公の気持ちの読み取りだったりして、児童の理解を深めることは容易ではなかった。最初のうちは自分の考えもなかなか持てず、聞きに行く相手も限られた仲良しだったりした。全体交流で発表する児童の順番を決めていても発表しない児童がいたりして、うまくペア交流が機能しているとは言えない状況だった。

それでも、何回か続けるうちに、ある一つの課題で一人の児童が深い考えの意見を出し、それについて意見交換を進めることができるようになってきた。

この実践での反省点は、次の3点であると捉えた。

- ①発問の難易度が高くて考えの持てる児童が少なく、このパターンの動きが定着しなかった。
- ②発問内容が状況だったり、気持ちだったりして児童がとまどった。
- ③ペア交流の後でグループの話し合いを入れると、時間が足りなくなってしまう。

図18は学習の振り返りとして児童に聞いた結果だが、73%の児童が「友だちの意見を聞いて考えることができた」と答えている。授業の雰囲気からはできなかったという気持ちを持っている児童がもっと多いという印象があったが、子どもなりに考えようとしていたと考えられる。

(3) 研究授業の実践

1) 取り組みの手だて

ここで取り上げる物語の読み取りの単元は「世界一美しいぼくの村」だった。この物語は平和

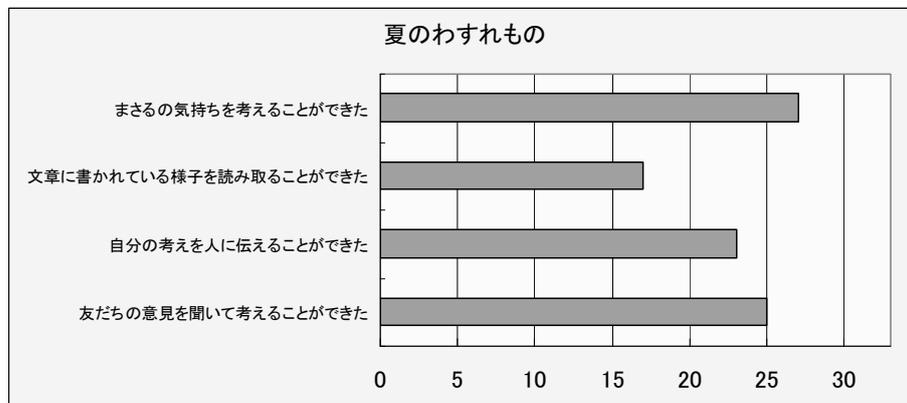


図18 「夏のわすれもの」の授業後の児童の感想

なアフガニスタンの風景や、にぎやかな市場の様子と、ヤモという少年の初めての体験と、最後の「村が破壊された」という一文を対比することで、戦争中の家族の気持ちや平和への願いを訴える作者の思いの深い物語である。

この単元で取った手だては、次の通りである。

- ・ヤモの気持ちを追って考えるパターンで進める。
- ・ペア交流の相手が偏らず、みんなと交流できるように名簿でチェックするようにする。
- ・全体の話し合いの時間をたくさん取る。
- ・本文から読み取る問題と、自分で想像して考える問題をはじめから明記しておく。

そして、読み取りの課題は次のようにした。

第1時 一人でさくらんぼを売るヤモはどんな気持ちだったでしょう。

第2時 パグマンのさくらんぼは世界一というおじさんの言葉を聞いてヤモはどんな気持ちだったでしょう

第3時 お父さんとおじさんが戦争について話しているのを聞いたヤモは、どんな気持ちだったでしょう。

第4時 村にもどったとき、ヤモはどんな気持ちだったでしょう。

第5時 ヤモはその後どうしたでしょう。

学習パターンの基本は以下のようなものである。

- ①学習範囲の音読（個別）
- ②最初の課題—自分の考えをもつ
- ③全体で話し合う（全体交流）
- ④二つ目の課題—自分の考えをもつ
- ⑤友だちと意見交換を繰り返す（ペア交流）
- ⑥全体で話し合う（全体交流）
- ⑦最終的な自分の考えをまとめる
- ⑧代表（教師指名）の考えを聞く
- ⑨振り返りをする

内容によっては最初に中心課題が来たり、中心課題が2つになったりするときもあった。

2) 授業例 (3/7時)

①本時のねらい

ア. 学習のねらい

- ・足のない人から、パグマンのさくらんぼは世界一おいしいと言われたときの、ヤモの気持ち

を読み取ることができる。

イ. 学び合いのねらい

- ・自分の考えを友だちに伝えたり、聞いたりして考えを深めることができる。
- ・友だちの意見を聞いて、自分の考えに反映させ、考えを深めることができる。

②学習の設計

段階	児童の活動		教師の働きかけ
	学習活動	学び合い活動	
つかむ	1 本時もヤモの気持ちについて話し合 って読み取っていくことを伝え、学習範 囲の確認をする。 2 本時のめあてと、学習の流れを確認す る。 パグマンのさくらんぼは世界一といわ れたときのヤモの気持ちを考えよう		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の様子を思い出させる。
取り組む	3 各自で音読し、本時の場面を確認す る。 4 女の子がさくらんぼを買いに来てく れたときのヤモの気持ちについて読み 取る。 ①自分の考えをワークシートに書く。 ②全体で意見交換をしながら加えたり 直したりした方が良かったことを ワークシートに付け足していく。 5 戦争で足をなくした人がパグマンの さくらんぼは世界一おいしいといった ときのヤモの気持ちをヤモの言葉で考 える。 ①自分の考えをワークシートに書く。 ②ペアでの意見交換を繰り返して、何人 かの友だちの考えに触れる。 ③席に戻り、聞いた友だちの意見の中か ら、良かったと思う考えを全体の中で 発表する。 ④全体の中で出た意見を聞いて感じた 考えを、理由も含めて発表する。 ⑤出し合った意見をもとに、自分の最終 的な考えをまとめる。	○しっかり友だち の意見を聞き自分 の考えの足りなか ったところを見つ けるようにする。 ○意見を交換した 中で良いと思う言 葉をメモする。 ○友だちの意見を よく聞き、うなず きやつぶやきなど の反応を示すよう にする。 ○自分が意見を言 うときは、前に出 た意見につなぐよ うにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の速さで音読をするように促す。 ・本文から読み取ることを確認する。 ・教科書の言葉にこだわらずに、自分の言葉で表現することを確認する。 ・考えがもてない児童には友だちの考えを聞くだけでも参加するように促す。 ・積極的に意見を出し合って、考えを深め合うように促す。 ・言えるところまででもよいことを伝える。 ・聞いた意見の中からも言葉を選んで、豊かに表現するように声をかける。
まと	6 友だちの最終的な考えを聞き合う。 7 振り返りをする。	○友だちの意見をよく聞いて考えを	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見を聞いて学習のまとめとすることを伝える。 ・自分の活動について振り返るように促す。

め		整理する。	す。
る			

③評価

ア. 学習の評価

・友だちの考えを取り入れて、ヤモの気持ちをより深く考えることができたか。

イ. 学び合いの評価

・誰とでも進んで意見交換をし、互いの考えを認め合うことができたか。

3) ペア交流について

読み取りの第1時から、美しいアフガニスタンの情景が描かれ、児童は素直な気持ちで物語の中に入っていった。時期も10月ということで以前より学級内の人間関係ができていたり、9月の教材が発表だったりしたせいも、ペア交流や意見発表が以前よりできていた。

第1時では男子同士、女子同士といった組み合わせになりがちだったが、「男女合わせて4~5人」という約束や、名簿のチェック表を使用したことで男女の交流も積極的にできるようになってきた。

授業の流れが明確になり、友だちのよかった考えを発表する場面では、自分の考えを発表するより言いやすいので、発表する児童が増えてきた。その際には「〇〇さんの考えで・・・」と名前を言うので、言われた児童にとっては次に自分の考えを発表するときの励みになった。

4) ワークシートの変化

ほとんどの時間、ペア交流をする中心課題と、自分の考えをワークシートに書いてすぐに全体交流をする課題とを組み合わせたが、ワークシートを見てみると、全体交流の中で聞いたことを付け加えている児童も見られたので、聞く力がついてきたことが分かった。(図19参照)

また、「パグマンのさくらんぼは世界一というおじさんの言葉を聞いて、ヤモはどんな気持ちだったでしょう」という課題について、はじめの考えから、まとめの考えへの変化は次のようだった。

はじめの考えは短く、一つのことについて

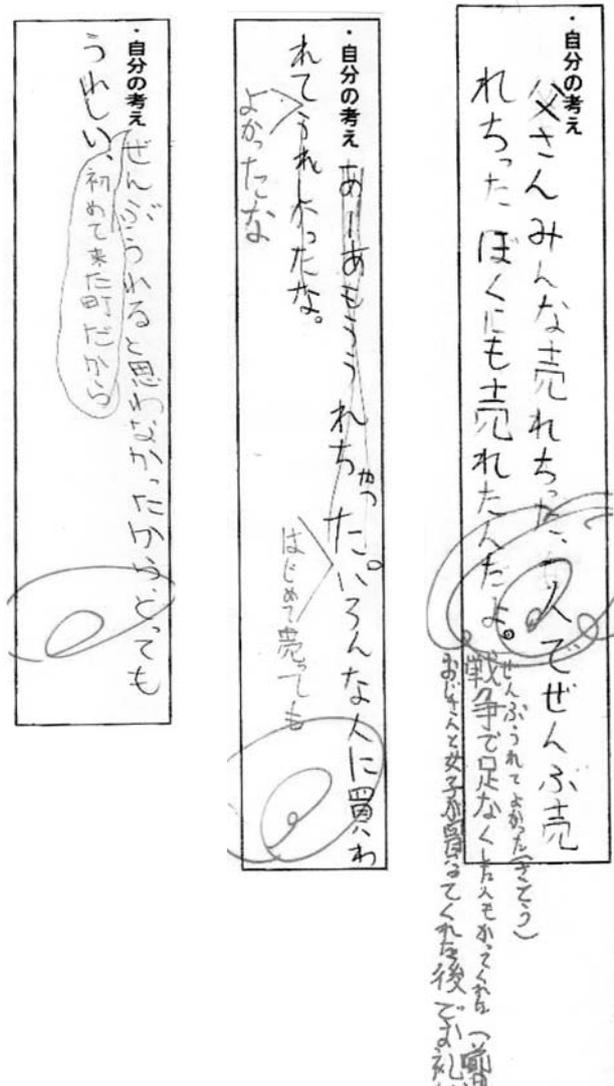


図19 児童が書いたワークシート

のみ書かれていることが多いが、友だちの考えを聞いて、いいと思ったことを取り入れた結果、要素が増えたり、言葉が増えて長くなっていたりすることが分かる。ワークシートは、「はじめの考え」を書いた後にペア交流を行って「友だちの考え」を書き、その後に全体交流をして、それから、「まとめの考え」を書いたのだが、友だちの考えの影響を比較的強く受けている感じがする。全体での話し合いでは聞くことに集中していたため、実際に書くときには書いてあることに頼る傾向になったように思われる。

事例を下に示そう。AのワークシートではYの「お父さんと食べようと思った」という意見によって、この後お父さんとさくらんぼを食べる場面に気づき、取り入れていた。

BとCのワークシートでは、Mの「二人目のお客だし、パグマンのさくらんぼは世界一だって、勇気もてたし、もっともっと売ろう」という言葉を「勇気を出してもっともっと売ろう」「勇気をもらったからもっともっと売ろう」と変化させて使うようになった。

Dのワークシートを見てみると、Kの「うれしいなー、さくらんぼが世界一で。よーしどんどん売ろう」が「うれしくなったからもっともっと売ろう」となっている。これらの変化は、ペア交流の時に、「言葉で伝える」という原則から、聞いて意味を汲み取って自分なりの言葉で書き換えていることが分かる。

Aのワークシート

はじめの考え

自分の村のさくらんぼは世界一なんて村は有名なところになったんだー。

友だちの考え

- ・お父さんと食べようと思った。(Y児)
- ・世界一ぐらいおいしいんだー。
- ・自分の住んでいるところが世界一といわれたからうれしい

まとめの考え

自分の住んでいる村のさくらんぼが世界一といわれたので、後で父さんといっしょにその世界一のさくらんぼを食べよう！！

Bのワークシート

はじめの考え

自分の村のさくらんぼを世界一といわれてとってもうれしい。

メモ

- ・自分の村のさくらんぼが世界一といわれてうれしい。
- ・自分が売っているさくらんぼを食べて、世界一だといわれてすごくうれしい。
- ・勇気を出してもっともっと売ろう (M児)

まとめの考え

自分が売ったパグマンのさくらんぼを食べて「世界一」だといってくれたから勇気を出してもっともっと売ろう。

Cのワークシート

はじめの考え

うれしいなー、さくらんぼが世界一で。よーしどんどん売ろう。(K児)

友だちの考え

- ・勇気もらったからもっと売ろう。(M児)
- ・うれしいなパグマンのさくらんぼが世界一で
- ・いわれてうれしいなー。
- ・世界一っていわれてうれしいなー。
- ・パグマンのさくらんぼは世界一っていわれてうれしいなー。

まとめの考え

やったー。パグマンのさくらんぼは世界一っていってくれて。それに売る勇気もらったからもっともって売ろう。

Dのワークシート

はじめの考え

うれしいなパグマンのさくらんぼは世界一だって。

友だちの考え

- ・しょうばいで世界一といわれてうれしいな。
- ・うれしくなったからもっともって売ろう。(K児)
- ・パグマンのさくらんぼは世界一だって。
- ・世界一と聞いたときうれしくなって、売れるかどうかの不安がなくなった。

まとめの考え

しょうばいで世界一といわれてうれしいな。もっともっていっぱい売ろう。

5) 児童の感想

このように、5 時間を同じパターンで学習を進めた。時間が進むにつれて交流人数も増え、活発な意見交換が行われるようになってきた。

この学習の後でデータを取った振り返りは図 20 のようであった。前回の「夏のわすれもの」とほぼ同じ項目で聞いたが、全部の項目でポイントが伸びている。

しかし、「自分の考えを友だちに伝えることができた」の項目は 80%を超えてはいるが、全体交流の場面では女子の 3 分の 1 は一度も進んで発表していない。「間違ったら恥ずかしい」という

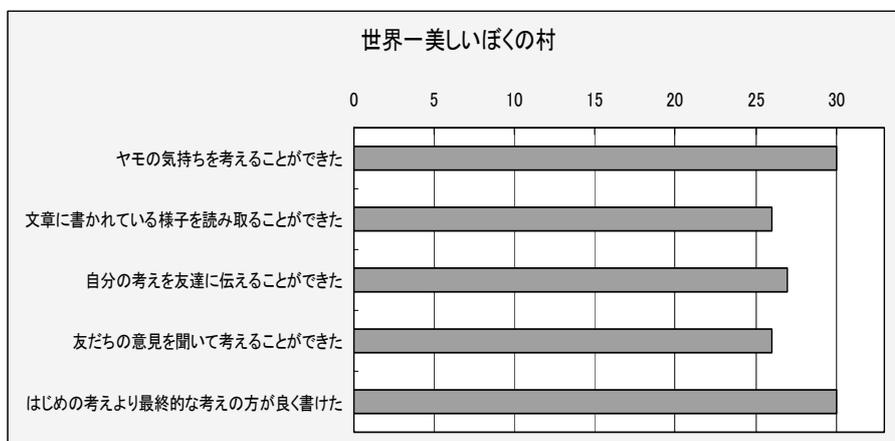


図 20 「世界一美しいぼくの村」の授業の児童の感想（人数）

気持ちが強い児童が多い。発表回数全体も女子は男子の4分の1近くに過ぎない。ワークシートの内容に大きな差はないが、いろいろな考えを広げるといふ点については、まだ意識が低いと言える。

(4) 考察

4年生の学級では、新学期当初に、以下のような「学び合いのレベル」を児童たちに提示した。

- レベル1 話を聞いていない友だちに注意できる
- レベル2 自分の考えを持つとする
- レベル3 分からないことは友だちに聞こうとする
- レベル3 分からない友だちに教えてあげることができる
- レベル4 だれとでもグループ活動ができる
- レベル5 役割分担して活動できる
- レベル6 グループのみんなができるように活動する
- レベル7 友だちの考えをしっかりと聞くことができる
- レベル8 多数の意見をまとめることができる
- レベル9 新しい方法を考えることができる
- レベル10 自分たちで学習を進めることができる

そして、国語の単元末に振り返りをし、自分でどのレベルのことができたかを記入させた。番号が飛んでいてもいいので、できたと思った番号を選ぶように指示した。ほぼ1ヶ月に1単元の割合で国語の学習を進め、単元ごとに教師の意図した点についての意識を、質問に答える形で回答させたり、文章で書かせたりした。そして、最後には、「今回の学び合いのレベルはどれができましたか」という形で聞き、番号で答えさせた。図21の「めざす学び合いのレベルA群」は、レベル1～レベル4までのできたと答えた割合をグラフにしたものである。

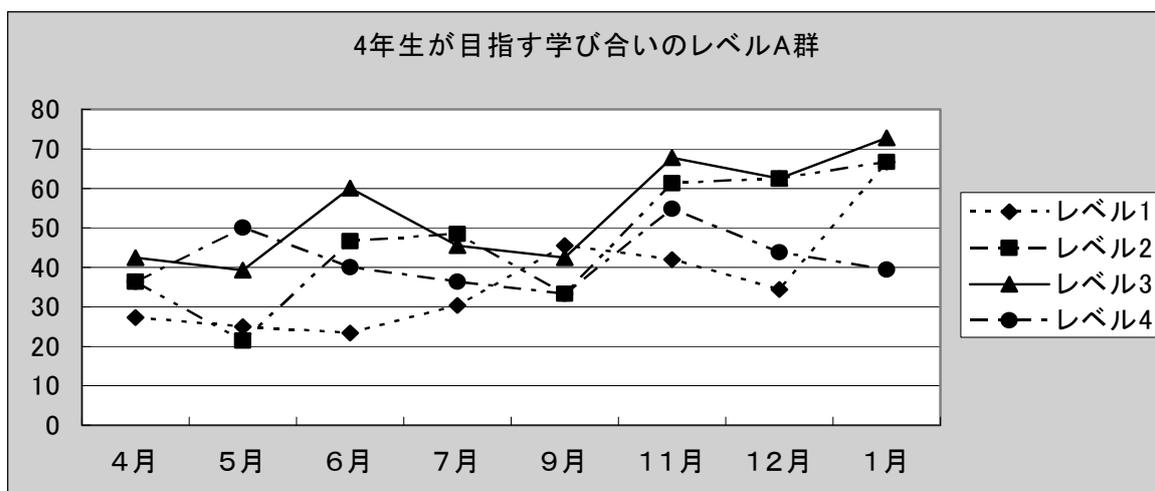


図 21 レベル1～4までができたと答えた児童の割合のグラフ

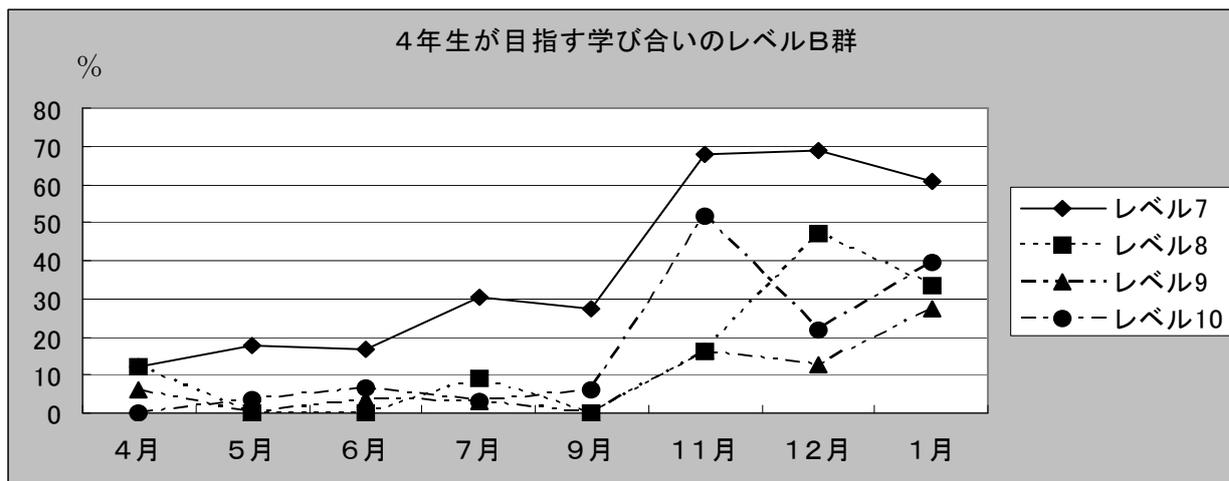


図 22 レベル 7～10 までができたと答えた児童の割合のグラフ

レベル 1 から 4 までは比較的難易度が低く、昨年度までの積み上げの中で定着しつつあったので、最初から 40%前後の数字が出ている。学年当初でも、困っている児童にさっと声をかけにいたり、優しく教えたりする場面をよく見た。しかし、図 22 のレベル 7 から 10 までは難易度が高いため、レベル 7 の「友だちの考えをしっかりと聞くことができる」以外は 9 月まで 10%以下であった。レベル 5 と 6 は、主に算数を対象としていて、国語では当てはまる活動が少なかったため省いた。

注目したいのは、図 21 のグラフも図 22 のグラフも、11 月のところからほとんどのレベルでできたと答えている児童が増えている点である。この効果の源は、10 月の「世界一美しいぼくの村」の取り組みにあると考えられる。

「世界一美しいぼくの村」の授業は、全体の場合での話し合いから、個人個人が進んで学ぶことに力を入れた取り組みであった。これまでは、グループ活動を中心に学習を進め、コミュニケーションを取る対象は 3 人から 5 人ぐらいの規模であった。一斉授業の中ではどうしても集中力が続かなかったり、話し合いに参加できなかつたりする児童がいることが考えられ、小グループ活動の利点を多く取り入れてきた。しかし、国語は算数と違い、深い考えを持つ児童が極めて少数であることが多く、グループ活動の中だけでは深め合う学習ができにくいと考え、全体の場合での学び合いを取り入れていた。しかし、この取り組みには明確なグループ活動がなかったため、振り返りに学び合いのレベルを書かせなかった。したがって、グラフには 10 月の取り組みのレベルが入っていない。このとき取った振り返りの内容と結果は先に示した図 20 である。この振り返りの内容をレベルと照合させると以下のようなになる。

「ヤモの気持ちを考えることができた」→

「レベル 2 自分の考えを持つとする」91%

「自分の考えを友だちに伝えることができた」→

「レベル 3 分からないことは友だちに聞こうとする」

「レベル 3 分からない友だちに教えてあげることができる」82%

「友だちの意見を聞いて考えることができた」→

「レベル7 友だちの考えをしっかりと聞くことができる」82%

「はじめの考えより最終的な考えの方が良く書けた」→

「レベル9 新しい方法を考えることができる」91%

以上の結果から分かるように、かなり高い割合の児童が達成感を持つ授業になったと言える。

この結果をふまえ、図 21、22 のグラフを見てみると、11 月からはレベル 2、3、7 が格段に伸びていることが分かる。また、4 年生ではかなり難しいと予想していたレベル 10 の「自分たちで学習を進めることができる」も上昇してきた。単元によって取り組み方が違うため、常に安定した結果になるのは難しいが、取り組めていると意識している児童は確実に増えてきていると言える。

浅輪郁代

5 成果と課題

聞き合う学習については、全国で実践されているが、見た目が従来の一斉授業と似ているため、あまり大きく取り上げられていない。しかし、そこでは教師が求める答えにたどり着こうと教師が引っ張る授業と違って、児童が主役になる話し合いが成立しなければならない。そのためには、次の条件が必要になる。

まず、児童一人ひとりが自分の考えを持てることである。最終的には分からなくても、自分の考えを持とうとしなければ、主体的な学習者にはなれない。自信があるなしに関わらず、自分の考えを持って話し合いに参加しようとしなければならない。

次は、自分の意見を伝えられることである。自信のない児童は黙りがちであるが、自信がないということは自分で決めていることであって、客観的な事実ではない。多くの意見を出し合ってその中で考えるためには、勇気を持って意見を出し合わなければ、話し合う材料がそろわないことにも気づかなければならない。

そして3つ目は、友だちの考えを聞くことができることである。自分の考えを一方向的に伝えて、他の意見を聞こうとしなければ、考えが深まることはない。他の意見のよいところを聞いたり、自分の考えの足りないところを教えてもらったりすることができなければならない。

最後に、自分の考えと友だちの考えを比較して、違いが分かることも大切である。このことは低学年には難しいかもしれない。しかし、多くの話し合い活動を通して身に付けていく力である。聞く力と同時に付けていきたい。

こんな力を持った児童たちばかりであれば、盛んに議論し、どんどん話し合いを発展させるだろう。しかし、実際にはいろいろな個性の児童やいろいろな力の児童がいるのである。だから、最初に自分の考えが持てなくても、友だちの意見を聞くうちに考えがまとまってきたり、自分の意見を発表できなくても、しっかり友だちの意見を聞いて、自分の考えに取り入れたりする児童もいる。だから、最低限、聞き合える学級づくりが必要である。

今回の3学年4学級の取り組みをまとめると、次のような成果が見られた。

- ①授業の流れをパターン化することで児童が安心した取り組みができるようになった。
- ②ペア交流することで発表の自信が持てた。
- ③発言意欲が高まったり、友だちにほめてもらったりすることで、授業の雰囲気よくなった。
- ④友だちの考えを聞こうとする気持ちが育った。
- ⑤はじめの考えより、交流の後の方がよく書けた。

中でも、研究の仮説検証の手立てであった「ペア交流を取り入れる」ことは、自分の考えと自信を持ってない児童たちにとって、発表の自信につながったり、友だちの考えから学ぶよさを実感できたりしたと言える。学び合うことのよさが理解できれば、上記の全体で学び合う条件に近づくことができる。

一方、課題としては、人数の少ない学級では人間関係による影響が排除できにくかったこと、高学年になるにつれて、全体の場合での発表に抵抗がある児童が多いことなどから、よい意見が広がりにくい状況もあった。いろいろな意見を出し合うことで、考えを深められることを理解して、より多くの意見を出し合えるように、取り組みを進めていきたい。

おわりに

今回の実践では、何よりも教師対児童の形で学習が進められるのではなく、児童が互いに考えを出し合うことで読みを深めることができた。このことは、若い教師にとって、授業改善への取り組みにつながる大きな成果であった。自分の授業スタイルに合ったワークシートを作成することの重要性も理解した。また、児童からどんな考えが出てくるのか待つゆとり、多様な考えを受け入れる学級の雰囲気など、学級経営で欠かせない力を伸ばすことができた。

児童が学び合うことができれば、「自ら学ぶ力」の育成に大きく近づくことができる。児童が主体的に学習に取り組むためには、教師に教えてもらって授業から脱却して、発見する喜びや友だちと関わり合うことで得られる達成感が必要である。友だちと意見交換を繰り返すことで読みが深まる経験は、児童にとっては今後生きる学習方法の習得であると考えている。

「共に学び合う楽しさ」や「分かる喜び」が

感じられる授業づくりをめざして

子ども一人ひとりが活躍できる授業・少人数授業を通して

千田 初子（楽田小学校）
布瀬すみれ（東小学校）
浦田 富貴（犬山西小学校）
坂倉 功一（羽黒小学校）
石川 聡嗣（犬西小学校）
後藤 愛子（楽田小学校）
片岡 雅史（犬山南小学校）

はじめに

今、社会は21世紀を迎え、教育は大きく変わろうとしている。現代社会は、国際化、情報化、少子化など様々な面で変化し、児童一人ひとりが意欲を持って主体的、創造的に生きていくことのできる資質や能力を育てていくことがとても重要である。学校教育は、自ら学び、自ら考えるなどの生きる力を育成する教育に転換していくことが必要である。

また、学習指導要領では、基礎的・基本的な内容の着実な定着と個性を生かす教育の充実が求められている。いずれも生きる力の育成をめざして教育を進めていくことの重要性を意味するものである。このことは、自ら問題を見つけ、自ら考えて、行動できる力を身につけることである。つまり、自分で身につけたり解決したりする体験を数多くさせていくことと考えられる。

そのためには、児童一人ひとりの個性を大切にしながら、児童が自ら考え、解決していくことのできる力を身につけていく学習過程が重要になってくる。すなわち、基礎的・基本的な内容の確実な定着や学び合いの育成をめざした教育の実現が強く求められている。

1 主題設定の理由

算数科教育の原点は、算数にふさわしい創造的な活動を児童が主体的に実現できるようにすることであり、考える楽しさやできる喜びを味わえるようにすることである。すなわち、学び合いの育成と基礎的・基本的な内容の定着を重要な算数科教育の課題として捉えている。一人ひとりの児童が主体的に取り組み、学び合う学習を創造していく必要があるとの認識に立って研究をしていくことにした。

そこで、研究主題を「共に学び合う楽しさや分かる喜びが感じられる授業づくりをめざして」と設定した。

2 研究の構想

(1) 研究の目的

「共に学び合う楽しさ」や「分かる喜び」とは、グループの中で役割を分担して、問題を解いたりしながら、友だちとのかかわりを通して学ぶことの楽しさを感じることである。このことによって、算数学習への関心や意欲が高まっていくと考える。教師からいつも教えられるのではなく、児童らが自ら考え、自分なりの力で解決することによって、「楽しい」「おもしろい」と感じることができる。また、児童の多様な考えの中から友だちと学び合い、検討していくことで、「分かった」という喜びを児童に感じさせたいと考えた。また、少人数授業により、子ども一人ひとりが活躍できる場を増やすことで、算数学習を好きになり、安心して学習に取り組むことができるようにすることが大切であると考えた。

(2) 研究の仮説

グループでの学び合い学習を取り入れる、一人ひとりに役割と責任を持たせることで、どの子どもも授業に参加し、楽しく取り組み、分かる喜びを感じることができるようになると考えた。

(3) 研究の方法

低学年は、学び合いの基礎を育てる時期である。グループで役割を分担して問題を解きながら、教えたり教えられたりする活動を通して、学び合う楽しさを感じるようにする。

中学年は、グループ学習の仕方を身につけて、自分たちの力で進めていくことができるようにしたい。司会や発表などの役割分担を明確にし、自分の考えを分かりやすく相手に伝えたり、相手の考えを取り入れたりする活動を通して、楽しく課題を解決できるようにする。

高学年は、グループ学習での学び合いを深めるために、一人ひとりが明確な意見を持つ必要がある。自分の力で考え、工夫して解決したり、友だちに解法を説明したりすることにより、数学的な思考力、表現力を育てるようにする。

3 3つの研究実践

実践1 低学年

(1) 「学び合い」の基礎を育てるリレー学習（低学年）

子どもたちは算数の少人数授業が大好きである。「先生、行ってきます」と言って少人数教室にいそいそと出かけて行く。授業が終わると「ただいま」と帰ってきて、黒板を見ては「僕たちも同じことを勉強したよ」「僕は全部できて先生に誉められたよ」「〇〇ちゃんに教えたら、ありがとうと言ってくれたので、嬉しかった」と担任に話してくれる。少人数の授業は、一人ひとりが生き生きと学び、「算数が大好き」になる場である。落ち着きのない子ども、友だちと一緒に問題を解いたりする活動がいつの間にかできるようになる。少人数授業には、子どもたちを伸ばすしかけがたくさん隠されている。私たち教師は、少人数授業のしかけを最大限に活用しながら、「勉強

が楽しいよ」と生き生きと学ぶ子どもたちが育つ授業を工夫してきた。

ここでは、2年生を対象とした「学び合い」の基礎を育てるリレー学習の実践をまず報告する。

リレー学習とは、「学ぶ力、学び合う心（優しさ）」を、1本のペン（バトン）に託しながら、学級のみinnで学習してほしいという願いを込めて考え出した学習方法である。「頑張ってるね」「私も頑張るよ」「分からないときは教え合おうね」という思いをつなぎながら子どもたちが主体的に授業を進めていくのである。

いつも分かる子が分からない子に教えるグループ学習ではなく、4人が力を合わせて学習方法を同時に学んでいくことができる。そして、自分で問題に取り組むときの力をしっかりと身に付けることができる。「学び合い」の基礎を育てるリレー学習の具体的なやり方を紹介しよう。

例：単元「計算のあたらしいしかたを考えよう」 $58+25$ の筆算の場合

4つの机をひとつに合わせた座席配置で、4人ずつのグループになって学習をする。それぞれのメンバーにあらかじめ役割を与える。実際の取り組みの過程は次の通りである。

<役割分担の事例>

- ①しきを書く
- ②はじめに一のくらの計算をする
- ③つぎに、十のくらの計算をする
- ④計算のしかたをせつめいする



図 23 リレー学習の様子 1

ホワイトボード（B4版ぐらいの大きさのもの）に、ボード用のペンで、①番の子が、 $58+25$ の式を筆算で書く。②番の子は「はじめに一の位を計算します。 $8+5=13$ 。10は繰り上がるので5の上に①を書きます」と説明し、ボードに3と繰り上がる1を書く。③番の子は、「次に、十の位の計算をします。 $1+5+2=8$ 」と説明し、ボードに8を書く。④番の子は、計算の仕方をまとめてきちんと説明する。4人がペンをバトンのようにして回しながら4人1組のリレーをしていく。グループ全員の役割は問題を解くたびに代わる。2問目は、②番の子が式を書き、順番に進めていく。4問取り組めば一通りの手順を経験することができる。

4人が頭をくっつけて集中して学習する。順番が回ってくるのでぼんやりしていることはできない。「あ、そこには繰り上がった1があるよ」と教える。間違っていていい。みんなが見てくれる。「分からん」と素直に言える。子ども同士には遠慮はいらない。上手に説明できると、「〇〇ちゃん、すごいね」と誉める。リレー学習を取り入れた授業では、1時間、何もやらないで過ごす子は誰もいない。一人でやるのがなかなかできない子も、リレー学習には意欲的に取り組むようになる。「自分一人でやるよりもみんなでやって、みんなで分かるようになった方が楽しいよ」と話す子が多くなる。

子どもたちは「教え上手」「聞き上手」「話し上手」になり、「学び合い」の基本を身に付ける

ことができる。

これまで2年生では様々な役割分担を考えたリレー学習の実践をしてきた。この4つの分担は、問題を解くための思考過程を考えて作っていくようにしている。従って、リレー学習で養った力が、一人で問題を解くときの力になっている。下記にその例を示しておく。

<p>【100までの数】</p> <p>① 百の位の数え棒を並べる</p> <p>② 十の位の数え棒を並べる</p> <p>③ 一の位の数え棒を並べる</p> <p>④ 数字で書く</p>	<p>【文章題】</p> <p>① 問題を読む</p> <p>② 線を引く — ~~~~</p> <p>③ 式を書く</p> <p>④ 答えを書く</p>	<p>【かけ算の文章題】</p> <p>① 問題を読む</p> <p>② ○△___□を書く。</p> <p>③ ○の△ばいを書く</p> <p>④ 式と答えを書く</p>
---	--	---

(2) 具体的な実践 リレー学習を取り入れた学び合いの授業(2年生 少人数授業)「かけ算1」

1) 単元 あたらしい計算をかんがえよう かけ算(1)

2) 単元目標

- ① かけ算に関心を持ち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んでみつけようとする。
(関心・意欲・態度)
- ② かける数が1ふえると積はかけられる数だけふえることを使って、九九を構成することができる。(数学的な考え方)
- ③ かけ算の式に表したり、九九を唱えたり、それを適用して問題を解くことができる。(表現・処理)
- ④ 記号「×」や用語「かけ算」「～ばい」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことがわかる。(知識・理解)

3) 学習計画 (19時間完了)

時間	小単元	学習のねらい	形態
1	かけ算のしき	・具体的な操作を通して、基準量の「いくつ分」という見方について理解する。	少人数
2		・かけ算の意味とかけ算の式について理解する。	
3		・かけ算の用いられる場面を式にかき、その答えを累加で求めることができる。	
4		・連続量をもとに倍の意味を知り、かけ算が用いられる場面についての理解を深める。	
5	かけ算の九九	・乗数が1ずつ増えると答えが5ずつふえることを使って5の段の九九を構成し、かけ算の九九について知る。	少人数
6		・5の段の九九の唱え方を知り、カードを作成する。	
7		・5の段の適用題を解いて、九九の練習をする。	
8		・乗数が1ずつ増えると答えが2ずつふえることを使って2の段の九九を構成し、唱え方を知る。	

9	かけ算の九九	・2の段の九九の適用題を解いて、九九の練習をする。	少人数	
10		・乗数が1ずつふえると答えが3ずつふえることを使って3の段の九九を構成し、唱え方を知る。		
11		・3の段の九九の適用題を解いて、九九の練習をする。		
12		・乗数が1ずつ増えると答えが4ずつふえることを使って4の段の九九を構成し、唱え方を知る。		
13		・4の段の九九の適用題を解いて、九九の練習をする。		
14		・2、3、4、5の段の九九を使って、基準量が後に示された適用題を解く。		
15		・かけ算の問題づくりを通して、かけ算が適用される場面についての興味や理解を深める。		
16		・本単元で学習した内容の練習をする。		
17		・単元内容の評価やふり返りをし、補充・発展問題に取り組む。		
18				
19		・本単元の評価をする。		一斉

4) 授業を行うにあたって

学び合いの学習を行う手だて

本時は、最初の一問を一斉に学習し、次の問題からはグループでリレー学習を行う。初めて取り組むかけ算の文章問題になるので、お互いの考えを発表し合って丁寧に学習することをねらいとしている。また、自分の考えにとらわれずに友だちの考えも素直に聞く力も育てていきたい。

本時の学び合いの方法としてのリレー学習では、次の手続きをとった。

- ・座席位置①から④までそれぞれ役割を指定しておき、順番に協力して問題を解いていく
- ・取り組みの役割は、問題ごとに移動させていく
- ・ホワイトボードを使用する

本時、各グループメンバーに指定した役割は次の通りである。

- ①の子ども ……問題を読む。
- ②の子ども ……問題に○と△と_____の記号を書く。
- ③の子ども ……○の△倍を書く。
- ④の子ども ……式と答えを書く。

(※○：かけられる数 △：かける数 _____：たずねていること)

本時でねらう教科の内容

本時では、前時に5の段の九九の唱え方を習熟させた後、5の段の九九を使って適用題を解く学習をする。児童にとって九九を使った初めての文章題の学習になるので、具体物(数図ブロックなど)を使って問題提示をしながら丁寧に扱っていく。特に最初の問題は一斉指導をし、問題の解き方やリレー学習の仕方を具体的に指導する。その後は、グループでリレー学習を行う。リレ

一学習をしながら、自分たちで主体的に取り組むことができるように支援していく。

児童の実態とめざす児童像

クラスの目標は、「みんななかよく元気よく」を掲げている。学級活動や学び合いを通して全員の児童がクラス目標を達成できるように頑張っている。夏休み前に比べると、自分で考えて行動することができるようになってきた。学習にも興味を持ってきており、グループでたし算、ひき算の筆算の学び合いの学習に意欲的に取り組むことができた。また、相手の話を聞いたり、自分のことを話したりすることが少しずつできるようになってきた。

これからの課題は、今以上にグループ内での発表を活発にし、「聞き上手」「話し上手」になることである。

5) 本時の学習

①目標

ア. 内容に関わる目標

5の段の九九の適用題を解くことができる。

イ. 学び合いにかかわる目標

同じグループの友だちの説明をしっかりと聞き、自分の役割を果たしながら問題を解くことができる。

②準備・資料

指導者……演示用数図ブロック、算数プリント(グループ用、個人用の2種類)、5の段の九九の表

児童……数図ブロック、あゆみカード、ホワイトボード(グループに2枚)

③学習過程

_____は学び合いへの支援

形態	子どもの活動	指導上の留意事項及び子どもへの配慮
一斉 グループ	1 5の段の九九の唱え方をおさらいする。 2 隣同士のグループで、5の段の九九を唱える。 3 本時の目当てを確認する。 5の段の九九を使って問題を解こう	○リズム良く聞こえる声で唱えているか、子ども同士で聞き合うようにする。 ○忘れてしまった子どもは、グループで助け合うように助言する。 【評：5の段の九九を正しく唱えることができたか】 ○あゆみカードで確認する
一斉	4 教科書 P10④の問題を解く。 ①全員で問題を読む。 ②教科書の問題文に○と△と_____の記号を書く。 ○…かけられる数 △…かける数 _____…たずねていること ③○の△倍を書く。	○今後のグループでのリレー学習が円滑に取り組むことができるように具体的に指示をしながら進めていく。 ○○と△と_____の意味を確認しながら書き込むように指示する。 ○問題文の「ずつ」に注目し、かけ算だと認識できるようにする。 ○○と△の関係を数図ブロックで確認する。

グループ	<p>・5の8ばい</p> <p>④式と答えを書く。</p> <p>・$5 \times 8 = 40$ <u>40こ</u></p> <p>5 問題プリント（4問）を解く。</p> <p>①グループでリレー学習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>リレー学習の進め方</p> <p>①問題を読む。</p> <p>②問題文に○・△・〰の記号を書く。</p> <p>③○の△倍を書く。</p> <p>④式と答えを書く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①5の6ばい</p> <p>$5 \times 6 = 30$ <u>30台</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>②5の3倍</p> <p>$5 \times 3 = 15$ <u>15ひき</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>③5の9ばい</p> <p>$5 \times 9 = 45$ <u>45こ</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④5の7ばい</p> <p>$5 \times 7 = 35$ <u>35円</u></p> </div> <p>②終わったグループから2枚目の発展問題プリントに取り組む。</p>	<p>○分からない児童には、グループ内で教え合うように助言する。</p> <p>【評：○の△倍かが分かり、式と答えを書くことができたか。】</p> <p>○リレー学習のやり方を具体的に示し、4人で順序よく進めることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①「問題を読みます。いいですか。」</p> <p>②「○、△、〰、□を書いてください」</p> <p>「いいですか。見せてください。」</p> <p>③「○の△倍を書きます。」（ボードに書く）</p> <p>「みなさんいいですか。」</p> <p>④「式と答えを書きます。」</p> <p>「みなさん、いいですか。」</p> <p>「それではプリントに書きましょう」</p> </div> <p>○ホワイトボードを使ってグループで協力しながら、リレー学習することを指示する。</p> <p>○①～④の活動が全員できるようにプリントの問題は4問にする。</p> <p>○<u>それぞれの役割を自覚し、順番に解いていくように支援する。友だちがやっていることにも注目し、もし間違っていたら、互いに教え合うように声をかけていく。</u></p> <p>○机間支援をし、各グループのやり方が正しいかどうかを確認しながら○つけを行う。</p> <p>【評：グループで協力しながら、5の段の九九を使った問題を解くことができたか。】</p> <p>○1枚目のプリントで本時の学習の理解の様子を把握し、2枚目のプリントは発展学習として扱う。</p> <p>○個人でどのくらい理解しているかどうかをプリントで確認する。</p>
一斉	<p>6 本時の学習を振り返って、あゆみカードに記入する。</p>	<p>○全員が本時の目標を達成できたかどうかを確認する。</p>

④評価

- ・○の△倍が分かり、式と答えを書き、問題を解くことができたか。
- ・グループでリレー学習をしながら、仲良く問題を解くことができたか。

6) 授業を終えて

リレー学習を進めていくための具体的な支援は、子どもの学習意欲を高めた

九九を使って文章問題を解くのは初めてなので、役割分担を考えたリレー学習は戸惑いがあった。しかし、リレー学習のやり方を具体的に示したことによって、戸惑うことなくグループ学習を進めることができた。これは黒板に掲示しておき、分からなくなったらそれを見ながら取り組むので、どの子も役割を果たすことができた。リレー学習の基本を身に付けるためには、役割分担を示すだけでなく、子どもたちの活動がスムーズにいくように具体的なやり方を示すことが大切である。

学び合う心を育てるための支援が必要である

「○、△、◇、□を書いてください。」「いいですか。見せてください」と言われたとき、自分のプリントをポンと投げて相手に渡す子がいる。

「相手に見てもらおうときは、『お願いします』という気持ちで見てもらおうといいね」という言葉をかけながら心を育てていくことも大切である。



図 24 リレー学習の様子 2

実践 2 中学年

(1) 一人ひとりを励まし、学ぶ意欲を高める「あゆみカード」

一人ひとりの子どものつまずきをしっかりと確認し、それを解決しながら子ども達の学習意欲を高めていきたいという願いを込めて作成した振り返りカードである。具体的には、次のようなねらいが盛り込まれている。

- ・子ども達が見通しを持って学習する学習計画である。この単元で何を学び、何時間学習し、どんな目標を達成するのかが分かる。
- ・1時間の授業の後に必ず振り返り、何ができて何ができなかったかはっきりさせる。つまずいていることはすぐに解決できるよう支援することによって、分かる喜びを感じることができる。
- ・1単元の学習が終わったら、あゆみカードとまとめのテストを持ち帰り、保護者に学習の様子を伝え、励ましの言葉を書いてもらう。日常的な評価を担任と保護者で確認することができる。
- ・あゆみカードはファイルしていくので、一人ひとりのつまずいている単元が分かり、個別の指導や評価に役立つ。
- ・友だちとの「学び合う」授業の楽しさが記録されるので、心の成長が分かる。
- ・教師の指導計画である。学年全体で取り組むので、どの学級の子どもたちも学習が保証される。

実際のあゆみカードを次に示しておこう。

(2) 「分かりやすく相手に伝えるための力を育てるグループ学習」(中学年)

1) 単元 「べつべつに いっしょに」

2) 単元について

児童はこれまでに逆思考を含む文章題を学習してきた。問題を絵や図に表し、見直すことによって解き方を見つけることができるようになってきているが、しっかりと問題を読まず直感で立式しようとする傾向の児童はまだいる。計算した結果が何を表しているか、何を求めるための計算であるのかを考えながら立式できるように導きたいと思う。

本単元は、加減法と乗法を組み合わせた4要素の問題で、「べつべつに」の考えでは3段階で、「いっしょに」の考えでは2段階で求答する問題であり、立式する目的を意識したり式の答えが何を表しているかを考えたりするのに適した問題である。また、問題を絵や図に表したとき、2つの考えを図にかき加えやすく、「まとまりを考えて解く(いっしょに)」のに大きな抵抗もなく取り組むことができる。問題を多面的に見て解いていく問題として、また3年生が取り組む問題として適した難易度であると考えられる。

本単元では、コミュニケーション能力を向上させるために、グループ活動を中心に、話す力を算数の学習においても伸ばしたいと考えている。そこで、次のような手だてをとっている。

- ①個人学習……話し合うためには自分の考えを持ち、相手との相違に気づかなければ話し合う場面に至らない。そこで、課題に対して自分なりの考えを持つことをめざして各自取り組むようにしている。問題文の読解につまずきのある児童もいるため、考え方のヒントになるキーワードを利用する。
- ②グループ学習……各自の考えを単に発表し合う場にするのではなく、自分の考えとの相違を意識したり、聞いたことで新しく分かったことを記録したり、分からないところを質問したりするなど、お互いに情報を発信し合うことができるようにさせたい。そのためには、話す側も聞く側も相手の目を見ること、分かった、分からないなどの意思表示を必ずすることなどの話し合いのルールを自然に守れるように指導する。また、自分の考えが相手に受け入れられる体験を通して、自ら進んで意見を発表できるようになることを期待している。

児童はこれまでに加減乗除の逆思考を含む問題に対して、絵や図で表現し問題を見直して解き方を考える学習をしてきている。本時は、問題を見直すにあたって、「子どもだけで」「大人だけで」「子ども1人大人1人を組にして」などの見方を変えるキーワードを児童とともに見つけることによって、「べつべつに」解く方法と「まとまりを考えて」解く方法の2通りの考えがあることに気づかせたいと考えた。

また、「子ども2人分が大人1人分と同じ」という置換の考え方など、2通り以外の考えに気づく児童がいれば、おおいに賞賛したい。

3) 単元の目標

ア. 「まとまりを考えて解く」思考の良さがわかり、進んで活用しようとする。(関心・意欲・

態度)

イ. 加減法と乗法を組み合わせた4要素の問題を、共通の要素に着目してまとめて考えることができる。(数学的な思考)

ウ. 加減法と乗法を組み合わせた4要素の問題を、まとまりを考えて解くことができる。(表現・処理)

4) 単元学習計画 (3時間完了)

時	児童の活動 (学習内容)	教師の活動 (指導・支援 ※評価)
1 本時	○「べつべつに」解く方法と「まとまりを考えて」解く方法の2通りの考え方があることに気づく	○問題の見方を変えて、2通りの考え方で解く学習であることを知らせ、学習の見通しを立てる。 ○考え方を絵や図に表して説明することを知らせる。
2	○加法と乗法を組み合わせた問題を、「まとまりを考えて」解く。	○「べつべつに」解く方法と「まとまりを考えて」解く方法の2通りの考え方で問題を解く。
3	○減法と乗法を組み合わせた問題を、「まとまりを考えて」解く。	○2通り以外の方法についても賞賛する。 ※加減法と乗法を組み合わせた4要素の問題をまとまりに着目して解くことができたか。(数学的な思考、表現・処理)

5) 本時の学習

①本時の目標

ア. 加法と乗法を組み合わせた問題を考えるにあたって、「べつべつに」解く方法と「まとまりを考えて」解く方法の2通りの考え方があることに気づく。(数学的な思考)

イ. 考え方を絵や図で表現し、分かりやすく説明することができる。(表現・処理)

② 準備

児童……見通しと振り返りカード

教師……遊園地の入場券の模型、問題を表す絵、ホワイトボード、水性ペン、プリント

③学習過程

段階	学習形態	学習活動	教師の支援・留意点・※評価
つかむ5分	全体	1 本時の課題を知る。 ・家族で遊園地へ行く。 ・おとな4人、子ども4人 ・入場料おとな200円 子ども100円 ・いろいろな考えで解く。 問題色んな方法で解こう。	○T1の話に合わせて問題の絵を、T2が黒板に掲示する。 ○本時は問題を色々な考えで解く学習であることを知らせる。 【評：本時の課題をつかむことができたか。(観察)】
取り組	個人	2 問題を3回読み、解き方の見通しを持ち、各自で解く。 ・問題を絵や図に表す。	○目的を持って問題を3回読むことを確かめる。 ①全体の把握 ②何を答えにするのか

む 35 分	グループ	<p>・解き方が分かるように絵や図を丸で囲んだり、言葉を書き加えたりする。</p> <p>3 グループで解き方を話し合い、意見をまとめる。</p> <p>・自分の考え方との相違を意識しながら話し合う。説明の分からない所を質問する。</p> <p>・説明の足りない部分をプリントに書き加える。</p> <p>・グループの代表意見を決める。(ホワイトボードに記入)</p> <p>○べつべつに 子ども：100×4=400 おとな：200×4=800 あわせて：400+800=1200 <u>1200円</u></p> <p>○いっしょに 子ども1人おとな1人で：100+200=300 子ども1人大人1人の組は4組できるから：300×4=1200 <u>1200円</u></p>	<p>③答えを出すのに必要なもの</p> <p>○T1、T2で分担し、児童の取り組みの様子を把握する。つまずきのある児童の情報交換をする。</p> <p>○ヒントコーナーに入場券を置き、考えの分からない児童の援助をする。</p> <p>○司会・発表などの役割分担を明確にして話し合いがスムーズに行くよう支援する。</p> <p>○T1、T2で分担し、話し合いの内容を把握する。</p> <p>○グループの代表意見が複数ある場合は両方発表できるよう準備することを指示する。</p> <p>○「子どもだけ」、「大人だけ」、「子ども1人大人1人を組にして」などの見方を変えるキーワードを説明の中に入れるように助言する。</p> <p>○「べつべつに」、「いっしょに」以外の考えのあるグループには代表意見一つとして発表できるように助言する。</p> <p>【評：考え方の相違を意識し、分からないところは質問するなど、相手の考え方を理解しようとする話し合いができたか。(観察)】</p> <p>○T1が話し合いの司会、T2がキーワードなどのポイントにアンダーラインを引き、学習をまとめていく。</p> <p>○発表内容に不足な点があれば補足する。</p> <p>○「べつべつに」、「いっしょに」の考え方が意識できるように絵や図を使って説明するように助言する。</p> <p>○T2が「べつべつに」、「いっしょに」の考え方について説明する。</p> <p>○T1は理解の度合いを調べ、次時のフィードバックへの対応を図る。</p> <p>【評：2通りの考え方で問題を解く方法が分かり次時からの学習に生かそうという意欲が持てたか。(ノート、観察)】</p>
ま	全体	6 見通しと振り返りカードで本単元の目	○問題を「べつべつに」、「いっしょに」という2つの

と め る 5 分	個人	標と学習計画を知る。 7 本時の自己評価を記入する。	考えで解く学習であることを伝える。 ○時間があれば、本時の適用問題を提示し、まとまりを 考えて解く解き方のよさに気づかせる。 ○本時の取り組みについて自己評価する。 ○次時には本時学習した2通りの考えを生かし、まと まりを考えた解く学習であることを確かめ合う。
-----------------------	----	-----------------------------------	---

④評価

ア. 子どもと大人をべつべつに解く方法と、子ども1人大人1人のまとまりを考えた解く方法の2通りの考え方があることに気づくことができたか。(数学的な思考)

イ. 考え方を絵や図で表現し、分かりやすく説明することができたか。(表現・処理)

6) 授業を終えて

どのグループにも自分の考えを大勢の中で発表することに苦手意識をもつ児童がいる。今回は3人グループとすることで発表しやすくし、自分の考えを持ちにくい児童には、具体物を操作させたり、ヒントカードを使ったりすることで支援した。3人で話し合った後に、グループの考えとしてホワイトボードに図や絵で説明したが、司会、ホワイトボード記入、発表など仕事を分担して、一人ひとりが役割を持って意欲的に授業に参加することができた。

実践3 高学年

(1) 一人ひとりが明確な意見を持ち、数学的な思考力を育てる学び合い学習(高学年)

1) 単元 「さらに、分数のかけ算とわり算を考えよう」

2) 単元設定の理由

本単元は、「分数×整数、分数÷整数」をもとに「分数×分数、分数÷分数」を扱う。整数をかけたり、わったりするのは違い、イメージがとてつつかみにくい。(分数)×(分数)の場合、整数をかけるときのように同数累加では説明がつかない。そこで、立式に際しては、具体的な問題を通して、分数倍も整数倍と同じであることを類推させ、その後計算の仕方をじっくり考えさせていきたい。ここでは、既習の乗除計算を手がかりとして答えを出したり、面積図、線分図をもとに視覚的に考えたりできるようにし、子どもたちが自ら計算の仕方を見つけ出せるよう支援したい。本時でも、具体的な問題を通して立式を行い、既習内容をもとに計算の仕方を考えていけるように導いていきたい。

本学級は、男子15人、女子12人の27人で、比較的男女仲良く、授業にも積極的に取り組む児童が多い。また、算数科だけでなく、各教科において興味ある物事に意欲的に取り組む姿勢が見られ、グループやペアでの話し合いも好んで行う。特に、グループ活動においては、司会者カードを作成して、どの児童にもグループの意見の取りまとめができるようにしているため、話し合いを抵抗なく行うことができている。しかし、積極的に手を挙げて発言はするが、筋道を立てて発表することはまだ十分にはできないため、話している内容が他の児童に理解できなかったり、

途中で話の論点がずれたりする。また、グループで意見を出し合うと、どうしても考えを素早く出せる児童がその活動の中心となって答えをまとめてしまう傾向があり、その他の児童が聞き役になってしまうことがよく見られる。

そこで、本単元では、毎時間の課題を、「計算の仕方を考える活動」に重点を置いたものにする
こと、個人思考の時間を十分に取ることに留意して学習を展開していきたいと考える。それにより、算数が得意な児童は複数の解法を見つけ出し、一方、算数が苦手な児童も、ヒントプリント、教師や友だちの助言のもとで解法を見つけ出し、達成感を持てるように支援したい。さらに、発表の場面では、既習事項をキーワードとして説明させることにより、相手に分かりやすく伝えることができるような手助けをしたい。本単元の学習を通して、どの子も既習内容をもとに図や式などを用い、「これを使うとできるぞ」という気持ちで学習に取り組むことができるようにしていきたい。そして、自分の力で考え、工夫して解決したり、友だちに解法を説明したりすることにより、数学的な思考力、表現力を育てていきたいと考える。

3) 単元の目標

関心・意欲・態度	分数に分数をかけたり分数でわったりする計算の仕方を、進んで考えようとする。
数学的な考え方	分数に分数をかけたり分数でわったりする計算を、図や式をもとに、筋道を立てて考えることができる。
表現・処理	分数に分数をかけたり分数でわったりする計算ができる。
知識・理解	分数に分数をかけたり分数でわったりする計算の意味を十分に理解している。

4) 学習計画 (14 時間完了)

時間	小単元	指導内容
1	分数をかける計算	・課題設定、分数の乗法・除法の場面の理解 ・整数×分数の立式の意味とその求め方
2 (本時)		・分数×分数の立式の意味とその求め方
3		・分数をかける計算で、整数を含む場合と約分のある場合
4		・分数のかけ算の練習
5	分数のかけ算を使って	・分数の意味、分数倍を使った割合
6		・分数を使った面積の求め方
7		・分数を使った時間の求め方
8	分数でわる計算	・整数÷分数の立式の意味とその求め方 ・整数÷分数の等分除の問題
9		・分数÷分数の立式の意味とその求め方
10		・分数のわり算の練習
11	分数のわり算を使って	・分数倍を使った割合
12	どんな計算になるのかな	・分数の乗除の演算決定と作問
13	たしかめ道場	・評価
14	復習	

5) 本時の学習

①目標

ア. (分数) × (分数) の計算の仕方を既習内容を用いて面積図や式、線分図などをもとに考えることができる。

イ. (分数) × (分数) の一般的な計算の仕方を理解し、計算することができる。

②生き生きと活動させるための手だて

ア. 一人ひとりが話し合いに参加できるように個人で考える時間を十分にとる。

イ. 自分で計算の仕方を考えることができるように既習内容を掲示する。

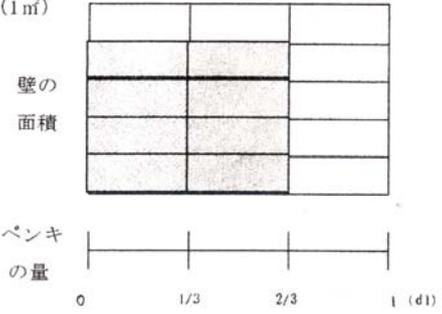
③準備

教師……マジック、問題の拡大図、プリント、ヒントプリント

児童……がんばったよカード

④学習過程

段階	学習活動 ◎主な発問	形態	○支援・留意点 【評価 (方法)】
つかむ 7分	<p>1 問題を読み、題意をつかむ。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、立式する。 $4/5 \times 2/3$</p> <p>3 前時の問題とどこが同じでどこが違うか考え、今日のめあてを決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>(分数) × (分数) のかけ算の計算の仕方を考えて、計算ができるようにしよう。</p> </div>	全体	<p>○前時の問題と比較し、「1/3 dl」が「2/3 dl」になったということをおさえる。</p> <p>○前時と本時の式を比べさせることにより本時の問題は乗数が単位分数ではないことに気づかせる。</p> <p>【前時の問題と比較し、本時の課題を考えようとしたか。(発言)】</p>
取り組む 25分	<p>4 既習内容を用いながら、計算の仕方を考え、発表する。</p> <p>◎前回見つけ出した方法を使ってこの分数の計算の仕方を考えましょう。</p> <p>(1) 自分の考えを用紙に書く。</p> <p>ア 式</p> $\frac{4}{5} \times \frac{2}{3} = \left(\frac{4}{5} \times \frac{1}{3} \right) \times 2$ $= \frac{4}{5 \times 3} \times 2$ $= \frac{4 \times 2}{5 \times 3}$ <p>2/3 は3つに分けたうちの2つ分</p> <p>イ 面積図</p>	個人	<p>○誰にでも分かるような発表ができるように筋道を立てて、分かりやすく書くように助言する。</p> <p>○考えが持てない児童には、既習内容で使えるものはないか助言したりヒントプリントを渡したりする。</p> <p>・面積図 ・式 ・線分図</p> <p>○早く取り組めた児童には、他の方法でも考えてみるよう助言する。</p> <p>【既習内容を用い、計算の仕方を考えることができたか。(プリント)】</p>

	<p>(1㎡)</p>  <p>壁の面積</p> <p>ペンキの量</p> <p>0 1/3 2/3 1 (d1)</p> <p>(2) 自分の考えた計算の仕方をグループ内で発表し合う。</p> <p>(3) 全体発表を聞きながらいろいろな計算の仕方や説明の仕方があることを知る。</p>	<p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>○一人ずつ順番に発表すること、既習内容と関連づけて分かりやすい発表ができるようにすることをおさえる。</p> <p>○自分の考えがまとまっていない児童には、友だちの発表を聞くことにより自分の計算の仕方を見つけたすことができるように助言する。</p> <p>○分かりやすい説明ができている相手のことを理解しようとして一生懸命聞いている児童を賞賛する。 【既習内容と関連づけて、筋道を立て、相手にわかりやすく説明できたか。(発言)】</p> <p>○全体での発表を通していろいろな考え方やいろいろな説明の仕方があることを知り、理解をより深めさせる。</p>
<p>深める</p> <p>10分</p>	<p>5 (分数) × (分数) の計算の仕方を一般形としてまとめる。</p> <p>(1) 面積図を使って $1/3 \times 4/5$ の計算の仕方を考える。</p> <p>(2) 計算の仕方気づいたことを考える。</p> <p>◎計算の仕方気づいたことはありませんか。</p> <p>6 p. 29 の練習問題を解く。</p>	<p>全体</p> <p>個人</p>	<p>○プリントに書いた式と答えに注目させることにより分数×分数の計算では分母どうし、分子どうしをそれぞれかければよいことに気づかせる。</p> <p>○答えの分かっている $1/3 \times 4/5$ でも、同じように計算ができることを確認し一般形にまとめていく。</p> <p>○一般形を用いて計算するよう声がけする。 【(分数) × (分数) の計算ができたか。(ノート)】</p>
<p>まとめる</p> <p>3分</p>	<p>7 本時の学習を振り返り、がんばったよカードに記入する。</p>	<p>全体</p>	<p>○「計算の仕方を考えることができたか。」「友だちに自分の考えをわかりやすく伝えることができたか。」など問いかけ学習の振り返りができるようにする。</p>

⑤評価

- ア. (分数) × (分数) の計算の仕方を面積図、式、線分図を使って、考えることができたか。
- イ. (分数) × (分数) の計算の仕方を図、式を使い、筋道を立てて、相手にわかりやすく説明することができたか。
- ウ. 考え方から (分数) × (分数) の一般形を理解し、計算することができたか。

6) 考察

「取り組む」の後半で行うグループ内の話し合いのために、十分に個人思考の時間をとったのは有効だった。しかし、当初の予定ではいろいろな考え方を出すための個人思考であったが、考え方は面積図がほとんどであった。そのため、本単元では、基本となる面積図を中心に教えていくべきであった。その後、「深める」の段階で $3/5 \times 4/3$ のようなかける数が仮分数の問題を面積図を使って求めると、学びが深まるのではないかと考えられる。

また、筋道を立てて発表することについてはこの単元を通して、グループ内の発表や全体発表で自分の考えを述べることにより、少しずつ相手に理解してもらうための論理的に物事を組み立てる力についてはついてきたように思える。

しかし、まだ人前に立つと自信がなかったり、文につながりがなかったりと、相手が理解できる内容を話すには程遠いものである。今後も算数だけでなく、教科全体で「話す力」を育てていきたい。



図 26 全体への発表



図 27 グループ内の話し合い

4 成果と課題

低学年では、学び合いの基礎を育てるため、グループで役割を分担して、楽しく学習に取り組みさせる中で、基礎的・基本的な内容の定着を図り、学び合いの基礎を育てることができた。

中学年・高学年では、グループ学習での学び合いを深め、自分の考えを分かりやすく相手に伝える力が少しずつついてきた。少人数授業を行うことで、一人ひとりの発表の場が確保され、満足感を感じさせるものになった。しかし、筋道を立てて分かりやすく発表する力は、一朝一夕に身につくものではない。発表する力を育てるには、聞く力も鍛えていく必要がある。今後もより良い算数科指導のあり方を追究し、子どもたちに必要な力を身につけさせることができるよう、実践を積み重ねていきたい。

子どもたちがかかわり合って学習する授業の実践

「学び合い」の授業の基盤を創り上げるために

宇佐見沙里（犬山北小学校）

小澤 敬（東小学校）

青山 知夏（東小学校）

森田千絵美（犬山南小学校）

勝村偉公朗（楽田小学校）

はじめに

子どもたちが相互にかかわり合って学習を深める「学び合い」の授業を実践するには、相互にかかわり合う力、すなわちコミュニケーション能力の育成が不可欠である。さらには、児童相互のより良い人間関係に支えられた学習集団を育成することが必要である。毎時間の授業の中で、教科としての内容やねらいの習得、達成だけでなく、幅広い人間性や人としての豊かな心を同時に育てていくことが「学び合い」の授業である。

本グループでは、子どもたち相互のかかわりを重視した学習活動を位置づけ、実践した具体的な手立てや成果を持ち寄り、話し合いを進めてきた。その中でも、コミュニケーション能力と児童相互の良好な人間関係を重視して授業実践に取り組むことで、より良い「学び合い」の授業づくりをめざしていく足場を作り上げたいと考え、実践に取り組んできた。

1 主題設定の理由

子どもたちが相互にかかわり合って学習を展開していく「学び合い」の授業を実現するためには、基盤となる力を育てる必要がある。その基盤は「聴く力」「話す力」を中心としたコミュニケーション能力と、仲間と相互にうまくかかわることができる人間関係づくりであると考えている。

そこで、基盤となる2つの資質に視点を当てて授業実践をすることで、より良い「学び合い」の授業づくりができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の構想

（1）研究の目的

教師だれもが「学び合い」の授業を実践するために、その基盤となるコミュニケーション能力の育成や人間関係づくりを進める具体的な手立てを、実践を通して明らかにする。

(2) 研究の仮説

「聴く力」「話す力」とともに、仲間を大切にすることを育てていけば、「学び合い」の授業の基盤が身に付き、子どもたちが主体的にかかわりあって取り組む授業が可能になるであろう。

(3) 研究の方向

1) 聴く力を育てる

学習の基本は「聴く」ことである。話し合い活動（学び合い）には聴き合いの活動がベースになる。「聴いているふりをしている子」ではなく、「仲間を大切にしたい聴き方のできる子」「仲間の考えを聴き分け、自分の学習に生かす子」を育てたい。

「聴く姿勢って大切なんだ」「仲間の考えを大切にしたい聴き方をしよう」と子どもが感じる指導を積み重ね、聴き合うことが優しさ、相手を大切にすること、「聴いているよ」というビームを送る、という具体的な姿の実現を図ろうと考えた。

主な手立てとして次の4点に留意した授業の組み立てを行った。

①めざす姿（聴き方名人のステップ表）を子どもとともに創り出す

例 ・姿勢をよくする

- ・話をしている人の顔を見る
- ・自分の立場が分かるような合図を送る（反応する）
- ・自分の考えと比べながら聴く
- ・すばらしいところを見つけて聴く

②待つ

全員の視線が集まるのを待つ。「よく気がついたね」「今日は～秒でそろったね」

③価値づける

「教えて欲しい」「分かってほしい」「聴かせて欲しい」等の気持ちで聴いている姿を評価する。

④教師が話し過ぎない

2) 話す力を育てる

どうして話し合うことが大切なのかをしっかりと理解できている子どもたちを育てたい。

「話し合いは聴き合う活動なんだ」「話し合いをするとやる気になるよ」「こんな視点で考えればいいってことがわかるね」「新しい考え方に気づくことができるよ」「話し合いは考える力や判断する力を高めてくれるね」といった意義を子どもたち自身が知ることが大切である。「自分の思いを自分の言葉で話すのはとても楽しいし、大切なことだ」と子どもが感じる指導を積み重ねた。

主な手立てとして次の4点に留意した授業の組み立てを行った。

①めざす姿（話し方名人のステップ表）を子どもとともに創り出す

例 ・「はい」の返事

- ・みんなの方を見て話す
- ・大きな声ではっきりと

- ・何回でも手を挙げる
 - ・理由づけや考えのわけを加えた発言をする
 - ・友だちの考えやわけのちがいにふれる発言をする
 - ・友だちに分かりやすく話す
 - ・友だちの意見から学ぶ発言をする
 - ・感じたことや思いをありのままに話す
- ②聴く姿勢が育っている集団にする（話しやすい仲間であること）
- ③話そうとする姿勢や話しはじめて止まってしまった瞬間を認める。声の大きさには最初はこだわらない
- ④まず、仲間の前で話をするきっかけをつくる
- ⑤考えの足場を作る（様々な交流活動の位置づけの工夫）
個人での思考→ペア交流やグループ交流→全体交流といった流れを工夫する。
- ⑥位置づけ、価値づけ、方向づけをする
- ⑦教師が話しすぎない

3) 主体的に学習する子を育てる

魅力ある教材との出会い、強い課題意識の醸成、教科の学び方の習得、子どもの思考が連続する単元指導計画の工夫などの視点に立った授業づくりの中で主体的に学習する子の実現をめざす。

3 研究の実際

(1) 実践1 2年生 生活科「夏野菜新聞の発表会をしよう」

1) 児童の実態

4月、2年生の子どもたちは、前年の2年生が育てていたエンドウマメの収穫をすることから学年園での活動が始まった。トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、トウモロコシ、二十日ダイコン、サツマイモを友だちと一緒に育て、生長の様子を観察したり、収穫したりすることで自然への関心と親しみを持つことができた。また、採れた野菜を家に持ち帰り、家族と一緒に調理したり、味わったりすることで、苦手な野菜も少しずつ食べられるようになってきた。

収穫の最盛期である7月には、今までの野菜作りの活動を新聞にまとめるとともに、ポスターセッションの方法で発表会を開くことにした。

2) 授業実践

①事前学習

発表会前にアンケートをとり、ナスの大好きな子どもと、ナスは大嫌いだけれど少し仲良くなってもよいという子どもが混じったグループ編成を組み、5種類の夏野菜（キュウリ、ナス、トマト、ピーマン、トウモロコシ 二十日ダイコン）のグループに分かれて新聞づくりに取り組んだ。図書館から本を借りて、同じナスでも地域によって少しずつ違うことや、キュウリの葉の病気のことなどを調べた。また、畑の先生に二十日ダイコンについている虫のことを聞きに行く子

どももいた。畑で2種類のトマト（リリコトマト、イタリアントマト）の違いを観察したり、1mものさしを持って、トウモロコシの背の高さを測ったり等々、どの子ども野菜のどんなことを知らせようか真剣に考えるなど、友だちと生き生きと活動していた。

②発表会

発表会当日はグループの中で交代して、発表と聞きに行く活動をした。子どもたちは駆け足で自分の交代場所に行くほど積極的であった。自分たちで野菜を切り、中を見て、においも確かめた。中には、生でかじって食べているグループもあった。ボランティアの保護者が作った試食の料理も、嫌いな野菜が入っているにもかかわらず、「おいしいね!」「もっと食べたい!」と食べることができ、教室に帰った後、「レシピがほしい!」と全員の手が元気よくあがった。振り返りのワークシートには、「今日の発表会



図 28 発表会の様子

で大きな声で発表できた。」「お友だちは拍手してくれたよ。」「〇〇くんが苦手な野菜を食べられるようになったからうれしかったよ。」と、友だちや自分を認める言葉が多く書かれていた。

③学習を終えて

今回の学習の中で、友だちと一緒にいろいろなことを体験することで、子どもたちが、自分たちでアイデアを出し合ったり、時には立ち止まったり、活動を広げていったりしていった。グループ内で一生懸命な気持ちが先立ち、友だちに強い口調で話してしまい、グループの他の子どもと対立してしまったり、話し方が分からず黙って見ているだけの時があったりする中、活動の度に、「友だちの話聞く」「自分の気持ちを伝える」ということを伝え、一人ひとりがお互いのかかわりを大切にしてほしいという願いを持って取り組んでいった。今後も、さらに、体験することを通して、子どもたちが友だちとのかかわりを一層豊かに、お互いを認め合っていけるような授業づくりをしていきたい。

青山知夏

(2) 実践 2 2年生 国語科「主語と述語に気をつけよう」

1) 児童の実態

2年生の本学級児童は、作文は嫌いではないが、正しく言葉を選んで、相手に伝えたいことがきちんと伝わる文章にすることは苦手である。作文は自分一人で書くために、よりよい書き方の基準と照らし合わせる活動が少なくなりがちである。良い文章や分かりやすい文章に触れる機会を多くしたり、グループや学級で相談して文章を創り上げていく活動を取り入れることで、文章を書く技能を少しでも高めることができるのではないかと考えた。

2) 授業実践

①目標

絵をもとに、主語と述語のある文を書くことができる。

②学習過程

主な学習活動と予想される児童の反応	形態	指導・援助【学び合う姿の評価】
1 今まで学習してきた主語と述語の復習をする。 ・あたまは主語だったね。 ・からだは述語だね。 ・主語と述語が必要なんだね。 課題：しゅ語とじゅつ語がそろった文をつくろう	一斉 3分	・短冊を提示して、文のあたま（主語）と、文のからだ（述語）がそろった文を書くことを思い出させるようにする。
2 絵を見て、主語になりそうなものをあげる。 ・おじいさん ・おばあさん ・手ぶくろ ・犬 3 主語と述語がそろった文を考える。 ・犬が走っています。 ・おじいさんが手ぶくろをひろいます ・女の子が雪だるまを作ります。 ・バケツは赤いです。 ・空は青いです。	一斉 3分 個人 5分 ペア 7分 全体 5分	・人やものなどが主語になることを思い出すよう助言する。 ・絵を見て、主語と述語がそろった文を考える。（自己決定） ・作った文をペアで交流させ全員が自分の考えた文を発表する場を確保する。（自己存在感） ・全体で発表するよう促す。 【評：活発に交流することができたか。】
4 新しい絵を見て、主語と述語がそろった文を考える。 ・男の子が笑っています。 ・女の子がテレビを見ています。 ・雪がつもっています。	グループ 13分	・グループ内で順番に、ホワイトボードに記入し、全員が活躍できるようにする。 ・グループみんなで取り組む姿勢を大切にする。（学び合い）
5 グループで考えた文を学級全体に広げる。	全体 6分	・集合隊形に集まって、それぞれのグループの考えた文を発表し合う。
6 学習内容を振り返る。 ・主語と述語がそろっているとわかりやすいよ。	全体 3分	・本時の学習をふり返り、わかったことや気づいたことを発表し合う。（振り返り）

③学習を終えて

- ・ペア交流は全員が活躍できる場であり、積極的に意見交換を行うことができた。
- ・1つのホワイトボードをグループ内で順番に回すことによって、グループ内で教え合いながらの学習を進めることができた。
- ・仲間との交流を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。

森田千絵美

(3) 実践3 3年生 社会科「人々のしごととわたしたちの暮らし」

1) 児童の実態

本学級（3年生）には、社会科の学習が好きだと胸をはって言う児童は少ない。だが、社会科

の授業に取り組む様子は、他の教科よりも真剣であるように感じる。ワークシートへの書きこみも、他教科より速い。特にグループや学級全体で行う模造紙へのまとめやマップづくりに対しては、大変意欲的である。慣れない地図を一生懸命に見て、「ぼくの家はこれだから、きっとこの辺りだよ」などと言って消防施設の所在地を地図に書きこむ姿を見ていると、まさに関わり合って学習しているなという感覚を得ることができる。ただし、何か1つの物を作成するのではなく、考えを述べ合うことで、関わり合って授業をすることはできないだろうか考えると、もう一段難しい。そこで、その課題を克服するために、「人々のしごととわたしたちの暮らし」の学習の中の、「スーパーマーケットではたらく人」を題材とした実践を試みた。

2) 授業実践

本校では、昨年度から「自らの食を考え、主体的に学び、実践する子—食育カリキュラムの開発を通して」として、文部科学省や犬山市教育委員会の委嘱を受け研究に取り組んできた。その中で、食育の目標と教科の目標を両方とも達成できる授業はできないだろうかという試みがあった。そこで、私は食育に関連させた今回の授業を「発展的な学習」と捉えて行うことにした。

基礎・基本を身につける学習では、「人々のしごととわたしたちの暮らし」としてスーパーマーケットの見学に行き、買い物をする消費者としての願いや、お店として選んで利用してもらうための工夫や努力を学んだ。そこから、「発展的な学習」では、消費の場をスーパーマーケットからコンビニエンスストアに移し、そこではどのようなお店の工夫や努力が存在するのかに迫った。その際、場面設定型の課題を提示することで、子どもたちに考えさせる方法をとった。

○教科に関する目標

- ・アンケート結果を用いて、消費者に利用される店を工夫する。(技能・表現)
- ・コンビニエンスストアで働く人の工夫や努力を知る。(知識・理解)

○食に関する目標

- ・栄養バランスを考え、それに見合った弁当を選ぶ。(思考・判断)

本授業は、事前にコンビニエンスストアで働く人にアンケートを実施し、その結果を予想し、分析しながら、そこで働く人の努力や工夫を知ることがねらいとした。そして、そのねらいを確かなものにするため、コンビニエンスストアの消費で大きな割合を占める弁当の中から、より消費者に喜ばれるものを選ぶ「新商品の決定」、より消費者に気持ちよく利用してもらうための「店長としての工夫」といった二つの課題を取り入れた。また、課題「新商品の決定」の中で、今までの食育学習の知識を応用して、消費者に好まれる体に良い弁当を選択できることを目標とした。つまり、消費者の健康志向と、店側のお客のニーズに応える商品開発と、自らの食に対する思考・判断の3つが一致できれば、これ以上ない成果であると考えて取り組んだ。

3) 学習を終えて

この実践では、場面設定型課題を通してグループで考えを伝え合うことで、より幅広い考えを持つことができた児童がいる。例えば、ワークシートに示した児童は、「デザートは小さい子でも食

べられるから、自分が店長ならデザートたっぷりあま〜い弁当を売り出したい」としていたが、グループ内で議論をした結果、できたて店内調理弁当を売り出すことになった。自分の考えは自分の考えとして大切に持ち続けることも必要だが、議論をしてより説得力のある意見を作ること重要である。自分の考えを研ぎ澄ますためにも、友だちどうして関わり合い、意見を交換する授業は社会科でもどんどんしていくべきであろう。

3年社会科学習プリント26
 コンビニエンスストアではたらく人のくふうやど力を知ろう
 ()組 ()番 名前 ()

コンビニごっこしよう

【ルール】
 みんなは、今からコンビニエンスストア「ショップ33東店」の店長さんになります。「ショップ33東店」は、東小学校のすぐ近く、ほほえみの前にあります。さあ、店長さん!! お店にお客さんがいっぱい集まるために、2つのことをくふうしよう。

①先ほどのアンケートからべんとうがよく売れることがはんめいしました。そこで、店長さん!! 新しいべんとうを売りましょう。さあ、店長さん! どのべんとうを売りますか。右下の口にあ〜エの記号を、下の□にえらんだりゆうを書きましょう。

ア・野菜たっぷりバランスべんとう	自分の考え	ウ
イ・お肉たっぷりボリュームべんとう	グループの考え	エ
ウ・デザートたっぷりあま〜いべんとう		
エ・できたて店内調理べんとう		

どうして、そのべんとうにしましたか。りゆうも書きましょう。

自分のりゆう

グループのりゆう

②べんとうが決まったら、さあ、店長さん!! あとはお客さんによるこんでもらうためにどんなお店にしたいですか。先ほどのアンケートをさん考にして考えましょう。

自分の考え	デパートせんよう コンビニ ひろくてきれいでトイレがきれい
グループの考え	あたらしいきれいなコンビニ

社会科としてのわらいの達成例
 児童A：できたては温かくておいしいから売れると思ってエの弁当にしたよ。
 児童B：お肉のおかずは人気があるから売れると思ってイの弁当にしたよ。
 消費者の気持ちを捉えた明確な根拠が書けていれば、わらいが達成できたとする。

食育のわらいの達成例
 児童C：野菜は体によいから売れると思ってアの弁当にしたよ。
 アかエを選んで、且つ明確な根拠が書けていれば、わらいが達成できたとする。

社会科としてのわらいの達成例
 左に示した児童：トイレがきれいなお店。
 利用する人の立場でアイデアが書けていれば、わらいが達成できたとする。

図 29 社会科学習プリント 活用例

(4) 実践4 2年生 「子どもたちのよりよい人間関係をつくる」

1) 児童の実態

本学級の児童は男子17名、女子13名、計30名で、男女とも仲が良く明るく元気な学級である。休み時間になると、家でのこと、友だちのことなど、さまざまなことを人なつっこく話しかけてくる子も多い。また、仲間意識が高く、友だちを大切にしようという気持ちも強い。しかし、子どもたちは友だちを、「よく一緒に遊ぶから」とか「忘れ物をしたときにいつも貸してくれるから」という考えで捉えている傾向がある。少し嫌なことを言われたり、言い争いをしたりすると簡単に友だち関係が崩れてしまうことがある。休み時間には、限られた児童でグループを作って遊んだり、一人で本を読んだり、一人で外で遊んだりして過ごしている児童も何人かいる。

日頃見られる問題点として、友だちに自分の考えを上手く伝えることができず、頻繁に喧嘩の原因をつくってしまう児童がいることや、自分から仲間に入れないためにストレスを感じている児童がいることが挙げられる。また、数人の児童は兄弟の影響もあって夜遅くからの卑劣ないじめのドラマを必死に見続け、学校で真似をして遊んでいるということもあった。初めのうちは冗談のように始まった真似であったが、日を重ねるにしたがって周りの児童も見るに見兼ねる状態となっていく。教室内では、「この前はこういうシーンがあったんだよ」といつも話していたのは知っていたので、「早く寝ないといけないよ」「そんなの絶対真似してはいけないよ」と声をかけていたが、ある時、子どもが下校した後の教室で細かい字が書かれたノートの切れ端を拾ったのである。そこには、だれを、どのような方法でいじめたかというテレビ番組の内容が記入されていた。さらに、実際に教室の中で行われたことがあった内容も書かれていた。このような現実直面し、気をつけて様子を見ながら具体策を検討し早急に改善する必要があると考えた。児童らには、やってはいけないことと分かっているが先生が知らないと思って続けていたという事実もあった。

そこで、今までの自分の言葉づかいや行動を振り返り、友だちの大切さ、命の大切さを改めて見つめることで、素直な気持ちで互いを認め合い、共に学び・共に育とうとする気持ちを養いたいと考えた。

2) テーマに迫る基本的な考え方

研究の仮説

人に対する優しさや人を思いやる心を持つことが本当の友だちになるために大切であることを理解させることができれば、テーマに迫れるのではないかと考える。

仮説に迫る実践の手立て

ア. 朝の会・帰りの会を活用して

子どもたちに語りかける場を利用して、子どもたちの良いところ（言葉づかいや言動）を褒めることで、友だちに対する言葉づかいや人に対する思いやりを伝えるようにする。

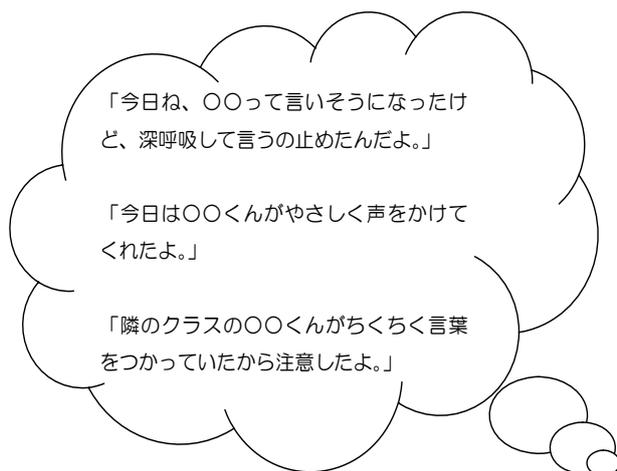
イ. 授業を活用して

素直な気持ちで友だちと接することができる学級へと高めるために、道徳の授業「おやこのぞう」を通して「友だちの大切さ・命の大切さを見直す場」を用意する。また、学活ではDVD

「チャーリーとチョコレート工場」を通して「素直さや人に対する優しさを考える場」を用意する。自分を見つめながら、互いに協力し合い良いところを認め合うきっかけづくりをする。

3) 朝の会・帰りの会での取り組み

言葉づかいを見直すにあたって、子どもの様子を見てみると、一度や二度話をするだけではなかなか定着しないと思われたので、毎日くどいくらいに「みんな最近の言葉づかいはどう？お友だちに向かってちくちく言葉を使っていないかな？」と話をした。一日過ごす中で、言葉づかいの良かった児童の名前を挙げて褒め、他の児童が自分も名前を呼ばれたいという気持ちから言葉づかいへの意識づけを図った。そして、「絶対にちくちく言葉をつかってはいけないよ」という気持ちよりも、「今みんな言葉づかいを直している途中だから、うっかり言ってしまうのは仕方ないね」という気持ちを大切に、「お友だちがうっかりちくちく言葉をつかってしまったら、周りのみんなから注意できるといいね」というように、学級全体で言葉づかいに気をつけようという意識を高めるようにした。特に自己評価などのチェック表を用意することのない取り組みではあったが、一人ひとりが自分のため、クラスのために協力でき、今ではとても良い雰囲気になってきている。こちらからは何も言わなくても、子どもたちの方から



というような声が聞こえてくるようになった。一呼吸置いて、自分を制御する力もついてきているようだ。

4) 道徳「おやこのぞう」

本資料は、森の中で突然起きた火事の中、恐ろしさに身がすくんで動けなくなった子供象を母親象が自分の生命すべてをかけて守るという話である。この話から生命の尊さに気づき、自分や周りの人の命を大切にしようとする気持ちを高めたいと考えた。この資料は、本来なら家族愛と関連を持たせて取り扱うものであったが、学級の状況と照らし合わせ、「母親象の死」から「死に方」へと課題の方向を変えた。

「この母親象は自分の子供を必死に守ったために死んでしまったんだよね。みんなが知っている死ってどんなのがある？」

という発問に対し、子どもたちは少し困った表情で

- ・病気で死ぬ
- ・刺されて死ぬ
- ・歳をとりすぎて死ぬ
- ・自殺
- ・毒を飲んで死ぬ

というように、予想通りの返事が返ってきた。そこで、今回一番取りあげたかった「自殺」について聞いてみた。「自殺ってどんな時にするの?」という発問に対して様々な意見が出てきたが、いじめごっこを楽しんでやっていた児童たちが、一番に手を挙げて「例えば、いじめられている子が生きていくのがいやになったときとかに自殺するんだよ」と発言した。周りの児童も相槌を打つように「そうそう」と言っていたが、発言した彼らと同じようには理解していないだろう。



この後、教師自身の体験談を話し、いじめというものが絶対に許されないものであるということと、見て見ぬふりをしている周りの子もいじめたことになるという話もしたところ、児童らはとても驚いた表情を示し、該当する児童は「しまった…どうしよう」という表情をしていた。ここまでは、該当児童3名（以下A、B、Cとする）は分かっていたものの、特に個人指導はしないで、学級で言葉づかいや命の大切さを見直し、考えてきた。頭の切れる賢い児童であったためどこまで本当のことを自分の口から話すか不安ではあったが数日後にA、B、Cを一人ずつ呼んで話を聞くことにした。

A: 学校で話をしたらBも同じ番組を見ていて、はじめのうちはそのドラマの話をするのが楽しかったけれど、少しずつまねをしてみようと思うようになり、番組を見ていなかったCも誘ってやってしまった。遊びでまねをするくらいはよいと思っていた。先生は絶対に知らないと思っていたし、なんとなく楽しくなってきたから続けていた。周りの友だちには注意されたけど、「絶対に先生に言うなよ」と返事した。

B: Aとドラマの話をするのが楽しくて楽しくて仕方がなかった。先生は知らないと思っていたけれど、言葉づかいを見直すことや道徳の授業を進めていくにつれて、なんとなく先生に気づかれたと思ったし、自分のことを言われていると気づいていた。一度はやめようとみんなで話したけれど、面白かったものだからやめられずに続けてしまった。

C: 見ていておもしろそうだったけど、やってはいけないとわかっていた。A、Bに誘われて、

本当は断りたかったけれど、二人が怖くて断りきれなかった。仲良しの友だちである自分が注意してあげようと思ったけれど、できなかった弱い自分がいやだ。はじめは冗談から始まったものの、だんだん本当ようになってきてとても怖かった。仲のよい〇〇さんが「そんなのやめたほうがいいよ」と何度も言ってくれてうれしかった。

以上のようにそれぞれの思いを涙を流しながら話した児童もいた。どうして呼ばれたのかも理解していたようだ。その後、3人呼んで今思っていることや本当の自分の気持ちなども互いに伝え合せた。その結果、3人ともスッキリとした表情で下校していった。学年の先生方にも相談して今回は学校で個別指導だけを行うこととした。しかし、3人の児童には、自分で整理して自分の口からお家の人に今回のことを話すように伝えた。3人の児童は帰宅後すぐに話したようで、慌てて学校へ電話をかけてくださった保護者もいた。家庭では、「一度失った信用は取り戻すのに時間がかかるよ」などと指導を受けたようで翌朝、3人の連絡帳を受け取った。低学年でこのようなことが起きるとは予想もしていなかったため、戸惑いはあったが今回は3人が素直な心で親や担任に話しをしたのでよかったものの、どの学年でも本当に気をつけて見ていないといけないことが分かった。

5) 学級会での取り組み DVD「チャーリーとチョコレート工場」

学級の中で、さまざまなことがあったけれど、今では一人ひとりが言葉づかいに気をつけ、自分がやってしまったことを隠さず正直に報告することができるようになってきている。また、教室で困っている友だちを見つけると「どうしたの?」と自然に声をかけたり、「〇〇したほうがいいよ」「〇〇するんだよ」とアドバイスをしたり、周りの状況がだんだんと見えるようになり、学級がまとまるようになってきた。そこで、より学校生活を楽しく、みんなで共に成長していくために自分が見て感動したものが子どもにも伝わればと思いDVDを見せた。

性格や生活環境の異なる5人の子ども（食いしん坊の肥満少年、お金持ちでわがままな少女、勝つことにこだわる少女、テレビ好きで反抗的な少年、家は貧しいが家族思いの心優しい少年）が謎に包まれたお菓子の工場に招待され、工場の中で夢のような不思議な光景を体験していく。ところがその途中で、まるであらかじめ仕組んであったかのようなハプニングが起きて、子どもたちはどんどん消えていく……という話で、どんな時も素直な気持ちで、人に対して優しくして欲しいという願いを込めて見せたところ、どの子にもこの思いが届いたように感じた。子どもたちからは、

- ・優しい心を持つこと
- ・素直に育つこと
- ・わがままを言わないこと
- ・欲張らないこと

のような感想が得られた。考え方や思いは異なるけれど、DVDを見る前に伝えた一言で意図したことがきちんと子どもの心に届くことが分かった。

6) 実践を終えて

これからも子どもたちは、生活の中でさまざまなストレスにぶつかることと思う。そのようなときに、自分の悩みを打ち明け、相談することで、解決できればよいが、自分の力で解決できない子もいるのが現状である。そんなときに、気づくことができ、また適切な対応を考えてアドバイスできるようにしていきたい。今回、たまたま拾ったノートの切れ端のおかげで早めにいじめごっこに気づき、全体への指導を通してクラス全員で生活を見直すことができた。また、人を思いやる心を伝えるため、当人たちにしてはいけないことを気づかせるために行った授業で本人たちに反省を促し、個別の話ができたこともよかったと思う。自分自身で親へ報告し、保護者の協力が得られたことも信頼関係を築く大切なできごとになったと考える。

まだまだ未熟ではあるが、常に子どもたちの様子やクラスの雰囲気に注意すること、日常の中で言葉がけや例え話などで子どもたちの心を育てること、学校の様子を伝えたり、家での様子を知ったり、家庭との連携をとること、言葉づかいで気をつけたいこと、つまり、相手を思いやる優しい声かけ、言葉がけをどのように身につけさせていくかを課題として、広い視野、広い心で子どもたちを見て、毎日が楽しいと言える日々を過ごしていけるよう、「共に学び 共に育つ」を常に心がけていきたい。

宇佐見沙里

4 成果と課題

今回の実践から、一人の子が周囲の子とのかかわりによって自身を成長・変容させたり、仲間に良い影響を与えたりすることをいかに意識して子どもたちに働きかけていくかが重要であることを認識した。コミュニケーション能力の育成やより良い人間関係の構築を意識した実践を行うことで、教師自身の子どもたちに対する姿勢が変わった。その姿勢こそが学級全体を高めることにつながり、学級全体の向上が一人の子どもの「育ち」や「学び」に還元されていったと考えられる。また、教科としてのねらいの達成だけでなく、人としての仲間とのかかわり方や仲間とともに学び、伸びようとする心や態度を同時に学んでいくことを、日々の授業の中で地道に積み上げてきたからこそ、子どもたちの成長につながったと考える。方法やしかけは様々であるが、子どもたちの相互関係、相互信頼を基盤にした「学び合い」の授業をめざした実践の中で、確かな手応えとして実感することができた。

(1) 成果

- ・学校を越えて実践を持ち合い、共通の課題意識を持って実践に取り組んだことで、ねらいとしていた「コミュニケーション能力の育成」と「児童相互のより良い人間関係づくり」について手応えを感じる事ができた。
- ・どの学校においてもめざす方向性がある程度一致しているため、多くの方法が参考になったと同時に、それを追試していくことで手立ての有効性や課題を見出すことができた。
- ・「学び合い」の授業の実践を進める上で、コミュニケーション能力の育成やより良い人間関係

づくりは土台となる重要な事項であることが確認できた。

(2) 課題

- ・「学び合い」の授業を実現していくためには、学習過程の設計方法や子どもたちを主体的に動かす方策についての具体的な検討をしていく必要がある。それは、授業における教師の役割を見直し、検討することである。
- ・教師一人ひとりがめざす授業像を明確にイメージするとともに、その実現のために子どもをどう育てていくかを検討し、具体的な授業実践を積み重ねていく必要がある。
- ・授業づくり・学級づくりは一人ひとりの教師の力では限界がある。学校内はもちろんであるが、今回の機会、取り組みのように、より多くの教師が連携を図り、より良い授業像を練り上げていく必要がある。各学年の発達段階や系統性・継続性を考慮した「学び合い」の積み重ねこそが、子どもたちを育てていく上で、極めて重要であることを認識したい。

おわりに

子どもたち相互のかかわりを深める授業をめざして取り組みを進めてきたが、子どもたち相互のかかわりを深めるということは、教師の役割を見直すことであることに改めて気がついた。そのためには、子どもたちの力を信じ、何を伸ばし、どう育てていくかという教師のビジョンが重要になってくる。その上で、授業の中でどのような手立てやしかけを駆使して子どもたちの学びを深め、広げ、高めていくかを考えていかねばならない。グループ学習をすることが「学び合い」ではない。教え合うことが「学び合い」ではない。真の「学び合い」の実現のために、これからも研鑽を深めていきたい。

高め合うことのできる仲間づくりをめざして

学び合いを深める有効な手段について

小林 智（楽田小学校）

早川 哲也（楽田小学校）

松本 哲廣（城東小学校）

森田久早子（城東小学校）

はじめに

温かい人間関係を築いている時、人は穏やかな気持ちになり、自然と笑みがこぼれる。そこには、信頼関係があり、安心できる居場所が存在する。しかし今、学校教育においては、様々な課題が生じ、従来通りの指導方法では解決に至らない場合も多く、「心の教育」の充実が叫ばれている。そこで、様々な分野での学びを通して、一人ひとりが思いやりの心を育みつつ、確かな自信を培っていけるような実践ができないかと考えた。

1 主題設定の理由

クラスの中には様々な生き方、考え方の子どもたちがいる。何でもすぐやり遂げられる子、意欲的に取り組める子、それとは反対になかなか取り組めない子、素行が乱れている子、無気力な子、いじめに関係している子など。また、学級間でも雰囲気はかなり異なる。そのようなクラスで、日々、子どもたちと向き合い、指導、支援をしていく中で、時折子どもたちの姿の中に教師としての満足を感じる時がある。「分かった！」という子どもの声、チャイムの合図に「えっ、もう終わり？」と子どもが言った時、そして、子どもの視線がこちらを向いている時など。達成感に似た喜びを感じる瞬間である。しかし、学級全体の意識が高められているかと思うと不安を感じることも多い。

このような実態から、クラスの子どもたちすべての学習意欲を高めるには、一人ひとりに自信を持たせることが大切と考え、そのためには、高め合うことのできる仲間同士との学び合い、認め合いこそが不可欠と考えた。児童が、学級集団の中で、信頼関係に満たされて自分の居場所を見つけ、成長の手応えを感じることができるような仲間づくりを進めることの必要性を感じ、本研究主題を設定した。

2 研究の構想

(1) 研究の目的

学校教育の中で行われる諸活動のほとんどが、学級を基盤として営まれていることを考えると、

学級経営の果たすべき役割は極めて重大なものがあると考え。そこで、本研究では、学び合いを深める有効な手段を、まず、学級単位で考えることにした。学級集団でこれを実践し、検証することにより、高め合うことのできる仲間づくりを探ることを研究の目的として位置付けた。

(2) 研究の仮説

学級の高まり、教え合い、認め合い、学び合いの土台となる仲間づくりを築いていくためには、どんな有効な手段が考えられるか、本研究グループで対応策について話し合った。

- ・授業での勝負（発問、教材教具、導入部分の工夫）
- ・授業中での認め合いの場面づくり
- ・授業中での参加度、活動量の工夫
- ・聞こうとする姿勢にさせる工夫
- ・仲間を大切にしようとする心の教育の工夫（道徳、学活）

以上の課題を持って実践を進めることにした。有効と考えられる手段を意識しつつ実践を行っていけば、高め合える仲間を育てることができると考えた。

(3) 研究の方法

研究グループメンバー一人一人の授業研究後、導入部分の意欲づけ、活動量と参加度の工夫、授業中での仲間づくりの工夫などについて、実践の反省をしていく。お互い、有効な工夫は自分の授業に取り入れ、生かしながら実践を積み上げていくという手法により、有効な手段を開発する。

3 研究の実際

実践1 共に学び合う仲間づくりをめざして—交流を積極的に表現活動に生かすカードづくりを通して

本学級は、図工の時間を楽しみに待っている児童が多く、作業に取りかかると誰もが集中し、教室は静まりかえる。特に、カッターナイフや彫刻刀を使用する時は、息を止めてでもいるかのように慎重に、そして真剣な顔付きとなる。ほめてやりたくなるような作品のでき映えに会うと、「ここんとこ、いいね!」「すごい、工夫したね!」と、つい、迷惑も顧みず声を掛けてしまう。しかし、中には、失敗を恐れ一歩を踏み出せずにいる児童もいる。どうしても、作品が小さくなってしまいう児童もいる。そんな時には、「〇〇さんの見に行ってください。参考になるよ」とか、「この部分を大きくしてみてください」と支援してきた。なかなか席を立てて参考になる作品を見に行くことができなかった児童も、今では、進んで見に出かけられるようになり、「僕も見に行ってもいい?」と交流を希望する児童も増えてきた。そこで、クラス全員の交流もいいのではないかと、「アイデアいただきタイム」なるものをつくり、全員で交流の時間を持つようにした。

児童は友だちの良いところを見つけるのがうまい。「ここ、すごいね」「かっこいいね」など、素直に認めることができる。この交流で、自信を持ったり、作品づくりの方向性を見いだしたりすることができ、この交流の時間を楽しめるようになってきている。

もう一つ、児童には、自分の頑張ったところ、工夫したところなどを、「見て、見て!」と素直に言える部分もある。拍手で認めてやれば、次の時間の意欲にもつながる。作品をつくりあげていくことは楽しいことなんだという気持ちを、どんな題材においても味わわせてやりたいと願うその一助に、交流「アイデアいただきタイム」が位置づけられたらと思う。

(1) 第4学年 図画工作科学習指導案

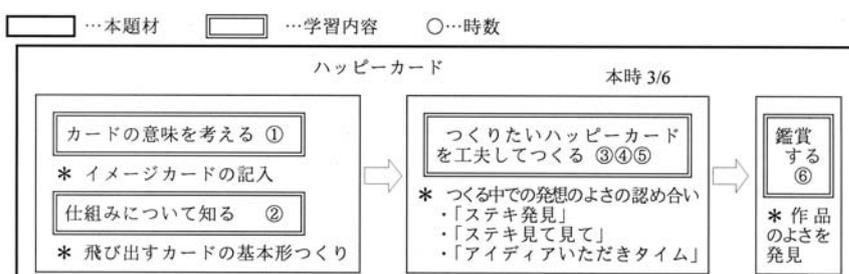
1) 題材 ハッピーカード

紙類を切ったり折ったり、また接着するなどして、山折りや谷折りを作り、飛び出す仕組みを生かしたカードの制作をする。そして、作ったカードを実際に家族や友だちに手渡し、相手をハッピーにしようというものである。

2) 題材への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）	
<ul style="list-style-type: none"> ○題材に興味を持ち、やってみたいことを思いついたり、作ってみたいものを考えたりする発想の力。 ○材料を使ってできることを楽しく試そうとする、可能性に進んで取り組む態度。 ○用具や道具、材料の扱い方に慣れ、それらを生かして作りたいものを作ろうとする態度。 ○材料の特徴からできた仕組みの楽しさや面白さ、作り方に気づく力。 	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○飛び出す仕組みに興味を持ち、ハッピーカードづくりの楽しさを味わう。 ○仕組みを理解し、どのようにしたら楽しい飛び出し方をするかを考え、工夫する。 ○友だちの作ったハッピーカードの特徴や工夫した点を確認認め合うとともに、作品を実際に相手に渡して成就感を味わう。
手 だ て	<ol style="list-style-type: none"> 1 飛び出すカードに興味を持ち、作り出す喜びが十分に味わえるよう、事前の準備としての参考作品を工夫し、仕組みがより理解できるように配慮する。 2 多方向に活動が広げられるよう、「アイデアいただきタイム」の時間を設け、表現活動の変化を積極的に受け止め、共感的な支援をする。 3 グループでの作品発表会を通して、「ステキ見て見て」や「ステキ発見」など、面白い発想や仕組みについて気づくようにする。

3) 授業の構想（6時間完了）



4) 本時の学習

ア.目標

- ・飛び出す仕組みを考え、自分らしい「ハッピーカード」の土台部分を工夫して作る。
(発想や構想の能力)
- ・カッターナイフやはさみ、接着剤を正しく扱い、試しながら飛び出すカードを自分の表し方で表す。(創造的な技能)

イ.準備

教師……参考作品、カッターナイフ、カッターマット、画用紙、両面テープ。

5) 学習過程

段階	学習活動	教師の活動と支援	評価 (評価方法)
つ か む 5分	1 誰に何を伝えるカードを贈りたいか発表する。 一斉 ・ありがとう ・おめでとう ・これからもよろしく ハッピーカードの飛び出す仕組みをつくろう	○喜んでもらえるカードを作り、渡すことを伝える。 ○誰にどんな内容のカードを贈れば喜んでもらえるのかを考えるよう促す。	○ハッピーカードを作ることに、興味をもてたか。(挙手)
知 5分	2 ハッピーカードの飛び出す仕組みをつくることを理解する。 一斉	○飛び出す仕組みを組み合わせてもよいこと、カッターの安全な使い方や紙は丁寧に折り曲げるとよいことを確認する。	
取 組 む 25分	3 いろいろな仕組みを工夫し、カードの土台づくりをする。 個別 4 グループで、仕組みについて見せ合い、作り方について話し合う。 グループ	○なかなか取りかかれない児童には、参考作品を見ながら仕組みを取り入れたり、組み合わせたりするとよいことを伝える。 ○仕組みを紹介し合う中で、一人ひとりのよさを広げ、深めるようにする。	○飛び出す仕組みを工夫できたか。(ハッピーカード)
広 げ る 10分	5 クラス内を自由に回り、友だちの作品を見て参考になるアイデアをいただく(アイデアいただきタイム)。 発想のよさや参考にした作品についてイメージカードに記入し発表する(ステキ発見、ステキ見て見て)。 一斉 6 次時は、カードの飾りつけをすることを聞き関心をもつ。 一斉	○友だちの作品の工夫を認めることで、アイデアが浮かばなかった児童に、取り入れるとよいことを示唆する。 ○飾りや仕掛けに使えるような物を集めておくことよきことを知らせ、期待や関心を高める。	○友だちや自分の仕組みのよさに気づくことができたか。(イメージカード)

6) 評価

- ・自分だけの「ハッピーカード」を作るために、飛び出す仕組みづくりに進んで取り組むことができたか。

(2) 実践を振り返って

学び合いについては「アイデアいただきタイム」、一人ひとりの子どもを生かすためには「ステキ発見」「ステキ見て見て」などの時間を設けた。「アイデアいただき」と言いながら「ステキ発見」をしている子どもが多く、素直に相手の「よさ」を認めていた。「アイデアいただきタイム」は子どもたちにとって好評で、作品を見ながら会話も弾む。イメージカードには、自作の工夫点も多く書いてあり、「ステキ見て見て」の発表も、思った以上に多かった。もう一つ配慮した点は、作品づくりに自信を持たせることであった。飛び出す仕組みを把握させ、そこから思いを広げさせることが大切と考えた。そこで、子どもの能力を引き出すために、飛び出すカードの仕組みの基本形づくりに時間をかけた。普段、なかなか取りかかれぬ子も先を見通して作品づくりをすることができ、基本形を試作することの大切さも分かった。

自慢できる作品を作り上げる、その作品を見て仲間が認めてくれる、そして、心に余裕ができると、学び合いを深めようと進んで「アイデアいただきタイム」に参加し話をするようになる。そんな流れを感じた。その子なりに自信をもたせてやることが、まず大切であるように思った。

その後、「アイデアいただきタイム」は、総合での新聞づくりや社会科でのまとめなど、いろいろな学習の場で行っている。どのような場面でも、子どもたちにとって大好きな時間である。

(3) GWT（グループワーク・トレーニング）を通して一仲間づくりの有効な手段と考えられる実践

1) GWTの進め方

共に学び合いができる仲間をつくるためには、信頼に支えられた関係の中で、相手の成長を助け、相手の手助けに応える責任を持つことが必要となる。本学級は、男女の仲が良く、明るい、言葉が強い一部の児童に心を傷つけられている子もいる。そこで、日本学校 GWT 研究会によるグループワーク・トレーニングを実施することにより、よりよい仲間となれるよう実践を試みた。

まず、協力して活動するという意味、具体的な内容について知らせた。

- ①リーダーをつくること。
- ②これから行う話し合いの目的や目標が全員に分かっていること。
- ③仕事の進み具合をお互いに知って 役割分担すること。
- ④ アイデアを出し合い、お互いに助け合うこと。

次に一人ひとりが納得できる決定事項になるためにはどうすればよいかを考えさせた。

- ①「わたしはこうしたい」という自分の考えを分かりやすく言うこと。
- ②相手の立場を理解しながら、相手が言いやすくなるような雰囲気をつくり、メンバーの話を正確に聞くこと。
- ③お互いの意見の違いを明らかにし、説得しあい、考えを練り上げること。
- ④お互いの意見のよさを認め合い、全員が納得した上で決定すること。

以上の点を踏まえ「ユッタランド探検記」「マラソンランナー」の二種類のプログラムを実

実践2 授業の中で共に高め合う仲間づくり—国語・算数の実践より

本学級は4月当初、パニックになっているクラスメートを冷やかしたり、複数で一人に対して嫌なことを言ったりするなど仲間を思いやれない児童の様子がしばしば見られた。そうした実態から、学級経営の中で仲間と関われるような取り組みを多く設定して、児童相互の人間関係づくりに配慮してきた。

それに加え、教師が授業の中で仲間同士関わり合えるような「仕掛け」を設定することが非常に重要であると考えられる。授業の中で共に課題に向い、それを解決した時、児童は「仲間っていいな」とか「友だちと学び合うことってこんなに楽しいんだな」という気持ちを持つだろう。年間を通して仲間と関わり合えるような授業づくりを実践してきたが、今回はその中でも国語、算数で取り組んだ実践を紹介する。

(1) 国語—「ごんぎつね」の実践

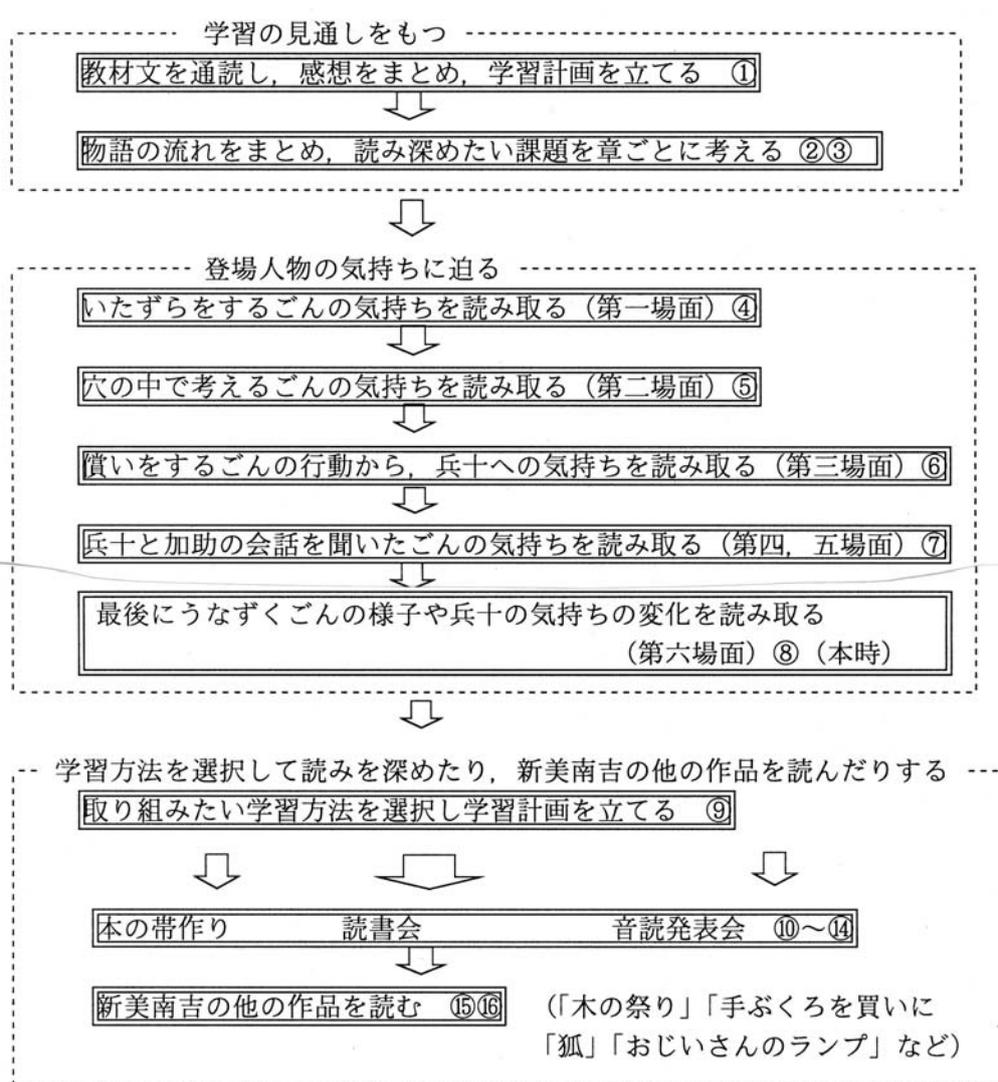
「ごんぎつね」の単元では、1場面から6場面まで、授業の進め方を次のようにパターン化して進めた。個人思考の後に学級内を自由に動き、いろいろな仲間の考えを取り入れる。そして、その後グループになり、意見をまとめ発表するという流れである。以下の指導案は第6場面のものである。

1) 学習指導案

- ① 単元 「ごんぎつね」—人物の気持ちのうつり変わりを考えよう
- ② 単元への思い—子どもに身につけてほしい力や態度

	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読み取り、場面の様子や登場人物の気持ちを自分の言葉で表現する力。 ○学級の仲間との交流を通して、互いに学び合い、高め合おうとする態度。 ○優れた作家の文章を読み、読書に親しみ、楽しもうとする態度。 ○登場人物の行動や気持ちに深く迫り、自己を育もうとする態度。
目	○叙述に即して、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を読み取る。
標	○物語を読んで強く心に残っていることを中心に、各自選んだ方法にそって表現したり発表したりする。
手 立 て	<ul style="list-style-type: none"> ①ペア学習やグループ学習、自由交流学習等の学習形態を工夫したり、話し合いの際の座席配置を工夫したりすることで学級の仲間と互いに学び合えるよう配慮する。 ②登場人物の気持ちの移り変わりがよく分かるように、ワークシートを工夫する。 ③より主体的な学びができるように、自分の取り組みたい課題を自ら選択し追究する時間を設ける。 ④読書の幅を広げられるよう新美南吉の作品を学年掲示板で紹介したり、単元末に読む時間を設定したりする。

③単元の構想（16 時間完了）



*○…時数

④本時の学習

ア. 目標

- ・最後にうなずいたごんの様子や兵十の気持ちの変化を読み取る。（読む能力）
- ・自分の意見を仲間に分かりやすく伝えたり、自分の意見と仲間の意見との相違点を考えながら聞いたりする。（話す・聞く能力）

イ. 準備

- ・教師……挿絵、授業の流れを示す学び時計、ワークシート（個人用とグループ用）
- ・児童……振り返りカード

ウ. 学習過程

段階	学習活動	教師の活動と支援	評価（評価方法）
つかむ	1 前時までの学習内容を振り返る。 一斉	○ごんや兵十、くりやまつたけの挿絵を黒板に貼りながら、前時までに学習したことを確認する。	
	2 本時の学習内容をつか		

7分	<p>む。 一斉</p> <p>最後にうなずくごんの様子や兵十の気持ちの変化を読み取ろう</p>	<p>○本時の学習のめあてを黒板に示す。</p> <p>○1 時間の授業の流れを学び時計にて掲示する。</p>	
<p>取り組む</p> <p>33分</p>	<p>3 6 場面を音読して兵十やごんの気持ちを考え、ワークシートに記入する。 個別</p> <p>4 ワークシートに記入した考えを交流する。 ペア→仲間 〔学び合い〕</p> <p>5 得た意見をグループで交流し、発表する。 グループ</p> <p>6 発表して出た意見まとめる。 一斉</p>	<p>○全員起立して読み、読み終わったら各自ワークシートに記入するよう指示する。</p> <p>○教科書の「どの記述からどういう気持ちを読み取れるのか」を明確にして書くように助言する。</p> <p>○児童の一人ひとりの読みを大切にするために、できるだけ見守る。</p> <p>○タイムスケジュールに基づき自分の考えを仲間と交流するよう指示する。</p> <p>○隣の子と交流ができた児童から他の仲間と自由に交流するよう促す。</p> <p>○交流して得た考えをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>○交流に戸惑っている児童がいる場合には必用に応じて支援や言葉掛けをし、児童間で積極的に意見交流ができるよう促す。</p> <p>○自由交流で得た意見をグループで交流し合い、発表に備えるよう指示する。</p> <p>○司会、記録、発表、タイムキーパーの役割を割り振る。</p> <p>○交流した意見をグループ用のワークシートにまとめるよう伝える。</p> <p>○兵十やごんの気持ちを発表することに加え、グループでの経緯も発表するよう指示する。</p> <p>○児童から出された意見を黒板に示す。</p> <p>○最初の自分の考えと、仲間との学び合いを通して得た考えとを比べ、どのような変化があったかを発表するよう促す。</p>	<p>○自分のペースで気持ちを込めて音読できたか。 (音読の様子)</p> <p>○自分の考えをワークシートに記入できたか。 (ワークシート)</p> <p>○仲間と自分の考えを交流し、ワークシートに記入できているか。 (ワークシート・ 行動観察)</p> <p>○意見を交流し、ワークシートにしっかりまとめているか。 (交流の様子)</p> <p>○考えを発表できたか。 (発表)</p>
まとめ	7 振り返りカードを書く。	○話し合いの中で出た多様な意見を認めた上で、本時の振り返りカードを書くよう指示する。	○自分の学習の様子を具体的にふり返り、感想を書けたか。(振り返りカード)
5分			

⑤評価 ごんや兵十の気持ちをワークシートに記入し、仲間と意見を積極的に交流できたか。

2) 実践の振り返り

ごんぎつねの学習を振り返ってみると、児童は授業がパターン化されていたため場面を追うごとに仲間と関わる活動がスムーズに取り組めるようになってきた。また、学級名簿を使用し、「全員と交流しよう！」という目標を掲げたため、児童は普段関わりの少ない子とも積極的に関わりお互いの考えを交流する姿が見られた。また、グループで意見をまとめる活動においても、全体交流で得た様々な考えから「グループでどのように考えをまとめたか」も発表できるようになり、自分と仲間の考えの相違点を意識した話し合いができるようになってきたことは、この実践の大きな成果であったと考える。

(2) 算数(少人数授業)－三角形

三角形の単元ではペアを基本単位とした学習に取り組んだ。二等辺三角形と正三角形の特徴を見つける内容は、本来2時間で行われることであるが、少人数授業ということもあり、1時間で両方の特徴を見つける授業を試みた。以下の指導案はその実践である。

①単元 三角形を調べよう

②単元への思い—子どもに身につけてほしい力や態度

	<p>○既習の学習を生かしながら、いろいろな図形に興味をもち、形の特徴に着目して考えたり、調べたりする力。</p> <p>○コンパスや定規を用いて、正確に作図する力。</p> <p>○感覚的に平面の広がりをつえたり、図形の美しさを感じ取ったりするなど、図形についての見方や感覚を豊かにしようとする態度。</p> <p>○学級の仲間と関わりながら、ペアで教え合ったりグループで学び合ったりしようとする態度。</p>
目 標	<p>○身近にある基本的な形(三角形)を分類しようとする。</p> <p>○辺の長さによって三角形を分類して考えることができる。</p> <p>○コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形をかくことができる。</p> <p>○二等辺三角形、正三角形の性質が理解できる。</p>
手 立 て	<p>①ストローを使って三角形を構成する活動により、辺の相等関係を視覚的にとらえやすくする。</p> <p>②身近にある二等辺三角形や正三角形を探す活動により、興味をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>③折ったり、重ねたりする操作活動を取り入れ、二等辺三角形や正三角形の性質を体験的に理解できるようにする。</p> <p>④ペア学習や班学習など課題に応じて学習形態を工夫し、より効果的な学び合いの学習を進める。</p>

③単元の構想(9時間完了) □…学習内容 ○…時間数

①②二等辺三角形と正三角形	③④⑤⑥二等辺三角形と正三角形の角	⑦⑧⑨まとめ
<p>・二等辺三角形と正三角形の理解をする ①</p> <p>・コンパスを用いて二等辺三角形と正三角形の作図をする。 ②</p>	<p>・二等辺三角形及び正三角形の角の大きさを調べる。 ③④ (本時) 3・4/9</p> <p>・分度器を使って二等辺三角形の作図をする。 ⑤</p> <p>・三角形の敷き詰めをして模様作りをする。 ⑥</p>	<p>・たしかめ道場(三角形の識別や作図をする) ⑦</p> <p>・ステップ(三角形の識別や作図をする。) ⑧</p> <p>・ジャンプ(正三角形を探す) ⑨</p>

④本時の学習

ア. 目標

- ・二等辺三角形や正三角形の角に着目して、角の大きさを調べることができる。（数学的な考え方）
- ・二等辺三角形は2つの角の大きさが等しいことを、正三角形は3つの角の大きさがすべて等しく、 60° であることを理解することができる。（知識・理解）

イ. 準備

教師……師範用の二等辺三角形と正三角形、ワークシート、問題プリント

児童……分度器、コンパス、定規、振り返りカード、前時に作った二等辺三角形と正三角形

ウ. 学習過程

	学習活動	教師の活動と支援	評価（評価方法）
つかむ 5分	<p>1 前時までの学習課題を想起する。 一斉</p> <p>2 本時の課題をつかむ 一斉</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2つの三角形の大きさを調べよう</p>	<p>○二等辺三角形は2辺の長さが等しく、正三角形は3辺の長さが等しいことを確認する。</p> <p>○本時の学習課題を提示する。</p>	<p>○三角形の性質を思い出せたか。（挙手・発言）</p>
とりくむ 35分	<p>3 二等辺三角形と正三角形の角の大きさを調べる。</p> <p>①角の大きさを調べる。 ペア</p> <p>②情報交換をする。 ペア</p> <p style="text-align: center;">【学び合いA】</p> <p>4 二等辺三角形と正三角形の角の大きさについて話し合う。 グループ</p> <p style="text-align: center;">【学び合いB】</p>	<p>○角の大きさをどう調べたらいいか児童に考えるよう促す。</p> <p>○各ペアで二等辺三角形と正三角形のどちらか一方について調べることを伝える。</p> <p>○前時に作った三角形が用意できたペアから順に、折って重ねたり、分度器を使ったりして、角の大きさを調べるよう指示する。</p> <p>○調べた三角形について分かったことを角の大きさに着目してワークシートにまとめるよう指示する。</p> <p>○協力して上手に進めているペアを賞賛したり、必要に応じて支援や言葉掛けをしたりする。</p> <p>○二等辺三角形を調べたペアと正三角形を調べたペアを合体して、グループを作るよう指示する。</p> <p>○交流がうまくいかないペアには、それぞれの三角形について角の大きさに着目して交流することを再確認できるよう助言する。</p> <p>○自分が調べていない三角形については仲間の意見を聞きながらワークシートにまとめ</p>	<p>○分度器を正しく使えているか。（調べる様子）</p> <p>○ペアで協力して調べたことをまとめたか。（話し合いの様子・ワークシート）</p> <p>○自分の調べたことを相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えをしっかりと聞いたりしたか。（話し合いの様子・ワークシート）</p> <p>○発表をしっかりと聞いているか。（聞く姿勢）</p>

	5 話し合ったことを発表する。 一斉 6 問題プリントを解く。 個別	るよう指示する。 ○発表を目・耳・心で聞くよう伝え、学び合いができる環境作りに留意する。	
まとめ 5分	7 本時の学習のまとめを書く。 個別 8 振り返りを書く。 個別	○児童の発表をもとに二等辺三角形と正三角形の性質についてまとめる。 ○まとめを書けた児童から、ワークシートにある振り返りを書くよう指示する。	○自己評価できたか。(振り返りの様子)

エ. 評価

- ・操作活動を通して二等辺三角形と正三角形の角の大きさの特徴を理解することができたか。
- ・仲間と協力して調べたり話し合ったりすることができたか。

⑤実践を振り返って

児童はペアでそれぞれの三角形の特徴を見つけたあと、さらに4人組になってもう一つの三角形の特徴を見つけ出していた。どのペアも二つの三角形の特徴をしっかりと発見することができたし、発表を聞いて自分たちの答えが正しかったことも確認できた。次時にはこの内容を適用題に用いて復習した。

(3) 2つの実践を振り返って

実践を振り返ってみると、やはり児童は授業の中で互いの人間関係を構築していくことができるのだと感じた。同じ課題に向かって顔を寄せ合いながら取り組んでいる姿や、グループで一生懸命に司会をしている児童の様子などを見ると、1年間「学び合い」を意識して私が取り組んできたことが児童の成長となって表れていることがわかり喜ばしく思う。今後も子どもたちの真剣な表情や課題を達成できた時の笑顔を少しでもたくさん見られるように努力していきたい。

松本 哲廣

実践3 少人数学習で培った力を生かした学習活動の展開—6年 算数の実践より

本学年の児童は、入学当初から少人数指導による学習を算数科で行ってきた。その成果として、ペア学習やグループでの学び合いの学習に慣れ、スムーズな取り組みができるようになってきている。ただ、慣れてきているために積極的に話し合いに参加する児童と積極的な児童にほとんど任せてしまう児童など役割分担が固定化されてきているようにも感じる。

彼らは6年生になってはじめて、非常勤講師配置の事情から、算数科で少人数授業を行わないため、昨年度までとは違った学習スタイルで授業を受けることになった。そういった経験の違いを埋める上でも、学習過程をより充実した「学び合い」にしたいと考えた。固定化傾向のある暗黙の役割をグループの中で見直すためにも、これまでに取り組んできた「学び合い」をさまざまな場面で生かしていけるように授業を工夫した。

1 学び合いのための主な取り組み

(1) グループ学習からグループ間交流へ

これまでの多くの授業は、「個人で考える」→「グループで考えをまとめる」→「全体の場で発表」というパターンを基本としてきた。しかし、全体で発表する形態をとると、全員が時間を合わせて取り組むことになり、グループによっては待つことを強いられ無駄な時間が生じてしまう。そこで、



図 31 グループ間交流の様子

- ・問題解決ができたグループから代表児童が他のグループへ出かけ、自分たちの考えを確認する。
- ・代表以外の児童は、確認しに来たグループの考えを聞き、代表児童が戻ってきた時に全員で他のグループの考えも確認する、

という形態をとり、全員がしっかりと役割分担をし、効率よく学習を進められるようにする。

(2) 自作問題づくり

与えられた問題に取り組むことが中心になると、どうしても受け身になってしまう児童が出てくる。また、グループでの活動においても得意な児童が中心となって活動する固定化が起りやすい。

そこで、各自が責任をもって確認や解説ができるように自作問題づくりに取り組んだ。自作問題づくりをするためには、内容もしっかりと理解しなくてはいけないので、より集中して取り組むようになる。

(3) カラーバーの活用

児童全員が意思表示を明確にするために、サイズは 2cm×12 cmの、紙製で、表が青、裏が黄色のカラーバーを用いることにしている。それぞれの色の意味は次の通りである。

- ・黄色：難しい、不安な部分がある、取り組み中・アドバイスが必要。
- ・青色：理解できた・問題解決済み。

児童たちは、これを常に机の上に表示しているため、教師がカラーバーの表示を見て理解度を判断するだけでなく、児童相互でアドバイスに出かける折の判断情報として使っている。

2 具体的な実践例 単元 「ならして考えよう」

(1) 単元の目標

- ・平均を求めることのよさに気づき、進んで身近な事柄の考察や表現に用いようとする。(関心・意欲・態度)
- ・平均の考え方をを用いて、身近な事柄について考えたり表現の仕方を考えたりすることができる。(数学的な考え方)

- ・平均を求めたり、平均から全体を求めたりすることができる。また、それを用いて、長さなどの概測ができる。（表現・処理）
- ・平均の意味や平均の求め方を理解する。（知識・理解）

（２）教材の特質や教材観

これまで割り算などで、いくつかに分けるという作業は行ってきたが、中身まで均等に分けて考えることは初めてである。また、日常生活の中で目にしたり、耳にしたりするものの中に、「平均」ということばは時々出てくる。しかし、平均の意味をしっかりと理解している児童は少なく、何となく真ん中の値としか捉えていないというのが現実である。そこで、平均の定義の中にある「同じ大きさにならす」と考えることによって、平均を求める習慣を身につけさせることをねらいとした。さらに、平均を求めたり平均から全体を求めたりすることを、より多くの問題を通して取り組むだけでなく、自分たちで問題づくりをして理解させていきたいと考えた。その過程でグループ活動を用いることによって、学習仲間相互のたくさんの関わり合いによって、しっかりと定着させることができると考えた。

（３）単元の指導計画

時	小 単 元	学 習 内 容	補助教材	学習形態
1	課題設定	○大きさの違ういくつかの量をならして考える場面を通して課題を捉える。		ペア学習
2	平均	○平均の意味と求め方を理解し、問題解決に活用する。		グループ学習
3		○いくつかの部分の平均を知って、全体の平均を求める。	計算ドリル 14	グループ学習
④	練習	○単元内容の練習をする。	計算ドリル 15	グループ学習
5	平均を使って	○平均を利用するよさを知る。	計算ドリル 16	グループ学習
6				
7	まとめ	○たしかめ道場。		グループ学習
8		○みらいへのつばさ ステップ・ジャンプ	計算ドリル 17	個別学習
9	単元のまとめテスト			

（４）子どもの実態や育てたい資質や能力

本学級は、男女の人数が20名と12名という構成であり、人数に偏りがある。しかし、入学当初からこのバランスで過ごしてきたため、男女ともに関わり方はよくわきまえているように感じられる。男子集団と女子集団では、その雰囲気自体は正反対といってもよい感じであるが、活発に活動する男子を落ち着いた雰囲気の子が上手に軌道修正していく感じで行動の調和はとれている。男女間の仲もよく、高学年特有の男女それぞれで固まってしまって、グループ活動ができないということもほとんどない。ただ、様々な活動に対しての積極性という点では個人差が大きくなってきていることは否めない。そのような点については、いろいろな場面で互いに声を掛け合い、関わりをたくさん持つことで解消してくれることを期待している。

算数科の平均を求める学習では、割り算が中心となってくる。本学級でも割り算を苦手にして

いる児童は少なくない。これまでも、考え方や式が正しくても計算の段階でミスをしてしまうことが多く見られた。また、応用的な内容を苦手としている児童が少なくない。今後も様々なパターンの問題に繰り返し取り組んでいくことで基本の確認をし、活用できる力を育てていきたいと考えている。そして、これまでに行ってきた活動に自信を持ち、よりスムーズな学び合いの活動ができるようになることをねらっている。さらには、グループ学習に限らず、いつでも仲間のところへ出かけ、教え合ったり意見交換ができたりするようにさせたいと考えている。

(5) 学習過程

~~~~~学び合いへの支援

| 形態                                                                                        | 子どもの活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 指導上の留意事項及び子どもへの配慮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一<br>斉<br>5分                                                                              | 1 前時までに学習した平均の求め方の確認。<br>$\text{平均} = \text{合計} \div \text{個数}$<br>2 本時の学習課題を知る。<br>$\text{平均値の求め方を確実に身に着けよう}$                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○平均の求め方を掲示し、本時の学習の助けとする。<br>○学習課題と、本時の学習内容を簡単に説明し、学習意欲を高めるようにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 個<br>人<br>10<br>分<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ<br>10<br>分<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ<br>13<br>分<br>個<br>人 | 3 グループの中でお互いの自作の問題を解き合う。<br>・平均を求める問題<br>・平均から全体を求める問題<br>・個を求める問題<br>・部分の平均から全体の平均を求める問題<br>4 各自の自作問題についての解説をし、求め方の確認をする。<br>$\text{平均の求め方}$<br>$\text{全体} \div \text{個数}$<br>$\text{全体の求め方}$<br>$\text{平均} \times \text{個数}$<br>・わからない1つの求め方<br>$\text{平均} \times \text{個数} = \text{全体}$<br>$\text{全体} - \text{わかっている数}$<br>5 他の班が作成した問題に取り組む。<br>・グループ全員で解く<br>・作成したグループへ解き方の説明をし、確認ができたなら問題を黒板に貼る。<br>(グループ間交流) | ○児童の自作の問題を配り、自分がつくった問題以外の問題を解くように指示する。<br><u>○わからないところがある場合は、カラーバーを黄色にして表示するように指示し、アドバイスし合うように促す。(ただし、問題作成者は除く)</u><br>○平均、全体、個のどれを求める問題なのかを明確にしてから解説をするように指示する。<br>○求め方を必ず確認してから、あてはまる数を入れて解説をするように助言する。<br><u>○間違えやすい部分を全員で確認しながら、解説をしたり聴いたりするように助言する。</u><br>○全員の問題の解説が終わった班からグループの中で代表問題を決め、画用紙に問題を書くように促す。<br><u>○何を求める問題なのかを見つけ、求め方を確認し、求め方を明確にしてまとめるように促す。</u><br><u>○ホワイトボードを持って、作成グループに説明しに行くように指示する。</u><br>○確認が終わった班は、解き方を書いたホワイトボードをロッカーの上に置くように指示する。<br>【評：グループやグループ間で協力し、平均の求め方を確認することができたか。】<br>○黒板に貼ってある他の班の問題に取り組み、ロッカーの上に置いてあるホワイトボードで解き方を確認する。 |

|          |                |                                                                          |
|----------|----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 5分       |                | ○他の班の作成問題を解き、求め方を確認させ、つまづいている児童には個別指導をする。<br>【評：平均の求め方を確認、問題を解くことができたか。】 |
| 個人<br>2分 | 6 あゆみカードに記入する。 | ○机間指導をして、自己評価の状況を把握する。<br>○本時の学習内容を振り返りながら記入するように言葉かけを行う。                |

算数「平均」 自作問題  
※ 問題パターン＜ 平均を求める データを求める 部分の平均から全体の平均を求める ＞

作成者名 [ ]

ひまわりの種が入ったふくろがあります。  
そのふくろを3つ取り出して、重さを計ってみました。  
290g 268g 264g  
② ふくろの重さは何gですか？ ① 30ふくろの重さは何kgですか？

---

算数「平均」 自作問題  
※ 問題パターン＜ 平均を求める データを求める 部分の平均から全体の平均を求める ＞

作成者名 [ ]

下の図は子供会で、1班と2班にわかれて  
30個ケーキをつくらったときの結果です。  
子供会全体では、平均約何個つきた  
のでしょうか？

|    | 人数 | ケーキの個数 |
|----|----|--------|
| 1班 | 15 | 36     |
| 2班 | 10 | 30     |

$36 \times 15 = 540$   
 $30 \times 10 = 300$   
 $540 + 300 = 840$   
 $15 + 10 = 25$   
 $840 \div 25 = 33.6$   
 約34個

図32 自作問題の事例2件

### (6) 授業を終えて

児童たちは、自作問題づくりをするにあたって、前時までの学習内容をしっかりと確認し、意欲的に取り組んでいた。なお、自作問題の難易度やパターンについては個人差があり、グループによっては同じパターンばかりであったり、難易度が低い問題ばかりになってしまったところがあった。グループ内で取り組むだけならよいのだが、グループ間交流となると差が大きくなり難しいところもあった。



図33 グループ学習のようす

今回は、事前に問題を作り、修正を加えていたため、どの児童も自分の問題を自信を持って解説していた。やはり、自分が解説する（教える）立場になるため、児童たちはより意欲的に取り

組むようになった。また、グループ内でカラーバーを確認してお互いに声をかけ合っている姿が見られた。中には、他のグループの児童にも声をかけている場面もあった。今のところ、青色の児童から黄色の児童への声かけが多いので、黄色の児童から青色の児童への声かけができるようになると、さらに活気のある活動になる。

なお、教師間では、学年集団での同僚性を生かし、各単元でそれぞれの学級が少しずつ進度をずらし、1つの学級が授業を終える度に学年で検討し、また次の学級で取り組んだ。そうすることによって、児童の意欲をさらに高めることができ、よりよい授業づくりをすることができた。

### 3 あゆみカードの活用

これまでも、単元ごとに振り返りの機能を持たせたあゆみカードを活用してきた。児童一人ひとりが自分の学習活動の記録、理解度を記入し、それを担任が確認するためにとっても重要なものである。また、学習意欲を高めるためにもとても効果的であると考え。その意義は次のようにまとめられる。

- ① 予め学習指導の図式を作り上げることで、学年で統一しためあてができるので、担任同士が共通理解のもとに指導にあたることができる。
- ② どのような学習が展開されるのか、各時のめあてが記載されているため、児童は見通しを持って、前向きの構えで学習することができる。
- ③ 毎時間学習の自己評価をすることで、自分の課題と成長の手ごたえを確認することができるため、学習への意欲化を図ることができる。
- ④ 児童の自己評価を見て、それへのコメントを返すことで、担任と児童とのコミュニケーション手段の一つとなる。授業中に把握しきれなかった児童一人ひとりの課題がピンポイントで分かり、次のステップへのアドバイスをすることもできる。
- ⑤ 「学び合い」の様子を児童が自己記入する欄を作ることで、幅広く仲間との関わりを持って学びに取り組むことを意識させるとともに、児童たちの人間関係づくりを促し、またその資料から、教師は人間関係の掌握に役立てることができる。
- ⑦ あゆみカードを自宅に持ち帰らせることで、単元終了後、保護者も学習の様子を確認できる。その上で、励ましのことばを書いてもらい、次の単元をスムーズにスタートできるようにする。

このように、あゆみカードを利用することによって、児童たちの「学び合い」の意識を高め、より活気のある授業を展開することができる。互いに高め合いながら、一人ひとりが成長してくれることを期待している。

小林 智

あゆみカード

② 整数の性質を調べよう

6年( )組( )番 名前( )

🍷 倍数・約数の達人になろう! 🍷

【今日の勉強は?】  
自分でできた → A  
友だちに教えてもらった → B  
友だしんがなくて不安だ。 → C

【今日の勉強は?】  
～授業参加記録～  
話を聞く・発表する・グループ活動  
自分ほだけできたかな? ☆

| 時間<br>月日    | ページ                  | 今日のめあて                            | 今日の勉強は?   | 一言感想                                                      |
|-------------|----------------------|-----------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------|
| ①<br>6/8    | P.18<br>P.19<br>P.20 | 整数の性質を考え、倍数の意味を理解しよう。             | B         | 今日は倍数の<br>理解はいい<br>よかったです。                                |
| ②<br>6/9    | P.21                 | 公倍数・最小公倍数の意味を知り、求めることができるようにしよう。  | B         | 今日は素直に<br>教科書を読み<br>ましたので、<br>わりと楽に<br>30の公倍数<br>を見つけました。 |
| ③<br>6/9    | P.22                 | 公倍数や最小公倍数を工夫して求めよう。               | B         | たより<br>たより                                                |
| ④<br>6/9    | P.23                 | 倍数を利用してもう一つをつくってみよう。              | B         | 名前をぬるの<br>が面白くて<br>今日まで<br>がんばって<br>きました。                 |
| ⑤<br>6/12   | P.24                 | 公倍数を利用して問題を解いてみよう。                | A         | 今日は意味も<br>あって、<br>明日はさらに<br>がんばります。                       |
| かくにん<br>テスト |                      | 10 / 10                           | たいへんよくできた | よくできた                                                     |
| ⑥<br>6/14   | P.25                 | 整数の性質を考え、約数の意味を理解しよう。             | B         | 約数の意味<br>がわかって<br>よかった。                                   |
| ⑦<br>6/15   | P.26                 | 公約数・最大公約数の意味を理解し、求めることができるようにしよう。 | A         | 約数の意味も<br>わかって、<br>よかった。                                  |

|                                                |              |                     |                               |                                     |
|------------------------------------------------|--------------|---------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ⑧<br>6/15                                      | P.27         | 公約数や最大公約数を工夫して求めよう。 | A                             | 今日はグループで<br>協力してできた<br>よかったです。      |
| ⑨<br>6/15                                      | P.28         | 公約数を利用して問題を解いてみよう。  | B                             | 今日はグループ<br>で協力して<br>問題を解いて<br>よかった。 |
| かくにん<br>テスト                                    |              | 10                  | たいへんよくできた                     | よくできた                               |
| ⑩<br>6/15                                      | P.29         | たのしい問題を<br>学習のまとめよう | B                             | 今日はグループ<br>で協力して<br>問題を解いて<br>よかった。 |
| ⑪<br>6/15                                      | P.30<br>P.31 | 倍数・約数の達人になろう。       | B                             | 今日はグループ<br>で協力して<br>問題を解いて<br>よかった。 |
| まとめの<br>テスト                                    |              | 90                  | よくできた                         | よくできた                               |
| ★ 勉強して友達と協力できたか 具体的に書いてみよう (だれとどんなふうに協力できたか)   |              |                     |                               |                                     |
| もう一歩                                           | できた          | よくできた               | グループの人や 教員に来てくれた<br>人と協力できたよ! |                                     |
| ★ 勉強して思ったこともかきましょ。                             |              |                     |                               |                                     |
| 倍数や約数やかんたんにもとめれる方法も<br>分かってよかったです!! 明日も復習したい!! |              |                     |                               |                                     |
| ★ 先生から                                         |              |                     |                               |                                     |
| いい方法もうまく使えるように練習しよう。                           |              |                     |                               |                                     |
| ★ おうちの人から                                      |              |                     |                               |                                     |
| 新しいこと、またひとつがんばったね。                             |              |                     |                               |                                     |

図 34 あゆみカード記入例

#### 実践 4 グループ間交流で考えを練り上げる—5年算数 自分の考えを伝え、友だちの考えを正しく受け取る活動を通して

本学年の児童は、4年生までの学習で、グループでの活動を円滑に行い、自分たちで課題を解決していく力を身につけてきた。高学年となった今年自分たちのグループの枠を越え、他グループと交流をする中で、考えを伝え、また考えを受け取りながら思考を深めていくことが一つの目標になっている。そのような学び合いを成立させるために、日頃から次のように学習を進めている。

##### 1 グループの枠を越え、学びを深める「グループ間交流」

「自分の考えをグループの中で伝え、グループで意見を集約する」「他のグループへ行き、グループで練った考えを相手が理解するまで説明する」「他のグループが説明したことを自分のグループにも還元し考えを深めていく」

このような活動を取り入れることで、自分たちが練った考えを他グループとの交流によって、よりよくしていくことができるようになってきた。

以下では、グループ内で一人ひとりが自らの役割を積極的に果たすための手立てや、グループ間交流のあり方について検討してきたことを、実践を交えて紹介していきたい。

## 2 具体的な実践例1「垂直・平行と四角形」

### (1) 教材の特質や教材観

実践例として取り上げるのは、単元「垂直・平行と四角形」の中の第7時である。この時間は、前時までの平行・垂直を使って様々な四角形を学習していく、四角形の導入である。

まず、各グループで、四角形一般と、台形、平行四辺形、ひし形の性質をみつけさせる。次時からは、自分たちが見つけた性質を確認したり、他の四角形の性質との相違を比較したりしながら、それぞれの性質を学んでいく。このように、四角形の性質を学び合いの中で確認していくことで、単元を通して意欲を持続させていくことを図る。また、全員が同じ四角形の性質を調べるのではなく、グループごとで違う四角形を分担することで、各自が責任を持って性質を見つけ、見つけたものをみんなにわかりやすく説明しようとする態度を身につけさせていきたい。さらに、各グループで見つけた性質を教室に掲示しておくことで、常に子どもの目に触れさせ、図形に対しての意識を高めていきたい。

### (2) 単元の指導計画

#### 1) 単元目標

- ・身の回りから垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形の形を進んで見出したり調べたりすることができる。
- ・直線の位置関係に着目して垂直・平行の関係にあることや台形、平行四辺形、ひし形の特徴、相互の関係を考えることができる。
- ・垂直・平行の関係にある直線や台形、平行四辺形、ひし形をかくことができる。
- ・垂直・平行の意味や台形、平行四辺形、ひし形の特徴・性質を理解することができる。

#### 2) 学習計画 (15時間完了)

| 時 | 小単元            | 学習のねらい                                               | 形態  |
|---|----------------|------------------------------------------------------|-----|
| 1 | 1 垂直と平行        | ○操作活動を通して、垂直の意味を理解することができる。                          | TT  |
| 2 |                | ○2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解することができる。                       | 少人数 |
| 3 |                | ○平行な直線の距離を調べ、平行の説明をすることができる。                         | 少人数 |
| 4 | 2 垂直や平行な直線のかき方 | ○三角定規を使って、垂直・平行な直線を書くことができる。                         | 少人数 |
| 5 |                | ○方眼紙を使って、垂直や平行を見出したり書いたりすることができる。                    | 少人数 |
| 6 |                | ○垂直や平行を使って、長方形や正方形を作図することができる。                       | 少人数 |
| 7 | 3 四角形[本時]      | ○平行に着目して、色々な四角形を分類することができる。<br>○4つの図形の特徴を見つけることができる。 | 少人数 |
| 8 |                | ○辺や角に着目して、平行四辺形の性質を調べ、理解することができる。                    | 少人数 |

|    |         |                                        |     |
|----|---------|----------------------------------------|-----|
| 9  |         | ○ひし形の辺や角に着目して、ひし形の特徴を調べ、性質を理解することができる。 | 少人数 |
| 10 |         | ○平行四辺形を作図することができる。                     | 少人数 |
| 11 |         | ○対角線に着目して、性質を調べ、理解することができる。            | 少人数 |
| 12 |         | ○対角線による分割と合成（四角形作り）から、図形の見方の理解を深める。    | 少人数 |
| 13 | 練習      | 復習                                     | 少人数 |
| 14 | たしかめ道場  | まとめ+復習                                 | 少人数 |
| 15 | まとめのテスト |                                        | 一斉  |

## (2) 子どもの実態と育てたい資質・能力

本学年、本学級の子どもたちは、算数では1年生から継続的に少人数授業を実施してきた。大部分の子どもが算数好きで、算数の授業を楽しみにしている。算数の授業が欠けると、教室からため息が出るほどである。問題を解くだけでなく、規則性（ひみつ）をみつけて友だちに説明することを楽しみにしている者や、友だちに教えることを楽しみにしている者も多い。また、教えてもらう側も、低学年のころからずっと学び合い活動を実践しているので抵抗なく教えてもらっている。さらに、算数での理解力の高さは数値でも表れている。

学力差が顕著に現れてくる高学年の算数の授業において、グループ学習をはじめとする様々な学び合いの形態を取り入れていくことによって、充実した算数の授業にしていきたい。そして、このまま算数好きな児童を減らさず、説明など論理的な思考の場面においても得意と感じる子どもを増やしていきたい。

## (4) 授業計画

### 1) 目標

#### ア. 内容にかかわる目標

辺の平行関係に着目して、色々な四角

形の特徴を見つけることができる。

#### イ. 学び合いにかかわる目標

友だちと協力して四角形の特徴をまとめ、説明することができる。

### 2) 準備・資料

指導者……台形・平行四辺形・ひし形・四角形を拡大した物、四角形の形に切った物

子ども……定規、分度器

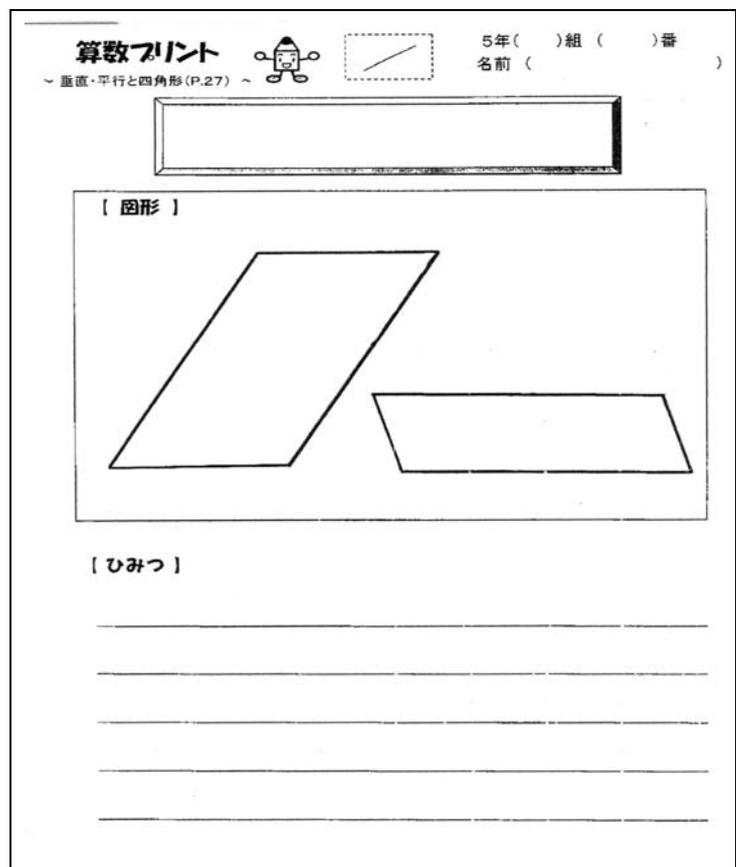


図 35 用いた学習プリント

3) 学習過程

\_\_\_\_\_は学び合いへの支援

|      | 子どもの活動                                                                                                                                                                | 指導上の留意事項及び子どもへの配慮                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一斉   | 1 本時のめあてをあゆみカードで確認する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     いろいろな四角形のひみつをみつけ、説明しよう                 </div>      | ○既習事項の2直線の平行と垂直の位置関係を確認し、本時の分類活動の助けとする。                                                                                                                                                                                                 |
| グループ | 2 四角形を分類する。<br>(1)8つの四角形を辺の平行に着目して分類する。<br>グループ学習の手順<br>①四角形を分類する。<br>②グループで確認する。                                                                                     | ○本時の授業の流れを伝え、学習意欲を高める。<br>①四角形を分類する<br>②四角形のひみつをみつける<br>・個人でみつける<br>・グループで確かめる<br>③見つけたひみつを、他のグループへ説明する。                                                                                                                                |
| 一斉   | (2) 分類結果を確かめる<br>4つの四角形<br>・台形——1組の辺が平行<br>・平行四辺形——2組の辺が平行<br>・ひし形——2組の辺が平行<br>・その他の四角形——平行な辺がない<br>○分類した四角形に名前をつける。<br>例：台形、すべりだい形/平行四辺形、カッター形/ひし形、ダイヤモンド形/四角形、でこぼこ形 | ○前時までに学習していたこと（平行と垂直）を適宜問いかけ、分類する時に着目していくよう声をかける。<br>○ <u>分類し直すときは、理由も言うように指示する。</u><br>○一つのグループが代表で分類する。分類結果が違う場合も、ここであまり時間を費やさないようにする。                                                                                                |
| 個人   | 3 四角形のひみつを見つけ、発表する。<br>(1) 分担した四角形のひみつをみつけ、プリントに記入する。<br>・台形、平行四辺形、ひし形、四角形のうち、各グループ1つを分担する。                                                                           | ○ひみつをみつけるために、定規や分度器などを使用してよいことを伝える。また、具体物が欲しい子どもには、各四角形の形に切った紙を渡す。<br>○平行な辺の数、辺の長さ、角度について主に見つけられるように助言する。                                                                                                                               |
| グループ | (2) みつけたひみつをグループで発表し合い、まとめる。<br>・みつけた数の少ない子から、一つずつ順番に発表していく。                                                                                                          | ○対角線に気付く手立てとして、線を付け足してもよいことを伝える。<br>○どの子もグループ内で自分の意見を発表できるように、みつけた数の少ない子から順の一つずつ発表していくよう指示する。<br>○ <u>自分の意見と同じ意見が出た場合はプリントの横に印をつけて、発表が重ならないように指示する。</u><br>○ <u>出てきた意見については、グループで確認し、紙に書いていくように伝える。</u><br>【評：グループで協力してひみつをみつけることができたか】 |
| グル   | (3) 他のグループの友だちに、四角形のひみつ                                                                                                                                               | ○プリン形を担当したグループの子は、他の3グループ                                                                                                                                                                                                               |

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ープ<br/>間交<br/>流</p> | <p>を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリン型<br/>1組の辺が平行</li> <li>・カッター形<br/>向かい合う辺が平行<br/>向かい合う辺の長さが等しい<br/>向かい合う角度が等しい<br/>対角線がそれぞれの真ん中で交わる</li> <li>・ダイヤモンド形<br/>向かい合う辺が平行<br/>4つの辺の長さがすべて等しい<br/>向かい合う角度が等しい<br/>対角線がそれぞれの真ん中で垂直に交わる</li> <li>・でこぼこ形<br/>平行な辺がない<br/>垂直に交わる辺がない<br/>辺の長さが違う<br/>角度が違う</li> </ul> <p>(4) 4つの四角形の正式名称を知る。<br/>台形、平行四辺形、ひし形、四角形</p> | <p>プに行き、自分たちでみつけたひみつを説明する。<br/>他の四角形についても同様に行う。</p> <p>○説明するときは、<u>各自のプリントを持ち、四角形を友だちに見せながら行うよう声をかける。</u></p> <p>○みつけたひみつは次時から確認していくので、本時では、基本的には子どもの意見を出させるだけにする。</p> <p>【評：みつけたひみつを、みんなに説明することができたか】</p> <p>○台形、平行四辺形、ひし形も、四角形であることを伝える。</p> |
| <p>個人</p>              | <p>4 次時からの活動内容を知り、あゆみカードを記入する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>○次時からは、自分たちでみつけた特徴を確かめていくことを知る。</p> <p>○机間指導をして、自己評価の状況を把握する。</p> <p>○意欲的に取り組めたグループや子どもを賞賛する。</p>                                                                                                                                           |

### (5) 子どもたちの変容

グループ内での発表の際には、発見数の少なかった子どもから順に発表することで、どの子ども少なくとも1回は自分の意見が言える場が保証され、より全員が参加する授業という色合いが濃くなってきた。また発表を聞く側の子どもは、その図形については初めて聞くことばかりなので、どの子どもも友だちの考えを認めながら聞くことができていた。今回の実践のように、異なる課題を与え、どのように考えたかを交流し合うパターンでは、発表する側は責任を持って出かけ、聞く側も「よし、聞くぞ」といった構えを持って迎えることができる。

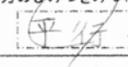
② 垂直・平行と四角形

5年( )組( )番 名前( )

図形名人になろう!

【今日の勉強は?】

- A.よくわかった B.だいたいわかった C.友だちに教えてもらってわかった D.自しんがなくて不安だ

| ページ          | 持ち物           | 今日のめあて                                                                                                          | 今日の勉強は? | わかったこと・不安なところ                       |
|--------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------------------|
| P.17<br>P.18 |               | ・直線の交わり方のひみつをみつけよう。<br>計D P11  | A・B・C・D | 垂直と垂直はさかるといふことがわかった。さし方、ひき方、かきまわりの。 |
| P.20         |               | ・直線のならばひのひみつをみつけよう。<br>        | A・B・C・D | 今日はいろいろわかった。たて、ひき、かきまわりの。           |
| P.21         | ・分度器<br>・コンパス | ・平行な直線について、説明できるようにしよう。2つの性質をきちんとマスターしてあてよう。                                                                    | A・B・C・D | 平行な直線の性質を覚えてこんど先生か友だちとあてよう。         |
| P.22<br>P.23 |               | ・垂直や平行な線がかけられるようになる。ヨットエレベーターを使って、きれいにまっすぐにまっすぐ。                                                                | A・B・C・D | まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。    |
| P.24         |               | ・方眼紙をつかって、垂直や平行をみつけたり、かけるようになる。方眼紙をつかして、かたがたにまっすぐ。                                                              | A・B・C・D | まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。    |

|                           |                              |                                          |         |                                         |
|---------------------------|------------------------------|------------------------------------------|---------|-----------------------------------------|
| ⑬<br>P.26<br>P.34         | ・分度器<br>・コンパス                | ◇練習◇<br>・学習のまとめをしよう。<br>今日をすまじいことを思い出そう。 | A・B・C・D | 三角形の2まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。   |
| ⑭<br>P.35<br>P.36<br>P.37 | ・分度器<br>・コンパス<br>・はさみ<br>・のり | ◇たしかめ道場◇<br>・学習のまとめをし、形づくりをしよう。          | A・B・C・D | たしかめよう。まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。 |

⑮

まごめテスト  たいへんよくできた  よくできた  もう少しだ  がんばろう

◆「垂直・平行と四角形」を勉強して思ったことをかきましよう。

テストはいつも全部できたけど、あてられるかはわからないから、あんまり平行四辺形はかくのがあんまり好きじゃない。コンパスをつかうときは、三角形のまっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。

★先生から

今回は新しく、いろんな直線をかくてきたね。ちゃんと正理をおぼえて、まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。

★おうちの人から

まっすぐな線をかくのはかたがた、まっすぐな線をかくのはかたがた。

★今までにおぼえた図形の形とひみつをかきましよう。

| 形     | ひみつ                                         |
|-------|---------------------------------------------|
| ひし形   | 向かい合う角はみんな等しい<br>向かい合う辺もみんな等しい              |
| 台形    | 向かいあつた角の大きさはみんな等しくない<br>向かいあつた直線の長さは等しい     |
| 平行四角形 | 向かいあつた2組の辺がどちらも平行になっている四角形                  |
| 四角形   | 向かいあつた角の大きさはみんな等しくない<br>向かいあつた辺の長さはみんな等しくない |

図 36 本単元のあゆみカード(部分)

(6) 今後の改善点

今回のグループ間交流では、伝える側が伝える、聞く側が聞くといった一方向的なやりとりであった。時間の余裕があれば、質疑応答の時間を設けるなどして、より考えを深め合えるような手立てを考えていきたい。



図 37 グループで意見を集約する

3 具体的な実践例 2 「面積」

(1) 教材の特質や教材観

4年生では長方形や正方形の面積の公式を覚えながら面積の概念と単位について学習してきた。この単元では三角形や平行四辺形の面積の求め方について考え、公式を利用していくことで面積についての理解を深めていく。また、本単元では単元を通して確認テストを6回行う。これらのテストはすべて同じ問題にしておき、回数を重ねるたびに解ける問題が増えたり、新しく学習した公式を使って解けるようになっていたりすることが分かるようにしている。学習を積み重ねていくうちに自信をつけて解いていく姿が見られる教材にしたい。

(2) 単元の指導計画

| 時  | 小単元             | 学習のねらい                        | 確認テスト | 形態  |
|----|-----------------|-------------------------------|-------|-----|
| 1  | 三角形の面積          | 直角三角形の面積の求め方を考える。             | I     | 少人数 |
| 2  |                 | 三角形の面積の求め方を考える。               |       | 少人数 |
| 3  |                 | 三角形の面積の公式を利用する。               | II    | 少人数 |
| 4  |                 | 面積の公式を使って四角形を求める。             |       | 少人数 |
| 5  | 平行四辺形の面積        | 平行四辺形の面積の公式を利用する。             | III   | 少人数 |
| 6  | いろいろな三角形・四角形の面積 | いろいろな三角形・四角形の面積を求める。          |       | 少人数 |
| 7  |                 | ひし形の面積を利用する。                  | IV    | 少人数 |
| 8  |                 | 練習問題を解き、習熟を図る。                |       | 少人数 |
| 9  |                 | たこ形やくさび形の面積を解く。<br>(みらいへのつばさ) | V     | 少人数 |
| 10 |                 | 台形の面積を利用する。                   | VI    | 少人数 |
| 11 | 面積の問題           | 高さや底辺と面積の関係を考える。              |       | 少人数 |
| 12 | いろいろな面積作り       | 形を作って面積を求める。                  |       | 少人数 |
| 13 | たしかめ道場          | 単元の総復習をする。                    |       | 少人数 |
| 14 | テスト             |                               |       |     |

(3) 子どもの実態と育てたい資質・能力

本学級では、周りの友人に対して関心が高く、友人がしていることに興味を示す児童が多くいる。授業では、発言に対してそれぞれがそれぞれの反応を示すといった態度が少しずつ身につい

てきた。その反面、思ったことや気づいたことをその場ですぐ言葉にし、伝えようとするが、その言葉は自分本位で他の児童に的確に伝えようとする態度が見受けられない。

そこで、相手に自分たちの意図を伝える活動と、相手の伝えたい内容を理解しながら聞く活動をグループ交流で取り入れた。近頃では、児童らは学習におけるグループ活動の中で相手に分かってもらえるよう言葉に注意して話したり、図などを利用したりして理解してもらおう工夫をはじめている。一つひとつの発言が互いを高めてくれる大切な意見だという意識を持って活動できるようにしていきたい。

### (5) 授業計画

| 活動                     | 子どもの活動                                                                          | 指導上の留意事項及び子どもへの配慮                                                                                                |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一斉<br>4分               | 1 本時の学習課題を知る。<br>・あゆみカードで今日のめあてを確認。<br>公式を使って、たこ形の面積を求めよう                       | ○求める面積の形を視覚的に確認するためにこの具体物を見せる。<br>○本時の学習の流れを知らせる。                                                                |
| 個人<br>3分<br>グループ<br>7分 | 2 くさび形(洋風)の面積を求める。<br>・個人で求め方を考える。<br>・グループ内で順に求め方を発表し合う。<br>・他グループへ説明できるようにする。 | ○求め方が分からない児童にはヒントを与え、思考を援助する。<br>○1つ以上求め方が考えられたら他の考え方もプリントに記入するよう指示する。<br>【評：三角形の公式を使って面積を求めることができたか】            |
| グループ<br>5分             | 3 おでかけタイム<br>・グループで取り組んだ結果を交流し合う。<br>・底辺と高さをどこと捉えて求めるかを説明する。                    | ○ <u>グループの2人が他グループへ説明をしに行き、残った2人は他グループの説明を聞く。</u><br>○ <u>相手に自分たちの考えている意図を伝えることと、相手の伝えたい内容を理解しながら聞くよう指示する。</u>   |
| グループ<br>3分             | 4 おかえりタイム<br>・交流し合ったことを他グループのホワイトボードを使って説明する。                                   | ○ <u>自分たちの考え方は他グループが理解したか、他グループの考え方はどうだったかを伝え合う。</u>                                                             |
| 個人<br>2分<br>グループ<br>7分 | 5 たこ形(和風)の面積を求める。<br>・個人で考え、グループで話し合う。<br>・他グループへ説明できるようにする。                    | ○くさび形と同じように学習を進める。<br>【評：三角形の公式を使って面積を求めることができたか】                                                                |
| グループ<br>4分             | 6 おでかけタイム<br>・グループで取り組んだ結果を交流し合う。<br>・底辺と高さをどこと捉えて求めるかを説明する。                    | ○ <u>くさび形の時とは違う2人が他グループへ説明をしに行き、2人は他グループの説明を聞く。</u><br>○ <u>相手に自分たちの考えている意図を伝えることと、相手の伝えたい内容を理解しながら聞くよう指示する。</u> |
| グループ<br>3分             | 7 おかえりタイム<br>・交流し合ったことを還元する。                                                    | ○ <u>自分たちの考え方は他グループが理解したか、他グループの考え方はどうだったかを伝え合う。</u>                                                             |

|          |                                            |                                                          |
|----------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 全体<br>1分 | 8 三角形の底辺と高さの関係について知る。                      | ○底辺と高さが同じならば面積は同じになることを模型を使って示す。                         |
| 個人<br>6分 | 9 本時の学習を振り返って、あゆみカードに記入する。<br>10 確認テストをする。 | ○残った時間はドリルに取り組むよう指示する。<br>○単元を通しての学習を振り返り、これまでの習熟度を確認する。 |

### (6) 子どもたちの変容

今回の実践では、「お出かけタイム」「おかえりタイム」といった2度の交流の中で、グループのメンバーが積極的に学習に参加することがポイントであった。これまではグループの中でも特定の児童が中心となって活動をリードしていく場面が多く見られたが、今回はそうもいかない。一人ひとりの児童がお出かけ先のグループの中で、自分たちが練り上げた考えを的確に伝えなければならないからである。したがってグループで意見をまとめる際に、全員が分かるまで徹底的に話し合うことが必要となる。



図 38 お出かけタイム

それゆえ、話し合いに多くの時間を必要とすることもあるが、「ちょっと待って!」「なるほど!」というような声も増えてきた。こうした声が増えることで自信を深め、考えを伝えることができるようになり、聞く側もしっかりと意図を読み取ろうという姿勢で聞くことができるようになってきた。また単元テストでは、回数を重ねるごとに得点も上がり、前回できなかった問題ができたときに見せるうれしそうな表情が印象的であった。このように自分の成長の足跡が実感として分かるテストの行い方も有効な手立てであった。

### (7) 今後の改善点

グループ内だけではなく、グループ間でも活発に交流を持つことで、より多くの考えに触れ、そこからさらに高め合っていくというように学びの質は向上してきた。しかし、その場ではなんとなく分かったつもりになっている児童もいる点は、見落としてはならないことである。したがって、全体で確認する時間も確保しながら、確かな算数の力をつけさせていかなければならない。

今後はより算数の教科としてのねらいや高まりをしっかりと検討し、教材研究を進めながら、これまで積み上げてきた「学び合いのスタイル」を融合させていくことが次のステップとなる。

早川哲也

あゆみカード

**⑥ 面積の求め方を考えよう**

5年( )組( )番 名前

**面積マスターになろう!**

理解の度合い

Aよくわかった  
Bできたと思う  
C自しんがなくて不安だ  
Dよくわからなかった  
記号を書き入れよう

学習に向かう姿

①忘れ物なし  
②話を聞く  
③発表する  
④活動に参加する  
できた丸をぬりつぶそう

| 時間<br>目日        | ページ  | 今日のため                                                                    | 今日の学習         | 一言感想      |                        |
|-----------------|------|--------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------|------------------------|
| ①<br>10/18<br>テ | P.2  | ・直角三角形の面積の求め方を考えよう。<br>これから色々な形の面積が求められるようになるよ。                          | B             | ①②③④      | また面積がでた                |
|                 | P.3  |                                                                          | ①②③④          | 面積は三角形がで  |                        |
|                 | P.4  |                                                                          |               | てきて2つのヤリが |                        |
| ②<br>10/23<br>テ | P.5  | ・三角形の面積の求め方を考え、説明できるようになる。<br>計算しやすい形に切るとよかたね                            | C             | ①②③④      | 今日は、はみで切る<br>できなからに切   |
|                 | P.6  | ・公式を利用して、三角形の面積を求めよう。<br>三角形の面積 = $\text{底辺} \times \text{高さ} \div 2$    | C             | ①②③④      | 今日は、公式でもでき<br>たよ。問題がめ  |
| ③<br>10/26<br>テ | P.7  | ・四角形の面積を求めることができるようになる。<br>計2<br>三角形の底辺と高さをしかり考え                         | B             | ①②③④      | 四角形は、しかり<br>考えよう。      |
|                 | P.8  | ・公式を利用して、平行四辺形の面積を求めよう。<br>計3<br>平行四辺形の面積 = $\text{底辺} \times \text{高さ}$ | B             | ①②③④      | 今日は、平行四辺形の<br>面積がわかった。 |
| ④<br>10/30<br>テ | P.9  | ・公式を使って、三角形・四角形の面積を求めることができるようになる。<br>計4<br>P. 21                        | A             | ①②③④      | 今日は、面積の<br>求め方がわかった。   |
|                 | P.10 |                                                                          | Good!<br>よかたね |           |                        |

(点) 確認テストの点数の記録をとろう

| 日付 | 10/18 | 10/24 | 10/25 | 10/31 | 11/6 | 11/9 |
|----|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 点  | 5     | 5     | 7     | 8     | 9    | 10   |

|                 |                                                                                                                                                                       |                                                |                               |                      |                      |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------|----------------------|
| ⑤<br>11/8<br>テ  | P.15                                                                                                                                                                  | ・いろいろな形を作って面積を求めよう。<br>計6<br>P. 23<br>よく考えてみよう | B                             | ①②③④                 | 今日は、面積の<br>求め方がわかった。 |
|                 | P.17                                                                                                                                                                  |                                                | ①②③④                          | 今日は、面積の<br>求め方がわかった。 |                      |
| ⑥<br>11/15<br>テ | P.16                                                                                                                                                                  | ◇たしかめ道場◇<br>計7<br>P. 22<br>しかり復習してテスト<br>をねえね。 | B                             | ①②③④                 | 今日は、面積の<br>求め方がわかった。 |
|                 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 まどめのテスト <span style="font-size: 2em; margin-left: 20px;">85</span> </div> |                                                | よくできた    できた    もう少し    がんばろう |                      |                      |

◆「面積」を勉強して思ったことを書きましょう。

三角形の面積を最初に やったときはまったく意味の  
わからないままだった。でも公式をおぼえれば他の四つの面  
積はすぐわがりました。やっぱりわからない時は先生に教えてもらう  
★先生から 一番だと思いました。自分たちで考えてみる事も大切な

公式はとても便利な事がわかったね。次の勉強もわからない時はトコ  
★おうちの人から 聞いて、がんばろうね。

わからないときは、復習しようね。

## おわりに

研究をはじめて8ヶ月が経とうとしている。学級の児童との日々のふれ合いの中で、学び合いを深めることのできる仲間になるために、どれほどの成長を担任として支えることができたかは分からない。しかし、当初の頃と思うと、頭を寄せ合い、笑顔で教えて助けている児童の姿がある。交流の中で、友だちの話を一生懸命聞いたり、よい意見だと認め合ったりしている姿もある。わたしたちにとって心が和む光景を、児童は至る所で見せてくれる。この喜びをかみしめつつ、まだまだ成長していく児童の可能性を信じ、これからも、「高め合うことのできる仲間づくりをめざして」のテーマを忘れることなく、児童とともに成長していきたい。これからも有効と考えられる手段を練り、意識しつつ実践をしていくことは、わたしたち教師にとって学級経営の総てであると考えている。

# 学び合いを確立するための様々な実践の積み上げ

## 学校行事を通しての学び合いの実践

三村 樹里 (城東小学校)  
水野 綾 (城東小学校)  
山田 敦貴 (犬山北小学校)  
鈴木 早智 (楽田小学校)

### はじめに

新しい指導要領の大枠が発表された。基礎的・基本的な知識を習得させることに重点を置いた内容が色濃く出されている。また、道徳教育の重視、小学校での外国語活動の本格的な導入など新たな方向性が打ち出されてきた。そういった内容の習得に際して、「学び合い」の過程の重要性が強く意識されてきている。

しかし、わたしたち大人が考える「学び合い」と子どもの声から読み取ることのできる「学び合い」とはかなりの隔たりがあるのではないかと感じている。さまざまな方法、さまざまな理論が考えられる中で、真に子どもたちの中に息づく「学び合い」とは何なのか。ただ、知識を詰め込むだけではなく、よりよい人間関係を構築していく「学び合い」に必要な要素は何なのか。学び合って認め合って高め合っていくための一つの方向性を探っていきたい。

### 1 主題設定の理由

「学び合い」を軸とした学習活動を継続していくことで、子どもたちが有意義で良好な人間関係を築き、「生きる力」を身につけていく姿を学校生活の様々な場面から感じ取ることができる。教科における「学び合い」の実践が進められる中で、私たちは、教科で得られた「学び合い」を子どもたちの学校生活のあらゆる場面で、特に行事などの特別活動の中でどのように生かしていくのか、また、特別活動を通して得られた「学び合い」の姿を教科の中でどのように生かしていくのかを実践の積み上げの中から探っていきたいと考えた。特別活動も教科の学習と同様、子どもの豊かな変化を期待して進められるものである。その意味では、特別活動も、明確に「課題解決活動」と位置づけるべきである。教科とは異なる特別活動の中だからこそ発揮される子どもたちの輝く姿、それぞれの場面で遭遇した子どもたちのつぶやきや友だち同士の声かけなど、生の子どもの発言からも「学び合い」の有効性に迫っていきたい。

### 2 研究の構想

#### (1) 研究の仮説

われわれは次の仮説を設定して実践に取り組んだ。

①学校生活の中で、教科での学び合いが特別活動での学び合いに生かされたり逆に特別活動で

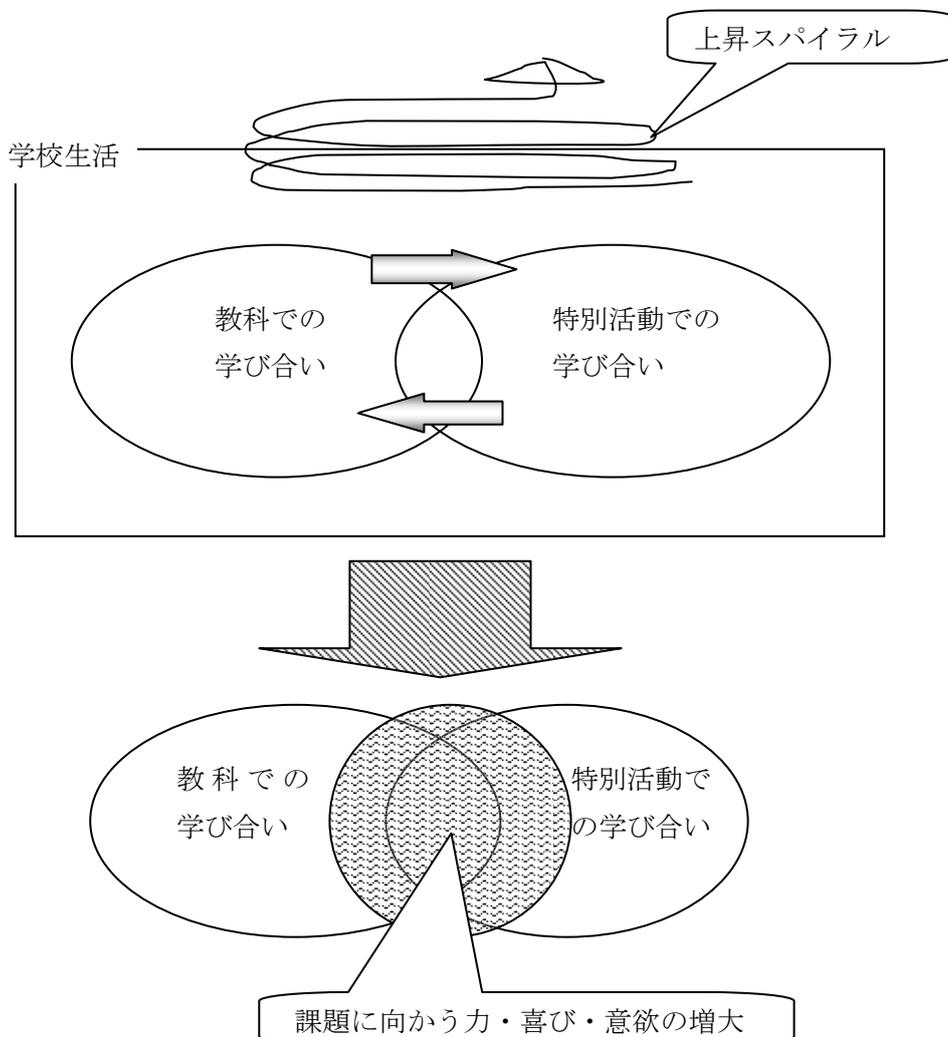
の学び合いが教科での学び合いに生かされたりする。

②そして、学び合いの共通部分（課題に向かう力・喜び・意欲）が生じてくる。

③学び合いの共通部分は、学校生活全体をプラスの方向に導いていく。（上昇スパイラル）

④学校生活全体が高まることで、共通部分はさらに増大していく。

これを図で表すと下のようになる。



## (2) 研究の方法

学年の行事、学校の行事での取り組みを計画し、特別活動における子どもたちの「学び合い」の場を設定することで、見えてくる子どもの姿を記録し、検証する。

## 3 研究の実際

### (1) 実践1 6年生 運動会 組み立て体操の練習を通して

ふれあい運動会（組み立て体操）の練習に「学び合い」を取り入れた6年生の実践を報告する。

ア. 練習の流れ（\_\_\_\_\_は学び合いのステップ）

①事前に個人または1つのグループに指導

技は、一人技（V字バランス、背ひじ倒立、ブリッジ）、二人技（倒立、サボテン）、三人技（三人扇、三人サボテン、飛行機）、五人技（扇、城）など、多く取り入れた。1時間の授業につき、2～3つの技を、手本となる児童(グループ)を前にして全体で練習した。手本となる児童（複数技の場合はグループ）は立候補や任意で選び、その児童（グループ）には、休み時間を使って事前に指導し、練習させた。中には手本になるほど上手にできない児童（グループ）もあったが、他の児童（グループ）と技の種類を交換するなどして、手本としての努力をした。より多くの児童に活躍する場を与えたいという意図から、毎回事前指導をする児童(グループ)を変えた。

②全体練習で手本を見る。

事前指導を受けた児童（グループ）は、注意事項に気を付けて学年による全体練習で技を披露した。舞台の上で手本を見せることで自ら自信を付けさせると共に、見ている児童に、「できそう！」と思わせることもできた。手本の児童は緊張し、一生懸命仲間に技を披露する姿が見られた。手本の演技を終えたときに自然と出てくる拍手に学年の温かさを感じることができた。

③手本を見て気づいたことを発表する。

手本を見て、手を置く場所や顔の向き、足の伸ばし方など、気づいたことを発表し、共有化した。

④仲間からの助言に留意して、各グループで練習をする。

③で受け取った仲間の助言に留意して、各グループ練習をした。練習では、グループ内で「そこ手を伸ばすんだよ」「前向いて！」など、お互い③で気づいたことに気をつけながら練習をしていた。手本となった児童はその技が全員完成するまで、舞台の上で技を繰り返し手本を示した。練習中は舞台の上の友だちを見て、確認しながら練習を進めることができた。

⑤技ができるようになったグループは腰を下ろし、周りのグループにアドバイスをする。

練習する側のその他の児童(グループ)は、技の完成度を周りの児童（グループ）と評価し合い、できた児童（グループ）からその場に座るようにした。

担任2人で学年69人、各グループをすべて見るのが困難なため、技ができるようになったグループに協力させた。それらのグループは③の学習をもとに、達成が不十分なグループにアドバイスをし、毎時間少しでも多くのグループが上達するように目標を掲げ、助言した。グループによってできないことが異なるため、各グループの特徴を捉えてのアドバイスが必要となってくる。「自分たちのグループは足が持ち上がらないけど、このグループは手が伸びないからそこに気をつけた方が良い」など、自分のグループとの違いにも気づきながらの学習ができた。ここで、互いの良さを認め合い、互いに成長し合う姿を見ることができた。



図 39 足がみごとに持ち上がって完成！

## イ. 成果と課題

学び合いを取り入れた練習を通して、「〇〇さんの手の伸ばし方が良いね」「〇〇さんは、いつも姿勢が良いから形もきれいなんだね」など、友だちの良さをたくさん見つけることができた。授業での良さとは違った、友だちの良さを見つけたのができたのは児童にとって大きな財産となったようだ。その成果として、認め合った後の練習では、友だちを信頼して体を預けられたり、体を張って友だちを支えたり、信頼し合う姿が多く見られた。本番では、「今まであれだけがんばったのだから大丈夫だよ」「私が支えるから大丈夫！心配しないで」「がんばろうね」と声をかけ合う姿が多くで見られた。

これらの学び合いから得られた信頼は、その後の学校生活で生かされている。その一つがそれまでなかなかできなかった友だちへのアドバイスだ。「友だちのためにアドバイスをする」。この考えが学年の中で広がっている。また、「〇〇さんは組み立て体操で良いアドバイスをたくさんくれたから、算数が分からない時にも聞いてみよう」など、授業でも生かされてきた。

今回の組み立て体操では、教師側が与えた課題を児童がこなしていく形となったが、今後は自分たちで課題を決め、学び合っていく姿が見られると良いと考える。児童が前に立ち、今日の課題を発表し、練習を進める。そういう児童の姿を今後育てていきたい。

上記のように、何かの場面で互いに学び合い、認め合った集団は、日常生活のいろいろな場面でも学び合い、高め合える集団になると考えられる。今後は学級や学年の枠を超えた集団での活動、特に児童会の「縦割り活動」を通して、学校全体が認め合い、さらには高め合える集団になっていくための働きかけが課題である。そのために、振り返りカードの充実、活動のねらい、グループ構成などを工夫していきたい。学校行事や学校生活、授業、それぞれの場面での「学び合い」が、次の場面で生かされる、そんなつながりのある「学び合い」を展開していきたい。

三村樹里

## (2) 授業実践2 学習発表会の練習を通して

学習発表会が、伝えたいという気持ちを持って、工夫して発表できるものになるとよいと考えた。工夫したり、練習したりする中で楽しさや伝えたいという気持ちを少しでも感じてほしい。そこで、「楽しむこと」「伝えること」を柱にして学習発表会に向けて取り組んだ。3つのポイントを設定した。

- ① グループで意見を出し合い、発表の内容を考える。
- ② 台詞を体全体で表現できるようアドバイスをし合う。
- ③ 発表を聞く人の気持ちになって、分かりやすく伝える工夫を話し合う。

ア. 練習の流れ（\_\_\_\_\_は学び合い）

- ①発表の内容を考える。（台本を作る）

テーマは、総合学習で取り組んできた「中島池の生き物について」に決まった。まず、台本

を作るために、学習発表会で何を伝えたいかを考えることにした。そこで、調べたことをもとに、紹介したい生き物、訴えたいことをグループで話し合い、全体で意見を言い合っ、まとめた。他のグループの意見に賛成や変えた方がよい所などを伝え合った。

②台詞を体全体で表現できるようアドバイスをし合う

台本を全員で確認した後、練習に入った。はじめは、台詞を大きな声でゆっくりと言うことを何度も繰り返した。「手をつけると言いやすいな」「魚の動きをやってみよう」との子どもたちの声から、自分で工夫して動作をつけて言うようにしてみた。「声は出ているけど立っているだけだよ」「手を大きく回すとおもしろいよ」「大きく動くと楽しそうだな」と、友だちの劇を見て、アドバイスし合った。

③わかりやすく伝えるためにどうするか考える

さらに伝えたいことをわかりやすくするために、工夫できることはないかを話し合った。「生き物の名前だけだと、よく分からないよね」「魚の絵を描いて見せると分かりやすいよ」「大きな魚の絵のほうが、みんなびっくりしていいかも」「鳥も大きく描こう」など子どもたちの

たくさんの生き物を紹介したいな。

外来種について発表したい。

野鳥が多く見られるから、野鳥も紹介したいな。



図40 友だちの劇にアドバイス

アイデアが繋がってきた。「どんな生きものがいいかな?」「小さい生きものも入れよう」「中島池が楽しくなるね」。子どもたちが生き物の絵を募集して、その絵に全員で色を塗った。色をぬる時には、図鑑や自分で描いた絵を持ち寄り、「鳥の羽をよーく見ると黒や白だけじゃなくて茶色も入っているよ」と目を皿のようにして図鑑を見て、本物の生きものに近い色を相談しながら塗った。

イ. 成果と課題

学習での学び合いを生かして、学習発表会の話し合いも進めた。そのため、台本づくりでは、自分が考えた意見についてグループで話し合い、たくさんの意見を出すことができた。さらに、全体で他のグループの意見についても良いところなどを出し合った。何を伝えたいかをみんなで考え



図41 生き物の絵ができ上がったよ

ることができた。

台詞についてアドバイスをし合うところでは、場面ごとに分かれて、友だちの発表を見た。そして、良いところや分かりにくいところなどを伝え合った。友だちの発表を見て、思ったことをどんどん話し合っていたが、話し合いが漠然としたものになってしまったため、友だちの発表を見る際の観点をはっきりさせておく必要があると感じた。観点を決め、学び合いや高め合いが深まるようにしたい。

最後に、わかりやすく伝えるために、生き物の絵を見せながら発表することになった。絵が完成し、グループごとに色塗りをした。グループでそれぞれ図鑑を持ち寄り、相談しながら生き物に色を塗った。行事においても、自分たちで考えて、意見を出し合って進めることは、子どもたちが主体的に学ぶことにつながる。そして、指示しなくてもどんどん考えて進めていけるのだと感じた。一人ひとりがこうしよう、こうしたいという意見をもつことができるように、一人での思考の時間を十分にとり、全体で話し合いを進めたいと感じた。また、効果的な学び合いの形態や支援についても考えていきたい。

水野 綾

### (3) 授業実践3 4年生 「花祭り」の取り組みを通して

花祭りとは愛知県奥三河を中心に行われる郷土芸能である。それをアレンジし、「犬北花祭り」として4年生が踊ることになった。篠笛や太鼓の演奏、扇や鈴を持つての踊りがその内容である。

今年で3年目に入り、「4年生になったら花祭りを踊る」ということが定着してきていることを感じる。また上級生が経験しているため、効率よく練習を進めることができるようになった。4年生のすべての子どもが篠笛の演奏と踊りを覚えるが、内容的にとっても難しいものである。5年生の力を借りながら段階的に練習を進めていった。

まず4月に5年生と合同で初練習をした。花祭りは、見てすぐ習得するには困難な踊りである。全体がある一定のレベルに達しなければ、互いに教え合うことも難しい。そこで5年生がマンツーマンで教える形をとった。手取り足取りのきめ細かい指導ができるので、1時間の練習時間で多くの児童が大まかな動きを習得するに至った。しかし、ここではほとんど踊れないような児童も数名おり、十分とはいえない状態で練習が終わった。その後も練習は続いたが、4年生だけで進めることができた。上手に踊れる児童を手本にし、少しずつ周りで確認しながら練習できるようになっていった。

7月になると、犬山夏祭りで踊りを披露するため練習が多く行われるようになった。この頃になると、ほとんどすべての児童が動きを覚えるようになっていた。全体で通してみると出遅れる児童もいたが、すぐに気づき、合わせるこ



図 42 犬山夏祭りで踊りを披露

ともできていた。「〇〇くんが上手だよ」「そこが間違っているよ」などの声も聞こえるようになり、互いに意識しながら取り組んでいる様子が伺えた。

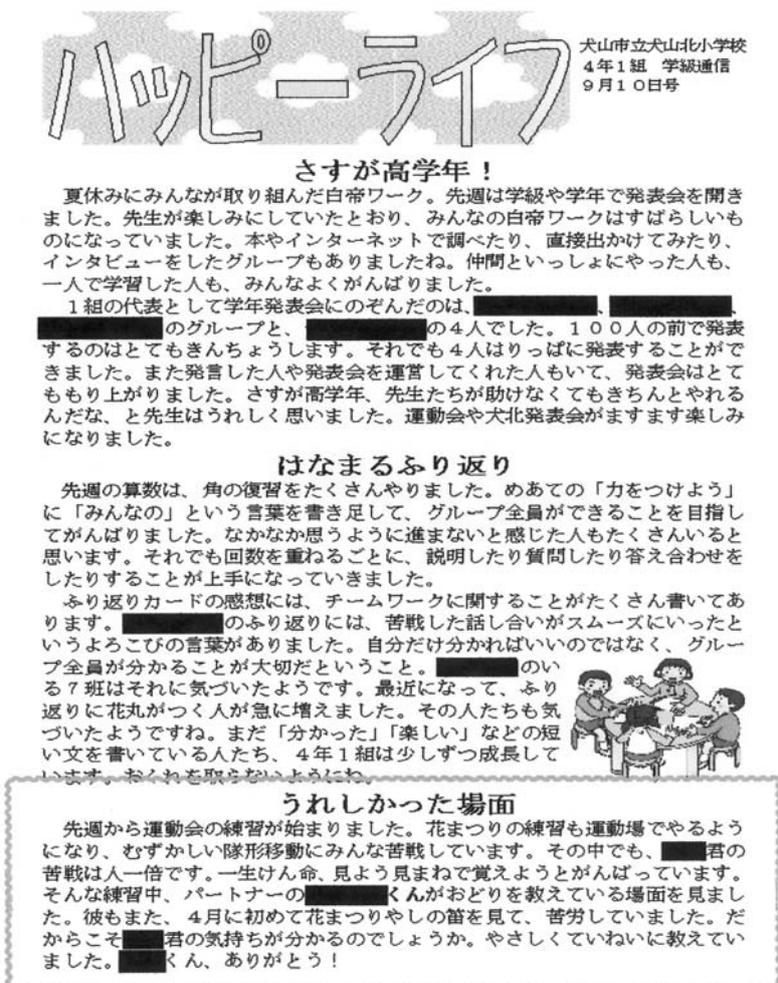
しかし隊形移動という新たな課題が生まれた。太鼓のみが合図となるため、意識を集中させないとうまくいかない。児童は自然と周囲に気を配るようになっていき、それに伴って教え合う場面も多く見られるようになっていった。本番は5年生に篠笛演奏、太鼓演奏をしてもらい、4・5年合同という形で披露することができ、地域行事に花を添えることができた。

夏休みが明け、一人の児童が転入してきた。すでに周りはほとんど踊れる状態で、しかも運動会をすぐに控えた時期であった。個別に指導する必要性も感じていたが、あまり教師が介入せず児童に委ねることにした。花祭りは4人1組となって踊る。そこで、転入生と同じ組になった児童を呼び、踊りを教えてあげるよう声をかけた。またその場面を学級通信(図37)で紹介し、全員が意識をするように働きかけた。同じ組の児童のみならず、多くの児童が彼に教えるようになり、運動会本番では皆と変わらないほどに上達した踊りを披露することができた。

ここまで演奏は5年生がしてきたが、運動会以降は4年生も少しずつ演奏をするようにしていった。篠笛の練習は踊りの練習と平行して継続してきたので、巧拙はあるがほとんどの児童ができるようになっていた。そこで太鼓演奏の練習を希望者ではじめ、4年生だけで演舞する準備を

していった。これからは篠笛と太鼓を自分たちで演奏するんだという自覚が芽生えたようで、篠笛の練習にも一層が熱が入っているようだった。さらに役割を増やしていき、学習発表会や市音楽会に向けて分担を細かくしていった。最終的には、踊り、篠笛、太鼓数種、劇、歌、踊りの掛け声といった担当を作った。児童にはそれぞれの得意な部分で力を発揮するように、声をかけたり学級通信で意識付けをしたりした。オーディションで決まるものもあったため、希望の叶わなかった児童も多数出たが、気持ちを切らすことなく取り組んでいった。

学習発表会を前にして、花祭りの伝統を引き継いでいる小学校と交流する場を設ける



犬山市立犬山北小学校  
4年1組 学級通信  
9月10日号

## ハッピーライフ

### さすが高学年!

夏休みにみんなが取り組んだ白帝ワーク。先週は学級や学年で発表会を開きました。先生が楽しみにしていたとおり、みんなの白帝ワークはすばらしいものになっていました。本やインターネットで調べたり、直接出かけてみたり、インタビューをしたグループもありましたね。仲間といっしょにやった人も、一人で学習した人も、みんなよくがんばりました。

1組の代表として学年発表会にのぞんだのは、[ ]、[ ]、[ ]のグループと、[ ]の4人でした。100人の前で発表するのはとてもきんちょうします。それでも4人はりっぱに発表することができました。また発言した人や発表会を運営してくれた人もいて、発表会はとても盛り上がりました。さすが高学年、先生たちが助けなくてもきちんとやれるんだな、と先生はうれしく思いました。運動会や犬北発表会がますます楽しみになりました。

### はなまるふり返り

先週の算数は、角の復習をたくさんやりました。めあての「力をつけよう」に「みんなの」という言葉を書き足して、グループ全員ができることを目指してがんばりました。なかなか思うように進まないと感じた人もたくさんいると思います。それでも回数を重ねるごとに、説明したり質問したり答え合わせをしたりすることが上手になっていきました。

ふり返りカードの感想には、チームワークに関することがたくさん書いてあります。[ ]のふり返りには、苦戦した話し合いがスムーズにいったというよさこびの言葉がありました。自分だけ分かればいいのではなく、グループ全員が分かることが大切だということ。[ ]のいる7班はそれに気づいたようです。最近になって、ふり返りに花丸がつく人が急に増えました。その人たちも気づいたようですね。まだ「分かった」「楽しい」などの短い文を書いている人たち、4年1組は少しずつ成長しています。おくれを取らないようにね。

### うれしかった場面

先週から運動会の練習が始まりました。花まつりの練習も運動場でやるようになり、むずかしい隊形移動にみんな苦戦しています。その中でも、[ ]君の苦戦は人一倍です。一生けん命、見よう見まねで覚えようががんばっています。そんな練習中、パートナーの[ ]くんがおどりを教えている場面を見ました。彼もまた、4月に初めて花まつりやしの笛を見て、苦勞していました。だからこそ[ ]君の気持ちが分かるのでしょうか。やさしくていねいに教えていました。[ ]くん、ありがとう!

図43 学級通信による教え合いの報道

ことができた。実際に踊っている映像を取り寄せ、クラス単位で鑑賞した。独自にアレンジして作られた犬北花祭り和本場の踊りはあまりに違い、児童は大変驚いた様子だった。「1年生が踊っているよ」「北小にくらべて静かな踊りだけど迫力がある」「地域の大人に教わっているんだね」など多くの発見をしていたようだ。しかし、自分たちの踊りが伝統を引き継ぎながらも独自性あふれる踊りであることに気づき、改めて踊りの意味を確認することができたようだった。文化交流に強い関心を抱いた児童もいて、新聞記事を持って来て、本場の祭りが衰退していることをみんなに紹介する場面も見られた。学習発表会後は、その時の映像とお礼の手紙を送り、交流を深めた。

春には犬山春祭りへの参加を予定している。希望者のみの参加だが、それが最後の演舞となる。2月に入って、1年間の振り返りと犬山春祭りに向けての思いを作文に書いた。学習発表会と市音楽会が終わり、児童は少し気の抜けたように見えたが、5年生への感謝や積み重ねてきた達成感が多く書かれていた。まとめである犬山春祭りに向けてこれから再び意識付けをしていく。

### 成果と課題

花祭りをはじめて3年目ということで、上級学年との交流もスムーズにできるようになった。6年生に教わった経験をもつ5年生は実に丁寧に踊りを教え、4年生はあっという間に踊れるようになった。また段階的に5年生の応援を減らし、4年生の役割を増やしていったことで、子どもたちは「今回はここまでのことが自分たちだけでできるようになった」というように、上達を実感しながら取り組めたのではないかと思う。

最終的には踊りのほかに、和楽器演奏、踊りの掛け声、劇など多様な役割が揃った。それぞれの得意な部分を生かすように分担し、役割どうしが互いを認め、励まし合うことを意識させた。与えられた役割を全力でやりきろうとする真剣な気持ちが全体から感じられたことは、学び合いの一つの成果といえよう。

また奥三河の小学校と交流する機会が持てたことも、子どもたちに良い影響を与えたと思う。それまで花祭りは「上級生の真似」という意識が強かった。立派な4年生をめざす上でその意識が欠かせない時期もあったが、十分に踊れるようになると子どもたちは無意識的に淡々と踊るようになり、飽きを感じられるようになっていた。しかし奥三河の小学校で踊られているものを見て、子どもたちは犬北花祭りの独自性に気づき、自分たちだけの踊りを踊っているという意識が芽生えたようであった。外部からの刺激を受けて、さらに活動を深めることができたと思う。

課題としては、第一に教師側の連携を強めることが挙げられる。犬北花祭りの場合、指導は一人の教師が中心となり、その教師にほぼ任せきりの状態で進めてきた。指導する教師の負担は大きくなり、また指導が偏ってしまう。できるだけ多くの教師が携わることで負担を分けたい。また携わる先生がそれぞれの得意分野を指導に生かし、活動の多様化を図ることが重要であろう。

第二に、児童のモチベーションの維持である。同じ活動を一年間続ける際、高い意識で取り組みを継続させることがとても難しい。児童の実態を見て新しい角度から刺激を与えながら、常に新鮮な気持ちで取り組ませる教師側の働きかけが欠かせないと思う。その際、児童間、学級間、学年間、学校間というように学び合いの範囲を広げていくことが望ましい。発信することを常に意識して、外側との双方向的な関わり合いを積極的に設けていくことが、長期間に渡る活動にお

いて重要であることを感じた。

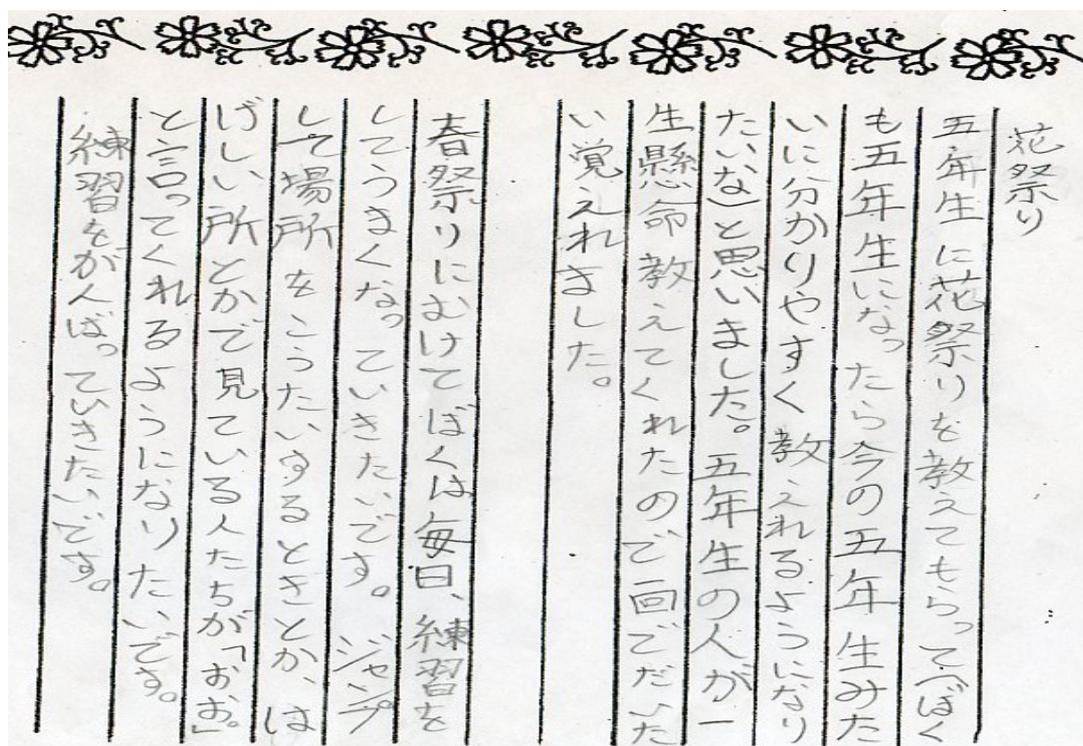


図 44 1年間を振り返った感想

山田敦貴

#### (4) 授業実践4 5年生 城山っ子発表会 「見つめよう！マイライフ」—課題追究発表に向けての取り組み

5年生は、地域とのふれあい活動の一環として、毎年、コミュニティの方と「楽田香り米」作りに取り組んでいる。また、秋の校外学習では、トヨタ自動車の組み立て工場のラインを見学することから、日本が誇る自動車づくりの技術や工夫や大変さなどを肌で感じ取ることができる。このような活動を踏まえて、社会科での「わたしたちの生活と食料生産」「わたしたちの生活と工業生産」の学習とも絡めてタイトルを「見つめよう！マイライフ」とし、さらに深める学習を計画した。

##### 1) 個人テーマ設定とグループづくり

個人テーマづくりに当たっては、今までの学習を振り返り、さらに学習を深めたい分野からテーマを絞っていった。

その後、似ているテーマや近いテーマの子どもを5~6人のグループにし、追究テーマを決定した。学年解体でのグループ構成であったため、あまりよく知らない者同士で「テーマ、どうする？」

| 5年生 城山っ子発表会 計画                |                                                                |                         |                     |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------|
| 日 時：11月23日(金) AM 9:00~10:00   |                                                                | テーマ別学習発表会               |                     |
| 10:00~10:15                   |                                                                | 準備                      |                     |
| 10:15~10:45                   |                                                                | 香り米感謝の会                 |                     |
| 【当日までの取り組み】                   |                                                                |                         |                     |
| 日程                            | 内 容                                                            | 実行委員                    | 備 考                 |
| 10/1~10/5                     | 個々のテーマ設定                                                       | 学年スローガ<br>ン決定           | 10/5 前期終業式          |
| 10/3(水) ⑤⑥総合                  | 4クラス合同(日程説明・調べ学習につ<br>いて) 体育館→テーマ設定(教室)                        |                         |                     |
| 10/11~10/12                   |                                                                | 学年スローガ<br>ン作成           | 10/11 後期始業<br>式     |
| 10/12(金) ⑤⑥総合                 | テーマ別グループ決定(教室)                                                 |                         |                     |
| 10/15~10/19                   | 調べ学習 発表教室                                                      | 担当教室決定<br>準備期間の仕<br>事実行 | 調理実習                |
| 10/17(水) ⑤⑥総合                 | 4クラス合同(調べ学習)<br>図書室：⑤農業 ⑥工業<br>コンピュータ室：⑤工業 ⑥農業                 |                         |                     |
| 10/18 授業参観<br>10/19 就学時健<br>診 |                                                                |                         |                     |
| 10/22~10/26                   | 調べ学習 発表教室                                                      | ↓                       | 10/22 稲刈り           |
| 10/24(水) ⑤⑥総合                 | トヨタ工場見学事前指導(?)<br>調べ学習 図書室：⑤工業 ⑥農業<br>コンピュータ室：⑤農業 ⑥工業          |                         |                     |
| 10/25(木) 1日                   | トヨタ工場見学                                                        |                         |                     |
| 10/26(金) ⑤⑥総合                 | エコカー説明(環境課) 体育館                                                |                         |                     |
| 10/24 工場見学                    |                                                                |                         |                     |
| 10/29~11/2                    | 調べ学習 発表教室                                                      | ↓                       | 10/31 脱穀(?)         |
| 10/31(水) ⑤⑥総合                 | 4クラス合同(発表準備に向けて・調べ<br>学習まとめ)<br>図書室：⑤農業 ⑥工業<br>コンピュータ室：⑤工業 ⑥農業 |                         |                     |
| 11/1 学校訪問<br>11/2 授業改善交<br>流会 |                                                                |                         |                     |
| 11/5~11/9                     | 発表準備(原稿作り・準備物作製) 発表<br>教室                                      | 司会・進行練習                 | 11/5 芸術鑑賞会<br>招待状書き |
| 11/7(水) ⑤⑥総合                  | 4クラス合同                                                         |                         |                     |
| 11/9(金) ⑤⑥総合                  | 分野別還流会(⑤農業、⑥工業)                                                |                         |                     |
| 11/12~11/16                   | 発表準備(原稿作り・準備物作製) 発表<br>教室                                      | ミニ発表会準<br>備             | 英語学習週間              |
| 11/14(水) ⑤⑥総合                 | 4クラス合同                                                         |                         |                     |
| 11/16(金) ⑤⑥総合                 | ミニ発表会(4年生見学)                                                   | ミニ発表会司<br>会・進行          |                     |
| 11/19~11/22                   | 手直し・最終チェック 発表教室                                                | 最終準備                    | 英語学習週間              |
| 11/21(水) ⑤⑥総合                 | 4クラス合同                                                         |                         |                     |
| 11/23(金)                      | 城山っ子発表会                                                        | 当日の仕事                   |                     |

図 45 城山っ子発表会に向けての計画 配布プリント

「……」と話も進んでいかないグループばかり。テーマすら決定せずに時間ばかりがおして、見切り発車状態であった。

## 2) 分野別還流会をめざして

調べ学習が始まると、パソコンを使い調べたい用語を入力。プリントアウトして調べ上げた気分の子どもたち。しかし、発表会の前に、学年の仲間相互でより充実した発表とするために「分野別還流会」と名づけたグループ単位の交流、助言の機会を設けた。そこで、何をどのように発表していくのかが迫ってくると、ただただ難しくて読むことすらできない言葉を読み上げたり、B紙に書いたものを読み上げていこうとしたり。発表の形ができあがっていない部分に関しては、「今、調べています。紙芝居で発表する予定です」と簡単な内容と発表方法を伝えて逃げたグループがほとんど。当然、見る側の集中力なんてものは全くなくなる状態。「つまらんもん……」「難

しい言葉ばかりで訳が分からん…」など子どもたちの率直なつぶやきがあちらこちらで聞こえてきた。還流会で用いたワークシートは図 46 に示した。

5年生 総合学習 「見つめよう!マイライフ」  
 11月9日(金) 学年還流会 ワークシート  
 5年( )組( )番 名前( )

| グループ名     | テーマ                 | 発表内容                    | 思ったこと                    |
|-----------|---------------------|-------------------------|--------------------------|
| 米の品種②     | 日本の米の品種             | 五年生が食べている米              |                          |
| バイオテクノロジー | バイオテクノロジーでつくられた野菜   | バイオテクノロジーとは?            | 声か小さく「人か」                |
| 米の安全      | 米の安全性と病気            |                         | また、内容は、はなしてはなかった。        |
| 食料関係      | 食料自給率のほんた           | 日本の食料自給率                | 食料自給率のほんたをはなしてはなかった。     |
| 米の歴史②     | 米の歴史                | 稲の伝来について                | 「っか」くおしかった!              |
| 米の品種③     |                     |                         |                          |
| 組み立て工場①   | 自動車とトラックの作り方のちが     | 車ができるまで                 | 絵がかかいてある画用紙少し小さく、みにくかった。 |
| 関連工場①     | 関連工場について            | 関連工場について                | ニュース方式で、「ゲスト」もよんでいた。     |
| エコカー①     | 未来にめざしい車            | エコカーについて                | B紙にまとめて、B紙もみやすかった。       |
| 部品①       | 部品の働き               | 部品の働きについて               | 絵がか書いてあったけど見にくかった。       |
| 世界の車      | 世界の車のメーカー           | 世界の車のメーカーについて           | 画用紙にまとめてあり、みやすかった。       |
| 使いやすい工夫   | しょうかいがある人もある人もつかえる車 | しょうかいがある人もある人もつかえる車について | 声か小さく、「聞こえにくかった」         |
| 日本の自動車工業  | きこえ                 | なかつた                    | 声か小さく「きこえにくかった」          |
| 日本の工業     | 工業せいひんについて          |                         | 「人だ」たけど「声か」でいて、きこえやすかつた。 |

還流会を通して、自分のグループの内容を「見やすく 分かりやすく 楽しく」するためには……

実えん(実物)をしめしなから、発表する。  
 B紙に見やすくまとめる。  
 何をあつた? どんなものを使うの? にインタビューしてみよう!!!  
 おじいさんおばあさん

図 46 還流会ワークシート

しかし、その中で、「楽しそうなニュース風の発表は聞く気になった」「クイズがあるとやる気になる」「絵や図があると分かりやすい」「ペープサートに目がいくね」など、発表方法のちょっとした工夫でよりよい形にできるということがすこしずつかめた子どもたちの様子も見受けることができた。

3) 4年生に「見やすく、分かりやすく、楽しく」伝えるためには一ミニ発表会めざして

発表会のキーワードは「見やすく、分かりやすく、楽しく」。4年生に伝えるためには、自分たちが内容を十分理解し噛み砕くことが必要である。調べたことをすべて話そうとすることに無理があるので、この学習を通して「何を一番伝えたいのか？」を考えさせた。「米作りがいつどこから伝わったのかは、絶対伝えたいよ」「学校の資料室にあった足踏みの脱穀機は発表で使



図 47 還流会を終えての話し合い

いたいね」「自動車工場の人たちの工夫を工場の人になりきって伝えてみよう」。毎回のワークシートからも、発表に向けてのグループの葛藤や、なかなか思うように進まないジレンマなどが書かれるようになった。しかし、終了時刻が近づくと「次の時間までに私はこの道具についてもう一度調べてくるから」「劇に必要な道具を作ってきてね」「原稿の半分は覚えてこよう」と声が飛び交うようになった。「じゃあ、また今度ね!」と活動教室をあとにする子どもたち。学級の枠を超えて、学年全体で子どもたちが多くの刺激を受け成長している姿を垣間見ることができるようになった。



図 48 ミニ発表会の様子

城山っ子発表会 ミニ発表会 ご意見カード

( )グループの発表を見て・・・  
5年( )組( )番 名前( )

|            |                                                          |         |
|------------|----------------------------------------------------------|---------|
| 見やすい       | (図・表・物の工夫)                                               | ◎ ○ △ ▲ |
| 分かりやすい     | (声の大きさ・話し方・内容の工夫)                                        | ◎ ◎ △ ▲ |
| 楽しい        | (発表方法の工夫)                                                | ◎ ○ △ ▲ |
| 良かったよ!     | クイズをわけていて、その時にラッキーを出している。クイズは楽しかったし、クイズは日本地図は、とても見やすかった。 |         |
| ここを直すといいね～ | 1つの表表で1人2人ぐでいいは、かりが話していたので、みんなでもっと話したりするといい。             |         |

図 49 ご意見カード

#### ア. ご意見カードの有効性

ミニ発表会の際、見る側の児童は「ご意見カード」の記入をした。そこでは班の発表の評価と本番までに克服すべき課題を子どもたち同士で考える資料とした。ミニ発表会終了後、それぞれのグループでは「ご意見カード」を見ながら「やっぱりここは何か絵があった方がいいよ」「まだ分かりにくい言葉が多いから、もっと分かるように話さなきゃいかん」「早く原稿を覚えなといかんね～」など、友だちの意見を受け止め、もっとよいものに改良していこうと意欲的に動きは

じめた。「本番までに100回練習する!!」、それが目標となった。

#### イ. 6年生との交流を通して

6年生のプレ発表を見学した。テーマこそ違いますが6年生も課題追究学習を進めている。

そのため、5年生からすると先輩の発表から学ぶことは大いにある。「206班は、地図の中に絵を描いてとても見やすかった」「青塚古墳の模型があって分かりやすかった」「班の人の役割がしっかりしていてぼーっとしている人がいなかった」「パソコンで大事な言葉が出てきてよかった」「しゃべり方が本当のアナウンサーみたいで役になりきっていた」などなどなど……。自分たちの発表にすぐに生かすことができることはやってみよう動きはじめた。

また、翌日には、6年生が5年生の練習を見に来た。本番を見据えての最終練習に入っていたため、6年生も真剣に見入った。「紙に書いてある黄色の文字は見にくいから違う色にしたほうがいいよ」「せっかくのペーパーサートが小さくて見えにくいから大きくしたらどうかな?」「緊張してカチコチだからリラックスして」と心温まる言葉がけをされた。

まずは学級の中での学び合う姿が、学年全体としてクラスの枠を超え学び合う姿に、そして、他学年との交流から学年の枠を超えて学び合う姿へとステップアップしていく様子が伺えた。

#### ウ. 成果と課題

成果として以下の3点が挙げられる。

##### ①学年解体による学び合いの輪の広がり

学年共同体の一員だという子どもの意識が高まり、学級にこだわらず多くの友だちと学習を通して関わることで学び合いの輪が広がり、学校生活の中でも「お〜い。元気だった?」「チョコボラ\*いっしょにやろうよ」(\*自発的なボランティア活動。「ちょっとしたボランティア」。楽田小学校の実践のひとつ)と気軽に声をかけ合う姿が見られるようになった。「ぼくは1組」という学級の枠から抜け出して、「私は5年生」つまり学年共同体のメンバーであるという意識の高まりが感じられるようになった。学び合いの輪が、学級から学年へと確実に広がったと感じられる。



図50 ご意見カードに見入る子どもたち



図51 6年生のプレ発表を見学する子どもたち



図52 6年生からのアドバイス

## ②同じ課題を追究するためのチームワークの確立

個人の課題設定に基づいてグループ編成を行ったため、同じ課題を追究する仲間がいることで自分の調べ学習をもとに話し合う意識がより高まった。「自分はみんなのために」「じゃあ、今度までにこれをやってくるね」「2時間目の休み時間に集まって、やってきたことを見せ合うよ」。このチームワークの確立が、「個での考え」→「みんな（グループ・全体）で考えみんな（グループ・全体）でまとめる」→「個に戻る」という教科での学び合いでも十分発揮されるようになってきた。

## ③学年との交流による学校全体への学び合いの広がり

6年生との交流を通して、「紙に書いてある黄色の文字は見にくいから違う色にしたほうがいいよ」「せっかくのペープサートが小さくて見えにくいから大きくしたらどうかな?」「緊張してカチコチだからリラックスして」などのアドバイスは、教師からの助言よりもはるかに影響力があった。子どもたちはすんなり受け入れ、よりよい発表にしようと改善に取り組むことができた。また、6年生も5年生が見学に来るため、「5年生に分かるように発表するには…」を課題に最後の追い込みを行った。今後は、子どもたちが、ちょっとした場面を設定することにより刺激し合う中で、学び合いの輪をさらに広げ、「ぼく・私は楽田小学校です」と発展し学校を支えていく姿があちらこちらで見られることを期待したい。

一方、課題としては、教師主導から子どもたちの主体性への変換「自分たちで課題を考え、自分たちで解決する」が挙げられる。学校教育の現場では、どうしても一定のルールを敷いてしまいがちである。かといって、「自主」の名目での「放任」になってしまってはいけない。そのためには、常に子どもたちの発する言葉に耳を傾け、より子どもの考えに一致する方向性に導いていかねばならない。ある程度の方向性が定まったならば、後は子どもの力に任せてバックアップする手立てを講じていけばよい。そこで得られた子どもの自信は、次の課題解決へとつながる意欲の源となるからだ。ただ、このさじ加減が、どうも分かりづらい部分であり、頭を悩ませられるところでもある。子どもの力を信じて、子どもに委ねていく場、時間を確保していくことがもっと必要であると感じている。

鈴木早智

## 5 おわりに

4人の若い(?)メンバーでのスタート。テーマ設定の段階から、テーマがあまりにも漠然としすぎて、きちんとそれなりにまとまっていくのかどうか不安要素の方が多かった。「とにかくやってみよう!」のチャレンジ精神(強気?)で、学校も学年もそして、当然、子どもたちも違う中で実践を行った。子どもたちが「どうしたら〜?」という課題を見つけ解決していく中で、子どもたち同士の「魔法の言葉」で認め合い、高め合っていく姿が、教科ではなく特別活動であるからこそ見られる姿が、次々と浮かび上がってきた。今回は実践を積み上げただけに止まり、十分な検証作業にまでは至っていない。今後は、子どもたちの「魔法の言葉」が学校中に広がり飛び交うよう実践を積み上げ、新しい提言につなげていきたい。

## 地域素材を活用することで学ぶ意欲を引き出す

### 犬山の地層とモンキーセンターの活用を通して

鈴木 雅彦（南部中学校）

加藤 佳子（東部中学校）

古市 博之（犬山中学校）

岩田 真代（城東中学校）

#### はじめに

本実践を計画する際に、集まったメンバーがたまたま全員理科であることにありがたさを覚えた。全員理科なら、理科の話にどうしてもなる。「学び合いをどう深めるか」という会の趣旨を気にしながらも、話は理科の話ばかり。この教材のおもしろさは、あの教材をどう教科書の流れに組み込むとより分かりやすくなるのか……、そんな話ばかりで前半戦は過ぎてしまった。テーマもどうしても、理科の教科論に沿ったものになった。もちろん、学びの観点を忘れてはいないつもりである。

この研究会の中で、少々異質な感もするが、この研究は、教材開発に力点をおいてまとめていきたい。

#### 1 主題設定の理由

「教師の仕事は生徒の学び合う姿を引き出すために支援すること」という視点に立ったとき、生徒に対してする仕事はたくさんある。

第1に、生徒は学習に対して、受身になることが多いので、主体性を引き出す工夫が必要である。

第2に、中学生にはよくありがちだが、学習への集中力が欠けている様子がよく見られるので、集中力を引き出すような授業展開を組まなくてはならない。

第3に、実験や観察の本当の意味をわかっていない時があるので、それをよりわかりやすくするべく、生徒の思考に合った学習展開を組まないといけない。

他にももちろん重要な仕事はあるだろうが、生徒が学びに向かうための工夫をどう仕掛けるのかを考えることは非常に大切である。しかし、学び合いを工夫することと同じくらい大切なことは、その伝える内容が生徒にとって魅力的に映るか、重要だと感じることができるかを絶えず検討するという、教材観を磨き上げる必要がある。「おもしろい」と思えば、生徒は主体的になる。

生徒は、教師が気を抜くとすぐに受身になる。以前から生徒の「先生、今日は何をするんですか?」という言葉に疑問を持っていた。この言葉は、先生に対して素直な表現とも取れるが、裏返せば「先生が進める授業は、次どうするかわからないので、何をするか教えてください」とい

う受身の発言ともとれる。教師の指示があるまでずっと座っている。指示があるまで何もしない。おしゃべりを続ける。そんな行動をしていても、教師は認めていることになる。それに対し本当の学び、自ら学ぼうとする姿勢があるならば、「先生、今日の学習はこれですよね」「この部分が分からないので、ぜひこの実験をやらせてください」「この学習は簡単なので、もう少し発展的な内容をお願いします」などという言葉が聞こえてきても良いのではないかと思うのだ。授業だって、時間は決まっているので、時間が来たら先生がいなくとも学習がスタートしていても良いのではないか。そうならないのは生徒の学びが主体的になっていないからだと考える。生徒は学びに対して本来は主体的な存在であるはずである。その主体性を引き出すためにどうすれば良いのか、教師はよく作戦を練らないといけない。

「本物を多く見ることでできる学習」。ここでは、この「本物」をいかに見せるかを大切に学習を計画した。本研究で取り上げる内容は、「大地の変化」と「動物の生活と種類」である。この分野は、実験や観察が少なく、座学が多くなりがちである。

しかし、犬山市は教材の宝庫である。地層は善師野や栗栖、地質学上有名なチャート層が犬山市内にある。世界から研究者が訪れる日本モンキーセンターもある。この素材を教材に生かさない手はない。本物の中の本物である。われわれは、これらを生徒に上手に提示する方法を模索することは、十分な価値があると考えた。

## 2 研究の構想

### (1) 研究の目的

犬山市にある理科教育のための素材を教材までにするには、犬山の教員によって繰り返し検討をして、実践を積み重ねていく必要がある。特に「地層」「木曾川」「モンキーセンター」は、確実に教科書に出てくる内容である。これらの素材を、どのように使うことができるかを考えていくことは、理科が教科書の中にあるものではなく、生徒に「目の前にある事象そのものが科学である」ことに気づかせるのに必要なことであろう。理科離れの一因は、イメージーションの低下だという学者もいる。具体的な事象を肌で感じることでできる体験を多くすることが、必要であろう。

### (2) 研究の仮説

次の仮説を設定した。

仮説:身近な地域の素材を改めて教材として捉え直し、科学的な教材として非常に大切なものと再認識させることで、よりその素材に関心を持ち、理科学習において主体的な態度を引き出すことができるだろう。

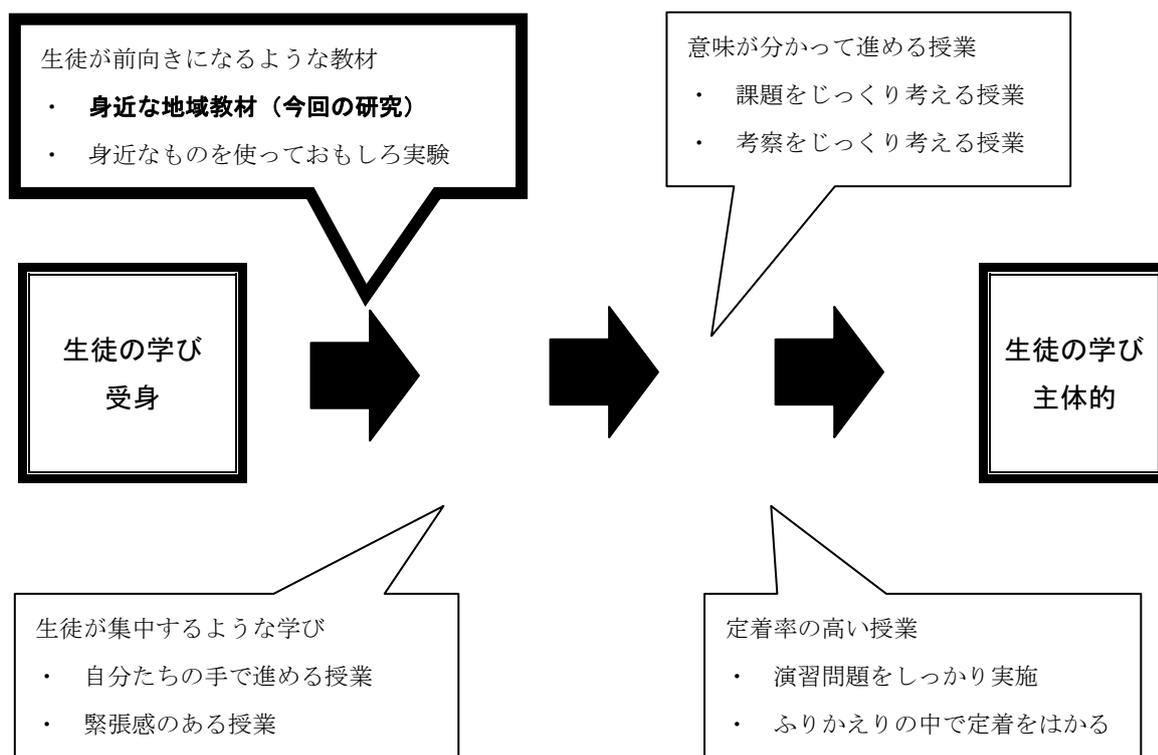
### (3) 研究の方法

本物を見せた方がよいことは、理科の教師でなくとも皆思っているであろう。ただ、それがなかなか実現しないのは、時間的な面、コスト的な面などクリアしなければならないハードルが多くあるからである。今回集まった実践研究のメンバーが属する学校は、それぞれに地の利があり、また、今までの実践の経験もあるなど、実際には実施しやすい好都合なメンバーが集まったので

ある。ただ、現物を生徒に見せるために出かけるだけではなく、どのようにカリキュラムの中に入れ込んでいくかを検討したものを考えて行くのが、今回の研究のメインテーマとなった。

- ①実際に現地へ生徒を連れて行き、本物を見せる
- ②どのように提示すれば、生徒の学びを活性化させることができるのか思考する

#### (4) 構想図



### 3 研究の実際

#### (1) 1年「大地の変化」

地層には、地球上で起こった過去のできごとが記録されている。地層を調べれば、私たちの住む地球の長い歴史を知ることができる。この単元では、地層から地球の歴史を推定できることを学ぶ。

この単元に関する地域素材を犬山で探してみると、犬山城付近で見られるチャート層、善師野（熊野神社）付近で見られる亜炭層など、豊富にあることがわかる。今回は善師野付近の亜炭層を観察に出かけた。



図 53 善師野付近の亜炭層

自分たちの住んでいる場所の地層を観察することで、地層を身近に感じることができる。また地層を調べていくと、犬山は大昔、古瀬戸内の海底だったり、東海湖の湖底だったり、現在と

は大きく違う環境だったことがわかってくる。その意外性はとても興味深く、大地は長い年月をかけて大きく変化しているということも捉えやすいのではないかと考える。

① 1～2 時間目 「地層を観察に行こう」

2 時間続きの授業で自転車に乗り、2 箇所の地層を観察に出かけた。

ア. 善師野防空壕付近で見られる地層

この地層で観察できること

- ・ 1500 万年～2000 万年前の地層
- ・ 層が重なっている様子がよくわかる
- ・ 粒の大きさは小さく、泥岩である
- ・ 黒い層は、その時代の有機物（植物の死骸）が炭化している
- ・ 表面は風化してボロボロになっている
- ・ オニオンストラクチャー（タマネギの皮がめくれるように風化する）が見られる

ここはかなり風化が進んでおり危険なため、地層に近づくことはできず、少し離れたところからの観察になった。はじめに観察のポイントについて話をし、その後スケッチなど記録をする時間をとった。1500～2000 万年前の地層が目の前にあることで、解説にも興味をもって耳を傾けることができた。スケッチ、記録の時間にも生徒同士で話し合ったり、教え合ったりする場面が見られた。

イ. 善師野熊野神社付近で見られる地層

この地層で観察できること

- ・ 1500 万年～2000 万年前の地層
- ・ 粒の大きさは小さく、泥岩である
- ・ メタセコイア、桂化木などの化石が大量に出る

年代は防空壕付近の地層とほぼ同時期だとされている。ここでは層が重なっている様子は観察できないが、化石が大量に出てくる。地層を掘ることは現在禁止されているため、下に落ちている石から化石を探した。自分で石を砕き化石を見つけることで、植物が長い時間をかけて押し固められ、石と化していることが実感できたのではないかと思う。どの生徒も夢中になって化石を探していた。ここで探した化石は持ち帰り、次時に大昔の犬山について考える材料とした。

②3～4 時間目 「地層から昔の犬山を想像しよう」

持ち帰った堆積岩や化石を観察し、それらから何がわかるのかを考えていく。

考えるのに必要な知識は生徒が自ら教科書や参考書を使って調べた。大昔の犬山の環境を考えるとという目的があるため、主体的に調べ学習をすることができた。

最後に、大昔の犬山について考察した。考察する材料としては不十分ではあるけれど、生徒は



図 54 善師野での地層観察



図 55 化石を探す（熊野神社付近）

その限られた材料の中で自分なりの考えを持つことができた。

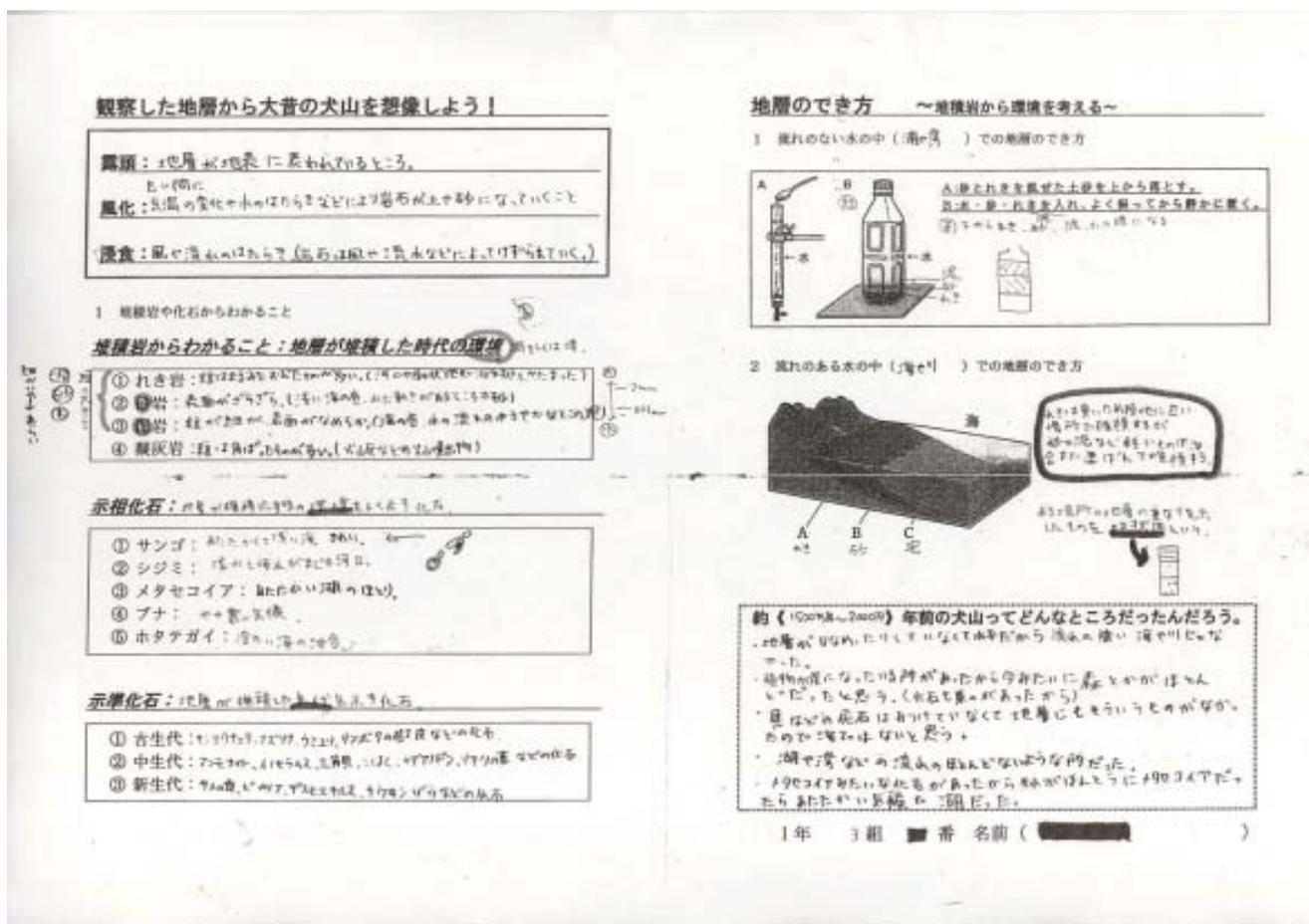


図 56 ワークシート活用例

## (2) 2年 モンキーセンターの活用

夏休み中に実施した。モンキーセンターに12時半に現地集合。13時より開校式、3時間の学習を設定した。開設した講座は、レクチャーは3部門、ガイドツアーは4部門。この中から、生徒は各コース別の一つずつ選んで参加した。もう1時間はワークシートに取り組んだ。

200人の学習をいっぺんに実施するモンキーセンターの職員パワーに助けられた学習となった。

### ア. ワークシート

ワークシートを活用し、4種類の特徴あるサルを観察し、見比べることで、サルの進化について迫った。

- ・手に特徴がある「フクロテナガザル」
- ・足に特徴がある「ワオキツネザル」
- ・尻尾に特徴がある「クモザル」



図 57 犬山モンキーセンター

・目に特徴がある「ヨザル」

これらのサルたちは、共通の祖先から少しずつ形が変わり生き残ってきた動物たちである。それぞれに特長があり、その特長を生かして、様々な環境で生き残ってきたことがわかるようにシートを作成した。

#### イ. ガイドツアー

「サルの食べ物コース」「ロコモーションコース」「生物の多様性コース」「バックヤードツアー」以上の4コースをセット。今年よりモンキーセンターでは、学芸員によるツアーガイドを行っていて、このガイドを犬山中学校バージョンにして頂き、お話を頂いた

「サルの食べ物コース」では、歯のつくりや胃腸のつくり、住んでいる環境にも触れた解説をしていただきながら実施。

「ロコモーションコース」では、クモザルが上手に尻尾を使って体を支える姿を見せてくれたり、フクロテナガザルが雲梯を素早くわたっていく姿を見せてくれた。体の構造のお話をしながら本物の動物が動くので、非常にわかりやすかった。



図 58 観察 1



図 59 観察 2

「生物の多様性コース」では、サルの先祖から進化の過程を話で聞き、実際にサルの特徴を観察した。

#### ウ. レクチャー

「骨から知るサルの分類」「サルの食べ物」「チンパンジーの文化と生態」の3講座を開いていた。チンパンジーと文化の生態では、国語の内容と深く関連している内容となった。

学習が終わったときに、「動物園は学習をする場所でもあると理解できましたか？」と聞いてみると、納得した様子で、勉強になったと答えた。学習内容も、できるだけモンキーセンターで学習できる内容のものを先に学習をして、学芸員とも打ち合わせをした。セキツイ動物、ほ乳類、爬虫類などの分類や生物の進化の足跡などを事前学習することで、学芸員の専門的な話も生徒の腹に落ちるようにした。



図 60 レクチャー

動物の分類、進化について考えを深め、+αで食性や命の大切さなど、様々な面から捉えることができた。

### (3) 3年選択

本校の3年生の選択教科では理科の授業に地域素材を生かそうと、モンキーセンターと連携し授業を進めている。生徒がセンターへ行ったり、学芸員の方に学校へ来ていただいたりして学習を進めている。

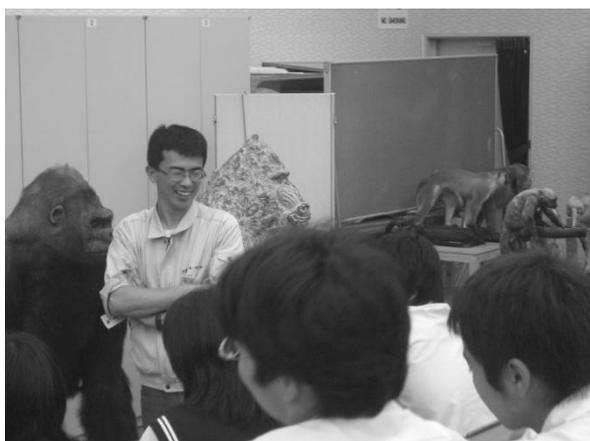


図 61 学芸員との交流



図 62 担当したサルの観察

#### ア. 現地調査

- ・「ヒトとの違いは何か」をテーマにグループごとにサルの種類を分担し、園内でサルの行動観察をした。たとえば、ワオキツネザルとアビシニアコロブスのように1グループに2種類のサルを担当して、観察した。
- ・サルの移動方法を中心に観察した。まず1種類を観察し、観察内容を発表し合ってから、手足の長さや腰の高さ、しっぽの形状などについてよく見て他の6種類のサルも観察した。
- ・まず、サルの顔を見てスケッチした。その後、本物の骨を見せていただき、スケッチした。  
(モンキーセンターで死んだサルはほとんど骨格標本として保存されているそうである。)

#### イ. 出前授業

- ・モンキーセンターの学芸員に来ていただき、野生のチンパンジーについてプレゼンテーションを交えて講義していただいた。
- ・観察のまとめやグループディスカッションのとき、生徒の質問に答えていただいたり、アドバイスをしていただいたりした。
- ・チンパンジーとヒトの骨のレプリカを持ってきていただき、「骨パズル」を指導していただいた。この骨パズルから、ヒトとチンパンジーの違いや骨の形とその働きなどについて考えることができた。(骨パズルとは、バラバラの骨をきちんとした順に並べ直すこと。これにより、それぞれの骨の働きなどがよくわかる。)
- ・サルの移動様式(ロコモーション)について講義していただいた。一口にサルといってもいろいろな種類がいて、移動様式も、樹上四足歩行、地上四足歩行、ナックル歩行など、いろ



図 63 学芸員の出前授業 1



図 64 学芸員の出前授業 2

いろいろなものがあることがわかった。

ウ. その他の学習活動

- ・インターネットを使ってサルの特徴、性質などを調べた。生徒は自分の担当するサルについて住んでいるところ、食べ物などを調べていた。
- ・今まで調べてきたことを文化祭では、展示発表した。グループに1枚ずつ自分たちの担当するサルのことをまとめて発表した。



図 65 インターネットで調べる

4 考察

モンキーセンターや地層など身近な地域素材を教材として取り入れることで、生徒の理科に対する興味・関心を高めることができた。学習後のアンケートからも、8割以上の生徒が、興味関心が高まったと答えている。特にモンキーセンターは、生徒にとって身近な存在であり、楽しいイメージがある場所である。そこでの学習は普段理科に苦手意識を感じている生徒にとっても、

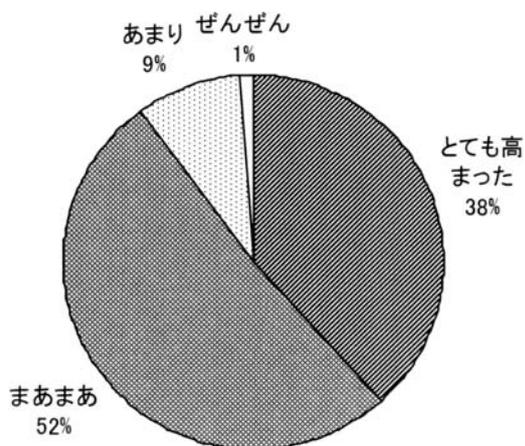


図 66 学習後の生徒の感想—地域素材を教材にすることで、理科に対する興味関心が高まったか

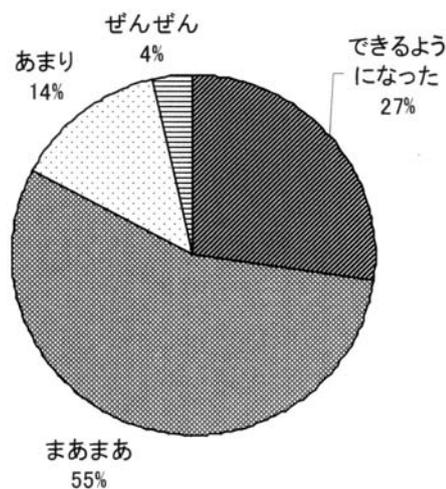


図 67 学習後の生徒の感想—身の回りにある施設や環境を理科と結びつけて見られるようになったか

壁を感じることなく「おもしろそうだな」「やってみようかな」という気持ちで取り組むことができた。そしてモンキーセンターの魅力は楽しいだけでなく、本物のサルや本物の骨など学校ではなかなか準備できない「本物」に触れることができることである。より専門的な知識や経験をもつ学芸員や飼育員の方から教えていただくことで、よりハイレベルな内容にふれ、さらに理科のおもしろさを体験することができた。

また、身近な教材は生徒の興味関心を高めるだけでなく、事後の学習にも大きな影響を与えている。例えば、モンキーセンターでの学習を終えた後、自主的にモンキーセンターに行き、サルの声のCDやビデオをもらって自分で録音した生徒がいたり、地層の学習で、地層や化石の観察結果から、大昔の犬山の様子を考える活動におもしろさを感じる生徒がいたりするなど、その後も意欲的に学習できる生徒が多かった。そして、身近にある施設や環境を理科と結びつけて考えることができるようになった。

#### <生徒の感想>

##### モンキーセンターの学習で印象に残っていること

- ・生物の様々な特徴を観察し、サルについて詳しく知ることができた。
- ・実際にモンキーセンターに行ってチンパンジーを見たり、話を聞いたりして、今まで知らなかったことを知ることができた。
- ・サルの骨を見られたこと。
- ・授業以外で自主的にモンキーセンターに行き、サルの声のCDやビデオをもらって、自分でも録音したこと。
- ・実際にシアマンの声を聞き、鳴くときにのどの袋がふくらむのを見たこと。
- ・1種類のサルを集中して調べたので、サルの頭の良さがよくわかった。
- ・骨パズルをして、ヒトとサルの骨の違いがわかったこと。
- ・サルを間近で見ることができたので、細かなところまで観察できたこと。

##### 地層の学習で印象に残っていること

- ・自分で化石を実際にとったこと。
- ・昔、犬山がどんな所かわかったこと。
- ・地層の中にくっきりと化石が残っていること。
- ・今は山ばかりの犬山が大昔は湖底だったこと。

「本物」に触れたときの感動は強烈な印象として記憶に残る。この経験を積み重ねていくことが、身近な自然に興味をもち、主体的な学びにつながっていくと考える。

今後の課題としては、「お金」と「時間」と「人」をどうやって確保するかである。モンキーセンターに近い学校は自転車で行くこともできるが、そうでない学校はバスや電車で行くことになり、交通費や入園料などは生徒負担になってしまう。そして、現地までの往復の時間を考えると時間割を変更し、理科の授業を2時間続きにするか、学校全体の取り組みとして、長期休業を利用するなど、学年・学校の協力がなければ、現地での十分な時間を確保することができない。そして生徒の安全を確保するためには教師の数も必要になる。さまざまな条件がクリアできないと実際にはなかなか難しい現状である。今後はこれらの課題をいかにクリアし、楽しいだけの授業に終わらないためのカリキュラムの工夫が必要である。

**監修者**

杉江 修治 中京大学教授・博士（教育心理学）  
犬山市教育委員会客員指導主幹  
水谷 茂 犬山市教育委員会指導主事

---

**犬山がめざす学力の追究**

犬山市授業研究会 2007 年度の成果(協同教育実践資料 7)

---

2008 年 10 月 30 日 第 1 刷発行

著 者 犬山市授業研究会

監修者 杉江修治・水谷茂

発 行 日本協同教育学会

〒839-8502 福岡県久留米市御井町 1635

久留米大学文学部 安永悟研究室内

TEL. 0942-43-4411(ext.393)

---

制 作 一粒社出版部（代表 都築延男）

475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130